

中村大橋遺跡発掘調査報告

—— 国道415号道路改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘報告 I ——

2017年

中村大橋遺跡発掘調査報告

—国道415号道路改良事業に伴う
埋蔵文化財発掘報告Ⅰ—

2017年

公益財團法人 富山県文化振興財團
埋 蔵 文 化 財 調 査 事 務 所

序

富山県の西北端に位置する氷見市は富山湾に面した豊かな漁場で知られていますが、背後の山間部は隣接する石川県能登地方と緊密につながった地域でもあります。

一般国道415号は石川県羽咋市を起点とし、富山県氷見市、高岡市、射水市を経由し、富山市に至る幹線道路です。

本書は平成27年度にこの道路の改良事業に先立ち発掘調査を実施した氷見市中村大橋遺跡の成果をまとめたものです。

調査では古代の掘立柱建物が15棟以上みかかり、なかには規模の大きな柱穴をもつ倉庫とみられる建物も含まれています。

遺跡は古代から知られる街道「志乎路」の推定ルートと上庄川に挟まれた場所に立地しており、陸上・水上双方における交通の要衝に営まれた集落です。地の利を活かし古代の流通活動に関与した可能性は高いものとみられ、当地で展開した古代豪族である安努君氏の関連施設であった可能性も考えられます。

この調査成果をとおして、地域の歴史と埋蔵文化財への理解を深めていただければ幸いです。

終わりに、調査にあたってご理解とご協力を賜りました関係機関および関係諸氏に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 富山県文化振興財団
埋 藏 文 化 財 調 査 事 務 所

例　　言

- 1 本書は富山県氷見市中村地内に所在する中村大橋遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は富山県からの委託を受けて、公益財團法人富山県文化振興財團が行った。
本調査の発掘期間と本書刊行までの整理期間は下記のとおりである。
調査期間 平成27（2015）年10月19日～12月22日
整理期間 平成28（2016）年4月1日～平成29（2017）年3月31日
- 3 調査に関する全ての資料、出土遺物は、本書刊行後、富山県埋蔵文化財センターで保管する。
- 4 遺跡の略号は、市町村番号に遺跡名を続け、「05N O」とし、遺物の注記には略号を用いた。
- 5 本書の編集は町田尚美が担当した。本文執筆は第Ⅳ章中世・2 遺構と遺物（2）遺物D木製品を新宅茜、第V章自然科学分析については専門機関に委託し、それ以外を町田が担当した。
- 6 本書で使用している遺構の略号は以下のとおりである。
S B：掘立柱建物 S D：溝・自然流路 S E：井戸 S K：土坑 S P：柱穴
- 7 遺構番号は遺構の種類にかかわらず連番とするが、掘立柱建物には新たに番号を付した。
- 8 本書で示す座標は平面直角座標系第7系（世界測地系）を基準とし、方位はすべて真北、標高は海拔高である。
- 9 挿図の縮尺は下記を基本とし、各図の下に縮尺率を示す。
遺構　掘立柱建物：1/100 井戸・柱穴・土坑・溝：1/40
遺物　土器・陶磁器・土製品：1/4 金属製品：1/3 石製品：1/3 木製品：1/4・1/8・1/12
- 10 土層および遺構埋土、土器胎土の色については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参照した。
- 11 遺物は種類にかかわらず連番を付し、本文・挿図・一覧表・写真図版の遺物番号はすべて一致する。
- 12 遺物のうち黒色土器は遺物番号の横に印●を付す。
- 13 本文・挿図で扱った遺構・遺物は、一覧表に掲載している。遺構一覧・遺物一覧の凡例は以下のとおりである。
 - ①遺構の埋土に切り合い関係がある場合は、備考欄に「新>古」と示す。
 - ②遺構規模の（ ）内は現存長を表す。
 - ③遺物法量の（ ）内は現存長を表す。残存部が少なく計測不能なものは空欄とした。
- 14 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から有益なご教示・ご協力を得た。記して謝意を表したい。（敬称略、五十音順）
池野正男、大野究、新宅輝久、中村由克、廣瀬直樹
氷見市教育委員会、富山県教育委員会、富山県埋蔵文化財センター

目 次

| | |
|--------------|----|
| 第Ⅰ章 調査の経過 | 1 |
| 1 調査に至る経緯 | 1 |
| 2 発掘作業の経過と方法 | 2 |
| 3 整理作業の経過と方法 | 4 |
| 4 調査成果の公開 | 4 |
| 第Ⅱ章 位置と環境 | 5 |
| 1 地理的環境 | 5 |
| 2 歴史的環境 | 5 |
| 第Ⅲ章 古代 | 11 |
| 1 概要 | 11 |
| 2 遺構と遺物 | 11 |
| 第Ⅳ章 中世 | 51 |
| 1 概要 | 51 |
| 2 遺構と遺物 | 51 |
| 第Ⅴ章 自然科学分析 | 73 |
| 1 はじめに | 73 |
| 2 花粉分析 | 73 |
| 3 樹種同定 | 77 |
| 第VI章 総括 | 83 |
| 1 古代 | 83 |
| 2 中世 | 89 |
| 報告書抄録 | |

挿図目次

| | | | | | |
|---------|-------------|-------|---------|---------------|-------|
| 第1図 | 調査位置図・遺跡位置図 | 1 | 第33~38図 | 中世遺構実測図 | 58~63 |
| 第2図 | 調査区割図 | 3 | 第39~44図 | 中世遺物実測図 | 65~70 |
| 第3図 | 層序模式図 | 3 | 第45図 | 花粉化石群集 | 75 |
| 第4図 | 地形図 | 6 | 第46図 | 花粉化石 | 81 |
| 第5図 | 周辺遺跡位置図 | 8 | 第47図 | 木材 | 82 |
| 第6・7図 | 古代遺構全体図 | 17・18 | 第48図 | 掘立柱建物方位・規模 | 83 |
| 第8~23図 | 古代遺構実測図 | 19~34 | 第49・50図 | 中村大橋遺跡 古代変遷図 | 85・86 |
| 第24~30図 | 古代遺物実測図 | 39~45 | 第51図 | 県内古代遺跡 出出土器組成 | 88 |
| 第31・32図 | 中世遺構全体図 | 56・57 | | | |

表目次

| | | | | | |
|------|-----------|-------|------|---------------|-------|
| 第1表 | 既往の調査一覧 | 2 | 第11表 | 古代土器一覧 | 46~50 |
| 第2表 | 調査体制 | 2 | 第12表 | 中世掘立柱建物一覧 | 64 |
| 第3表 | 調査一覧 | 2 | 第13表 | 中世井戸一覧 | 64 |
| 第4表 | 基本層序 | 3 | 第14表 | 中世土坑一覧 | 64 |
| 第5表 | 整理体制 | 4 | 第15表 | 中世溝一覧 | 64 |
| 第6表 | 周辺遺跡一覧 | 9・10 | 第16表 | 中世遺物一覧 | 71・72 |
| 第7表 | 古代掘立柱建物一覧 | 35 | 第17表 | 花粉分析試料一覧 | 73 |
| 第8表 | 古代柱穴一覧 | 36・37 | 第18表 | 花粉分析結果 | 76 |
| 第9表 | 古代土坑一覧 | 38 | 第19表 | 樹種同定結果 | 78 |
| 第10表 | 古代溝一覧 | 38 | 第20表 | 中村大橋遺跡 古代土器組成 | 87 |

写真図版目次

| | | | |
|-------|------------|---------|----------------|
| 図版1 | 航空写真 | 図版10~12 | 須恵器 |
| 図版2 | 遺跡遠景 | 図版13 | 土師器 |
| 図版3 | 全景 | 図版14 | 珠洲 |
| 図版4 | 古代掘立柱建物・柱穴 | 図版15 | 珠洲・瀬戸・中国製白磁 |
| 図版5 | 古代柱穴・土坑 | 図版16 | 鉄滓・金属製品・砥石・羽口・ |
| 図版6 | 古代溝・中世井戸 | 図版17 | 木製品 |
| 図版7 | 中世井戸 | 図版18 | 木製品 |
| 図版8・9 | 須恵器・土師器 | | 井戸側部材 |

第Ⅰ章 調査の経過

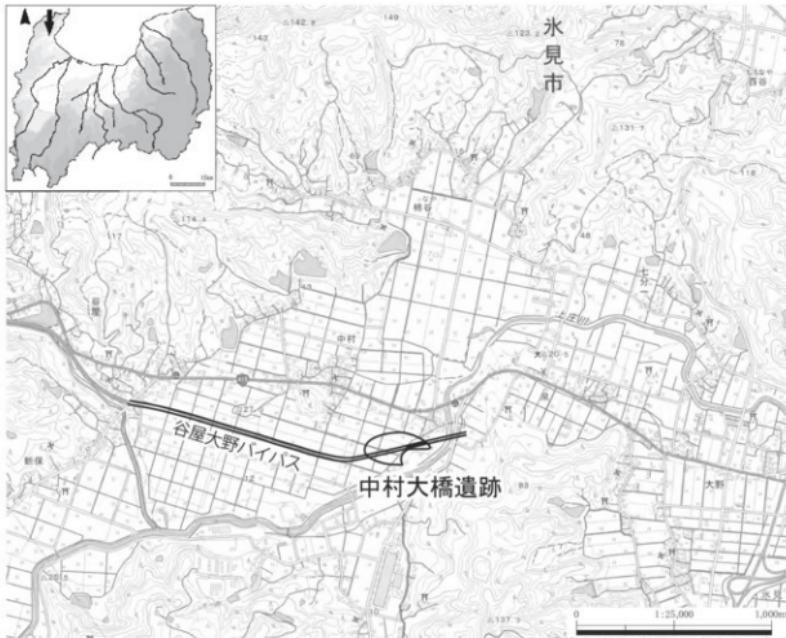
1 調査に至る経緯

(1) 調査の契機

国道415号線は石川県羽咋市を起点とし、富山県氷見市、高岡市、射水市を経由して富山市に至る延長約68kmの幹線道路である。氷見市谷屋地内から大野地内の約4.2kmについては幅員狭小、歩道未整備の解消が望まれていたなか、平成14年11月には谷屋地内で大規模な地すべり災害が発生した。周辺には迂回路がなく地域住民に影響が生じたため、平成20年度から県によるバイパス整備（谷屋大野バイパス）が開始され、平成26年11月には谷屋地内約1.1kmで一部が供用されている。

路線内の埋蔵文化財調査については平成18年3月に氷見市教育委員会（以下、市教委）によって分布調査が行われた。周知の埋蔵文化財包蔵地である泉古墳群・領毛A遺跡に加え、新たに3箇所の散布地が確認され、それぞれ谷屋上ノ江遺跡、天場山南遺跡、中村大橋遺跡として試掘調査の対象となつた。市教委により平成23年・26年には谷屋上ノ江遺跡以下3遺跡の試掘調査が順次進められ、その結果、中村大橋遺跡のみ本発掘調査の必要があると判断された。

試掘調査の終了後、平成26年12月に本発掘調査の実施について県土木部、富山県教育委員会、市教委、公益財団法人富山県文化振興財團が協議し、平成27年度、財團が本調査を受託することとなつた。



第1図 調査位置図・遺跡位置図（1:25,000）

(2) 既往の調査

中村大橋遺跡は、平成18年度、国道415号道路改良事業に先立ち市教委によって実施された分布調査でみつかった。調査対象地の大部分が水田で、西側では過去に大規模な圃場整備が行われている。分布調査では須恵器、珠洲、近世陶磁器等が採集された。

第1表 既往の調査一覧

| 分布調査 | | 試掘調査 | | |
|------|-------|------|-------|----|
| 年度 | 調査主体 | 年度 | 調査主体 | 文献 |
| 平成18 | 永見市教委 | 平成26 | 永見市教委 | 1 |

文献1 水見市教育委員会 2015 「水見市内遺跡発掘調査概報V」

2 発掘調査の経過と方法

(1) 調査の経過と方法

調査と作業工程及びその方法・内容は、平成16（2004）年10月に文化庁から示された『行政目的で行う埋蔵文化財の調査についての標準（報告）』に則って進めた。

発掘調査の基準となるグリッドの設定には平面直角座標系第7系を用いた。座標は世界測地系X 95720, Y -20660を原点に設定し、南北方向をX軸、東西方向をY軸とし、グリッドは2m方眼とした。各グリッドは北東角の座標で呼称した。

第2表 調査体制

| 実施年度 | 統括 | 調査事業担当 | | | | |
|--------|----|----------|----|----------------------|----------------------------|------------|
| | | 所長 岸本 雅敏 | 総務 | 総務課長 松尾 瓦 主査 青山 見 | 調査總括 | 調査課長 島田美佐子 |
| 平成27年度 | | | | | 調査員 主任 新宅 薫 主任 町田 尚美 | |

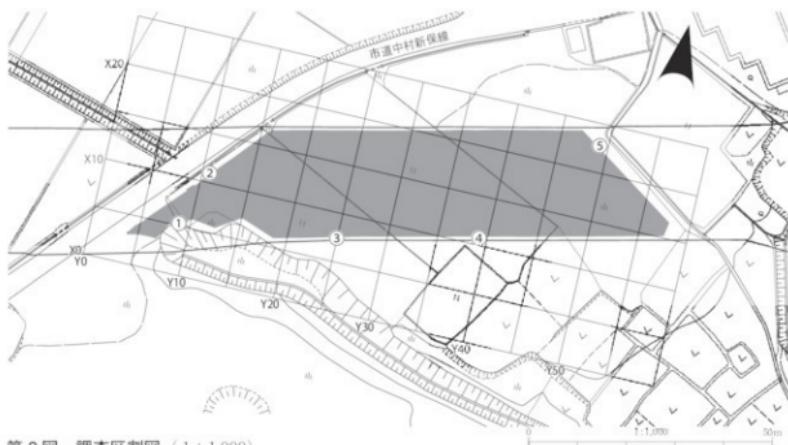
第3表 調査一覧

| 遺跡 | 期間 | 面積(m ²) | 担当者 | 検出遺構 | 出土遺物 |
|------------------|-------------|---------------------|---------------|-------------------|--|
| 中村大橋遺跡 (05NO) | 10.19~12.22 | 2,000 | 新宅 薫 町田 尚美 | 掘立柱建物・ 溝・土坑・井戸 | 須恵器・土師器・珠洲・ 中国製陶磁・瀬戸・鉄滓・ 土製品・木製品 |

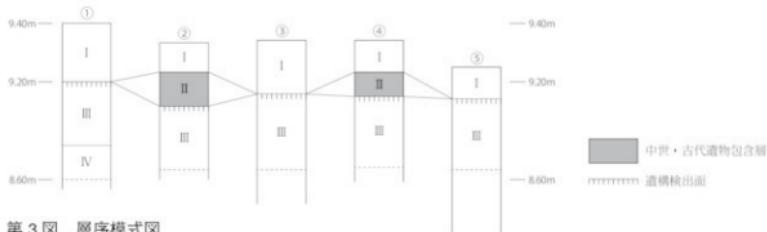
(2) 層序

調査区の現況は水田である。南側に流れる上庄川沿いは廃川地を埋め立て畑地化しているが、川に向かって徐々に傾斜する地形である。また西側にも崖状地形がみられ、遺跡は上庄川の浸食や近世以降の流路改修で影響を受けなかった標高の高い部分にのみ確認できると考えられる。遺跡の標高は約9.2mを測る。

基本層序はⅠ層：耕作土、Ⅱ層：暗褐色粘質土の古代・中世遺物包含層で、層厚は部分によって異なるが、南東側で厚くなる傾向がある。Ⅲ層：暗灰黄色粘質シルトの無遺物層（地山）で、この上面において遺構を検出した。Ⅳ層：灰黄色粘質シルトの無遺物層（地山）は西側の崖状地形部分のみで確認した。



第2図 調査区割図（1:1,000）



第3図 層序模式図

第4表 基本層序

| 基本層 | |
|-----|---------------------------|
| I | 耕作土 |
| II | 中世・古代包含層 10YR3/3暗褐色粘質土 |
| III | 無遺物層 25Y5/2暗灰黄色粘質シルト |
| IV | 無遺物層 25Y6/2灰黄色粘質シルト |

上面：遺構検出面

3 整理作業の経過と方法

出土遺物は埋蔵文化財調査事務所において洗浄・注記・分類を行った。木製品・石製品・金属製品についてはメモ写真を撮影し、整理台帳を作成した。調査概要については『埋蔵文化財年報』(平成27年度)として発刊している。

報告書刊行に向けての本格的な室内整理作業は、平成28年4月に開始し、土器・陶磁器の接合・復元・実測、木製品・石製品・金属製品の実測、遺物の写真撮影、挿図作成、図版作成、自然科学分析、原稿執筆および編集、印刷と校正を行った。

遺物の洗浄・注記・実測は室内整理作業員が行った。遺構実測図および写真は、各台帳を作成して整理し、遺構カードとともにデータベース化した。データ入力は職員が行い、一覧表として報告書に掲載している。遺構・遺物の挿図は業者および派遣オペレーターに委託し、デジタルデータ化を行い印刷原稿とした。遺物の写真撮影は職員が行った。自然科学分析は専門業者に委託し、結果報告を掲載した。

第5表 整理体制

| 実施年度 | 整理事業担当 | | | | | | | |
|--------|--------|----------|----|----------------------|------|-------------------------|-----|----------|
| | 総括 | 所長 岸本 雅敏 | 総務 | 総務課長 松尾 互 主查 青山 晃 | 整理総括 | 調査課長 烏田美佐子 副主幹 田中 道子 | 調査員 | 主任 町田 尚美 |
| 平成28年度 | | | | | | | | |

4 調査成果の公開

平成28年3月13日(日)に県民会館において当事務所が主催した「とやま発掘最前線2nd－平成27年度調査成果報告会－」で「中村大橋遺跡の調査」と題し、調査成果について速報的に発表するとともに須恵器や土師器などの遺物展示を行い、参加者の質問等に対応した。

平成29年2月12日(日)には県埋蔵文化財センター主催「県民考古学講座」においても調査成果を発表した。

第Ⅱ章 位置と環境

1 地理的環境

氷見市は富山県の西北端で、能登半島の東側基部に位置する。東は富山湾に面し、ほか三方を石動丘陵、宝達丘陵、二上丘陵に囲まれ、石川県能登地域とは宝達丘陵を隔て隣接している。氷見地域の地形は丘陵、台地、平野、砂丘、潟埋積平野、谷平野に区分されるが、市域の約8割は丘陵が占める。この丘陵には泥岩が広く分布しており、地すべりの多発地帯でもあることから山間では被害が繰り返されてきた。

市の北半は宇波川、阿尾川、余川川、上庄川などの小規模な河川とその支流によって形成された開析谷があり、小さな平野が開発されている。市の南半には仏生寺川とその支流によって開析された十三谷と呼ばれる谷底平野と、かつての潟湖が埋積した氷見平野が広がっており、万葉集の時代には「布施の水海」や「布施の丸山」と呼ばれた風光明媚な地形が微かな面影を残している。

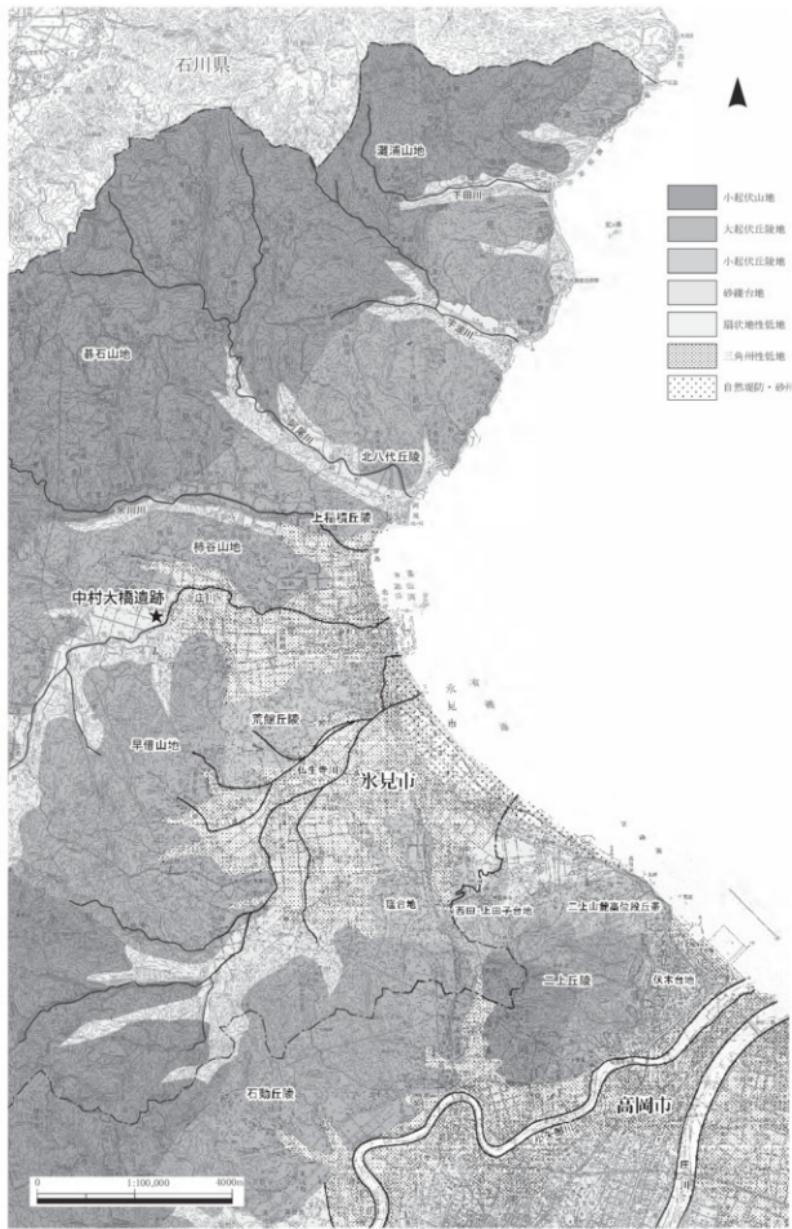
中村大橋遺跡は市南西端の大釜山に源流を発する上庄川の中流域に位置する。上庄川はその長さ、流域面積とも市内最大の河川で、遺跡の位置する中流域には安定した平野が開けている。遺跡は上庄川が北へと蛇行する左岸に位置し、標高は約9.2m程度である。周辺には水田が広がるが、南西側に接する低地はかつての上庄川廃川地であり、現在はおもに畑地として利用されている。また、上庄川下流左岸にはかつて小規模な潟湖（加納潟）が存在したと推定されているが、干拓が進んだ現在はすべて水田となっている。

2 歴史的環境

中村大橋遺跡の位置する上庄川流域を中心として時代ごとに概観する。

縄文時代から弥生時代にかけて、上流の丘陵部および下流域では遺跡が散在しているものの中流域についてはほぼ未確認である。縄文時代前期の海進ピーク時には海面は現在よりも5~6m高く、谷筋には海水が進入していたと考えられ、中村地内においても層状をなす貝化石が確認された場所がある。一方、沿岸部では砂州が発達し、のちに「布施の水海」と呼ばれる内海が形成されたのもこの時期である。縄文時後期以降の寒冷化による海退の結果、弥生時代には下流域で比較的安定した平野が開け、鞍川中A・B遺跡(88・90)、鞍川E遺跡(94)、朝日貝塚(96)、岩上遺跡(97)のはか複数の遺跡が確認されている。また上流域にも終末期の集落跡である小久米A遺跡(136)が存在するが、中流域では遺跡が未確認である。

古墳時代に入ると中下流域を望む丘陵上には多数の古墳が継続して築かれるようになり、市内で最も古墳が集中する地域となる。中村周辺においても独立丘陵上に築かれた前方後円墳と考えられる中村天場山古墳(3)、上庄川流域で数、規模ともに最大の古墳群として早くから知られてきた泉古墳群(52)、短甲や鉄刀などの武器・武具が出土したイヨダノヤマ古墳群(24)など、古墳時代前期から後期にかけての古墳が多数確認されている。また、後期以降も丘陵裾には新保横穴群(19)や中村横穴群(4)をはじめとする横穴群が築かれ続けており、上庄川流域が古墳時代を通して権力者の統治下にあったことを示している。

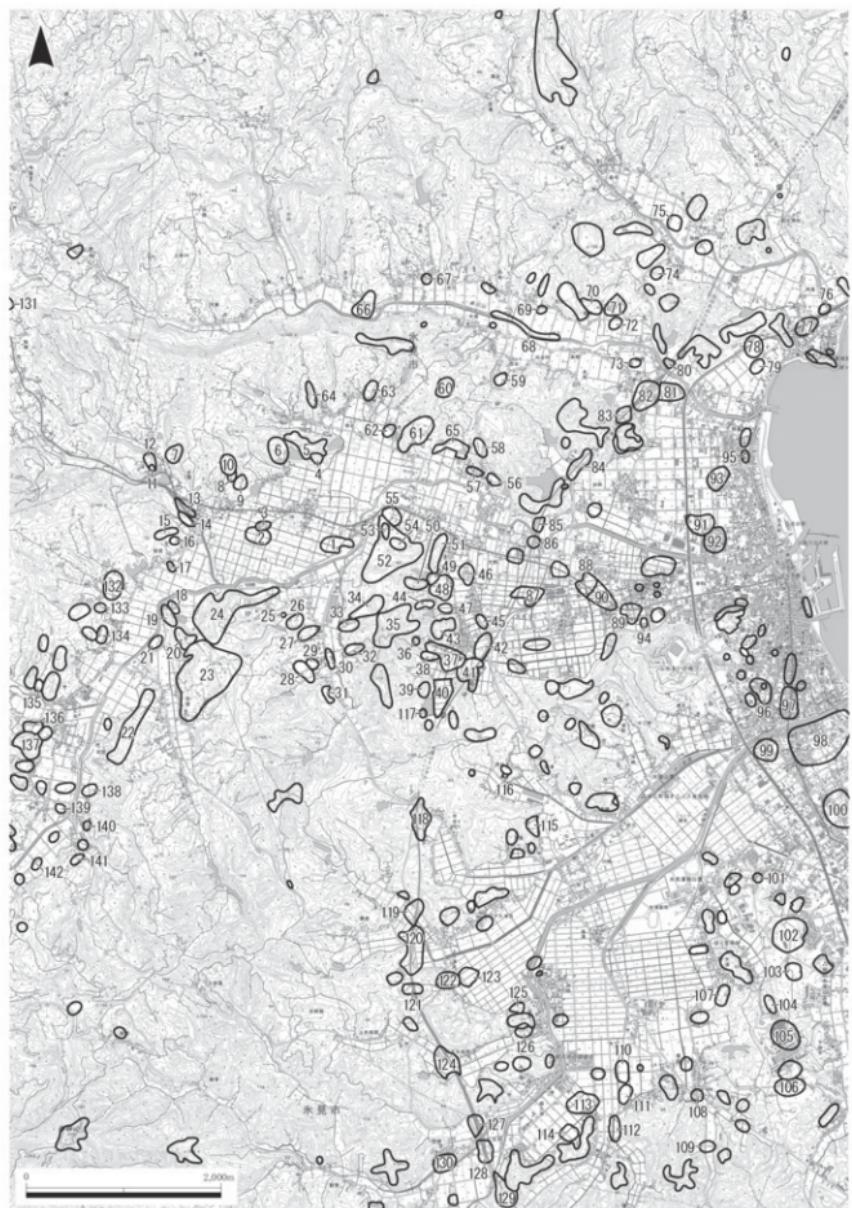


第4図 地形図 (1:100,000)
国土地理院 2002『1:50,000地形図 赤ヶ島、水見、石動、豊土』を元に、経済企画庁 1970『地形分類図 水見、赤ヶ島、石動、豊山』を合成して作成

古代にも流域には遺跡が広く分布することから、引き続き開発の盛んな地域であったことがうかがえる。上流域には小久米矢ノ谷内遺跡、中流域には新保南遺跡(18)、新保野際遺跡(17)、下流域には大野中遺跡(86)、鞍川D遺跡(89)など複数の遺跡が水見と能登をつなぐルート「之乎路」沿いに点在する。この道は奈良時代の越中国守大伴家持が能登巡査の際にも通った経路とも考えられている。また、上庄川平野は『和名類聚抄』で射水郡の十郷のひとつ、阿努郷に比定されており、平安時代中期には越中權守源家賢の私領「阿努庄」として成立し、12世紀中頃には浜間家近衛家領となった大規模な庄地であったことが古記録により確認できる。さらに小窪地区には古代寺院である小窪廃寺跡(132)があり、その南西には創建時に瓦を供給した瓦専用窯とみられる小窪瓦窯跡(133)が位置し、付近では7世紀末から8世紀初頭の平瓦や丸瓦が確認されている。小窪廃寺の発見に際しては、小窪地内の通称「塔のスマ」で発見され、小久米神社境内へと運ばれた「イボ石」の存在がある。これは昭和41年の調査で古代の塔心礎であることが明らかとなり、由来する小窪地内からは土地改良事業の際に、大量の布目瓦が出土したことが明らかとなった。さらに通称「塔のスマ」の場所にはコの字形に廻る低地があったとも伝えられることから、この通称が「塔の石場」「塔の島」が転訛したものと推測されている。この心礎の形態・規模から、北陸でも最大規模の五重塔を備えた伽藍配置の存在がうかがえるが、圃場整備による土地改変などにより、近年行われた調査においても明確な遺構等の確認には至っておらず、今後の継続調査が望まれる。こうした古代寺院を造営した背景には在地の有力豪族の存在が考えられる。上庄谷周辺は射水郡の有力豪族である安努君氏が勢力基盤としていたことから、小窪廃寺はその氏寺とする見方が強い。

中世に入ると白ヶ峰往来は源平合戦や承久の乱といった全国規模の内乱において戦場や進軍ルートとして使われたことが『平家物語』や『承久記』といった古記録に見える。なお、周辺には中村城跡(5)、飛滝城跡(12)、新保城跡(14)、小浦城跡(池田城跡)(137)など多くの山城が確認されており、国境近くに立地することから中世全般をとおして軍事的な要所であったと考えられる。また、埋納銭が出土した西朴木フルヤチ遺跡(116)、中尾ガメ山遺跡(117)や、仏教的施設が確認された熊無遺跡(上熊無中世墓)(131)など宗教関連の遺跡も数多く存在することから、周辺一帯は軍事のみならず祭祀的にも要衝であったとみられる。中尾地内にある標高137mの竹里山山頂には千久里城跡(35)が立地し、南北朝時代以降の拠点として使われたと考えられているが、中腹には市指定史跡である竹里山の岩屋堂(36)がある。岩盤を割り抜いて造られた窟の中には、奥壁に龕が穿たれ不動明王が祀られており、古記録や伝承から中世に造られた可能性がある。また同じ中尾地内には泉中尾廃寺跡(37)があり、出土した金銅仏などから古代末期以降と考えられる。

近世の白が峰往来は、江戸幕府の諸国巡見使が通る街道となり「御上使往来」と呼ばれるようになり、越中と能登を結ぶ重要な街道として商人なども利用したことから宿場などが栄えたが、近代に入ると三尾越えの街道が整備されたことから衰退した。



第5図 周辺遺跡位置図 (1/50,000)

第6表 周辺遺跡一覧(1)

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 種類 | 時代 | 遺跡番号 |
|-----|------------------|---------|----------|--------------------|------|
| 1 | 中村大塹道路 | 中村 | 集落 | 古代・中世 | 387 |
| 2 | 天塙山南北道路 | 中村・谷屋 | 散布地 | 古代・近世 | 388 |
| 3 | 中村天塙山古墳群 | 中村字天塙山 | 古墳 | 古墳(前) | 37 |
| 4 | 中村櫻穴群 | 中村 | 櫻穴 | 古代(飛鳥白鳳) | 177 |
| 5 | 中村城跡(中村山城跡) | 中村字栗原山 | 城跡 | 中世(義朝) | 33 |
| 6 | 中村要原古墳群 | 中村字要原 | 古墳 | 古墳(中) | 90 |
| 7 | 谷屋A道路 | 谷屋 | 伝承地(寺庭) | 古代・中世 | 35 |
| 8 | 谷屋B道路 | 谷屋 | 祭祀 | 古墳(後) | 91 |
| 9 | 谷屋C道路 | 谷屋 | 散布地 | 古代 | 141 |
| 10 | 谷屋通古墳群 | 谷屋字丸山 | 古墳 | 古墳(後) | 347 |
| 11 | 谷屋新堂古墳 | 谷屋 | 古墳 | 古墳 | 348 |
| 12 | 鳴尾城跡 | 谷屋 | 城跡 | 中世(義朝) | 338 |
| 13 | 河原上ノ江道路 | 谷屋 | 散布地 | 古代 | 389 |
| 14 | 新保城山古墳群・ 新保城跡 | 新保城ヶ峰 | 古墳 城跡 | 古墳(初)・中世(義朝) | 121 |
| 15 | 新保古墳群 | 新保 | 古墳 | 古墳(初) | 337 |
| 16 | 新保西城跡 | 新保 | 城跡 | 中世 | 336 |
| 17 | 新保野郎道路 | 新保 | 散布地 | 古代・中世 | 370 |
| 18 | 新保横道跡 | 新保字伊尾田 | 集落 | 古代・中世 | 301 |
| 19 | 新保横穴群 | 新保字後山 | 横穴 | 古代(飛鳥白鳳) | 131 |
| 20 | 通川神社古墳群 | 新保・早借 | 古墳 | 古墳 | 364 |
| 21 | 早借サカタ古墳 | 早借 | 散布地 | 中世 | 193 |
| 22 | 早借ヤワタ古墳群 | 早借 | 古墳 | 古墳(初)・後 | 165 |
| 23 | 鳴尾山道路 | 早借 | 寺院 | 中世 | 213 |
| 24 | イヨタノヤマ古墳群 | 上田・新保 | 古墳 | 古墳(中) | 172 |
| 25 | 上田西古墳 | 上田 | 古墳 | 古墳(中)～(後) | 360 |
| 26 | 上田C道路 | 上田 | 散布地 | 古墳(後) | 221 |
| 27 | 上田D道路 | 上田 | 不明 | 古墳 | 222 |
| 28 | 上田E道路 | 上田 | 散布地 | 古代・中世 | 223 |
| 29 | 上田南側道路 | 上田 | 散布地 | 縄文・古墳・古代・中世 | 212 |
| 30 | 上田F道路 | 上田通尾 | 散布地 | 古代 | 258 |
| 31 | 上田G道路 | 上田野谷内 | 散布地 | 中世 | 289 |
| 32 | 上田日道跡 | 上田 | 散布地 | 中世 | 215 |
| 33 | 上田A道路 | 上田 | 散布地 | 古代 | 214 |
| 34 | 上田古墳群 | 上田 | 古墳 | 弥生(末)～古墳(初)・(中) | 330 |
| 35 | 子久里城跡 | 中尾字茅戸 | 城跡 | 中世(南北朝・戰国) | 50 |
| 36 | 竹里山の岩屋堂道路 | 泉字中尾山 | 祭祀 | 中世・近世 | 142 |
| 37 | 泉中尾庵寺跡 | 泉字中尾 | 寺院 | 古代・中世 | 39 |
| 38 | 中尾茅戸古墳群・中根墓 | 中尾 | 古墳・中世墓 | 弥生(末)～古墳(初)・(後)・中世 | 344 |
| 39 | 中尾神子谷内古墳 | 中尾 | 古墳 | 古墳(後) | 345 |
| 40 | 中尾茅戸道路 | 中尾 | 集落 | 弥生・古墳・古代 | 316 |
| 41 | 中尾新保谷内道路 | 中尾字寺尾 | 集落 | 古代・中世 | 49 |
| 42 | 神明北道路 | 中尾 | 集落 | 古代・中世 | 368 |
| 43 | 中尾講崎古墳群 | 中尾 | 古墳 | 古墳(後) | 343 |
| 44 | 中尾吉古墳群 | 中尾 | 古墳 | 弥生(末)～古墳(初) | 342 |
| 45 | 大野町道路 | 大野 | 散布地 | 古代・中世 | 255 |
| 46 | 大野呂道路 | 大野(武) | 散布地 | 縄文・古代 | 211 |
| 47 | 泉B道路 | 泉 | 散布地 | 古墳・古代・中世 | 189 |
| 48 | 泉C道路 | 泉 | 散布地 | 古代 | 256 |
| 49 | 泉A道路 | 泉 | 散布地 | 縄文・古代 | 285 |
| 50 | 泉原内口古墳群 | 泉 | 古墳 | 古墳(後) | 341 |
| 51 | 泉行島古墳群 | 泉 | 古墳・城跡 | 古墳・中世 | 329 |
| 52 | 泉古墳群 | 泉字領毛 | 古墳 | 古墳(中)～後 | 42 |
| 53 | 泉A道路 | 泉字領毛 | 散布地 | 縄文・古墳 | 40 |
| 54 | 泉B道路 | 泉字領毛 | 散布地 | 古墳 | 41 |
| 55 | 泉横山道路 | 泉 | 散布地 | 古代 | 257 |
| 56 | 七分一古墳・古墓 | 七分一 | 古墳・中世墓 | 古墳・中世 | 328 |
| 57 | 七分一B道路 | 七分一 | 散布地 | 古代・中世 | 259 |
| 58 | 七分一道路 | 七分一 | 散布地 | 弥生(後末)・古墳(後) | 101 |
| 59 | 金川寺ヶ谷内道路 | 金川字寺ヶ谷内 | 散布地 | 古代・中世・近世 | 47 |
| 60 | 高瀬道路 | 余田字片堀 | 伝承地(城跡) | 中世 | 18 |
| 61 | 柿谷上谷山古墳群 | 柿谷 | 古墳 | 古墳(中)～後 | 216 |
| 62 | 柿谷大口道路 | 柿谷 | 散布地 | 中世 | 191 |
| 63 | 柿谷椎木出道路 | 柿谷 | 製鉄 | 不明 | 156 |
| 64 | 柿谷石戸谷内古墳群 | 柿谷 | 古墳 | 古墳(中)～(後) | 353 |
| 65 | 七分一古大門道路 | 七分一 | 散布地 | 古代 | 395 |
| 66 | 劍川赤谷道路 | 金田字谷 | 散布地 | 古代・中世 | 119 |
| 67 | 金田谷村道路 | 金田谷村 | 散布地 | 古代・中世 | 123 |
| 68 | 金田川河床道路 | 金田 | 散布地 | 縄文・古墳・古代・中世 | 118 |
| 69 | 金田海老田道路 | 金田字松木 | 散布地 | 古代 | 103 |
| 70 | 金田巻ヶ谷内道路 | 金田字巻ヶ谷内 | 散布地 | 古代 | 102 |
| 71 | 福横後池道路 | 福横西ヶ谷内 | 散布地 | 縄文(前)・古代・中世 | 90 |
| 72 | 福横西ヶ谷内道路 | 福横西ヶ谷内 | 散布地 | 古代(奈良・平安)・中世 | 70 |

第6表 周辺遺跡一覧(2)

| No. | 遺跡名 | 所在地 | 種類 | 時代 | 遺跡番号 |
|-----|--------------|--------------|--------|-------------------------|------|
| 73 | 福横前田遺跡 | 福横字前田 | 散布地 | 弥生・古代・中世 | 99 |
| 74 | 指崎内山遺跡 | 指崎 | 散布地 | 古墳・中世・近世 | 297 |
| 75 | 指崎五反田遺跡 | 指崎字五反田 | 散布地 | 古代 | 105 |
| 76 | 阿尾島尾目遺跡 | 阿尾字島尾 | 散布地 | 縄文・古代・中世・近世 | 182 |
| 77 | 阿尾島尾八道跡 | 阿尾字島尾 | 集落 | 縄文・古墳・古代・中世・近世 | 181 |
| 78 | 阿尾島田八道跡 | 阿尾字島田 | 集落 | 縄文(後・晩)・古代・中世 | 88 |
| 79 | 阿尾島田八道跡 | 阿尾字島田 | 散布地 | 縄文・古代・中世 | 110 |
| 80 | 福横オヤマ山遺跡 | 福横 | 集落 | 古代・中世 | 366 |
| 81 | 福横川口遺跡 | 福横 | 散布地 | 古墳・古代 | 260 |
| 82 | 福横大坂北遺跡 | 福横 | 集落 | 古代・中世・近世 | 375 |
| 83 | 福横天坂遺跡 | 福横 | 集落 | 古代・中世・近世 | 374 |
| 84 | 加納谷内遺跡 | 加納 | 集落 | 縄文・古代・中世・近世 | 373 |
| 85 | 七分一堂口遺跡 | 七分一 | 集落 | 古墳・古代 | 372 |
| 86 | 大野中道跡 | 大野 | 集落 | 古代 | 371 |
| 87 | 大野江瀬遺跡 | 中尾・飯田・大野新・大野 | 集落 | 弥生・古墳・古代・中世・近世 | 317 |
| 88 | 鶴川中A道跡 | 鶴川字中・大野新 | 散布地 | 古代・中世・近世 | 308 |
| 89 | 鶴川口遺跡 | 鶴川 | 集落 | 古代・中世 | 290 |
| 90 | 鶴川中B道跡 | 鶴川字中 | 集落 | 弥生・古代・中世・近世 | 354 |
| 91 | 鶴野B道跡 | 測詣野 | 散布地 | 古代・中世 | 108 |
| 92 | 鶴野A道跡 | 測詣野 | 散布地 | 古代 | 107 |
| 93 | 加納古宮遺跡 | 柴町 | 散布地 | 古代・中世 | 109 |
| 94 | 鶴長道跡 | 鶴川 | 散布地 | 弥生・古墳 | 394 |
| 95 | 福横二屋野遺跡 | 柴町 | 散布地 | 古代・中世 | 39 |
| 96 | 朝日貝塚 | 朝日丘 | 貝塚・集落 | 縄文(中・後・晩)・弥生(中・後)・古墳(後) | 56 |
| 97 | 岩上遺跡 | 伊勢大瀬・本町 | 散布地 | 古代・中世・近世 | 57 |
| 98 | 佐久道跡 | 度 | 散布地 | 弥生・古代・中世・近世 | 236 |
| 99 | 十二所磨杵水機場遺跡 | 度 | 散布地 | 縄文(前・晩)・古代 | 115 |
| 100 | 松田山北道跡 | 度・柳田 | 散布地 | 縄文・弥生・古代・中世 | 237 |
| 101 | 園カシデ窓跡 | 園カシデ | 窓 | 古墳(後) | 151 |
| 102 | 柳田山尾山道跡 | 柳田・瀬・大浦 | 散布地 | 縄文・近世 | 231 |
| 103 | 上ノ西面道 | 上原 | 散布地 | 古代 | 243 |
| 104 | 大浦深糠遺跡 | 大浦字深糠 | 散布地 | 古代・近世 | 226 |
| 105 | 四ノ坂遺跡 | 下田字子四十坂 | 集落 | 縄文(中・後)・古墳・古代 | 81 |
| 106 | 田ノ道跡 | 下田字子坂 | 散布地 | 縄文(中・後)・古代 | 83 |
| 107 | 鶴田サカイ道跡 | 鶴田 | 散布地 | 弥生・古代・中世・近世 | 244 |
| 108 | 鶴田大久前道跡 | 鶴田字大久前 | 散布地 | 古墳・中世 | 78 |
| 109 | 鶴田ワタリウエ道跡 | 鶴田字ワタリウエ | 散布地 | 古墳・中世 | 86 |
| 110 | 神代羽通道跡 | 神代字羽通 | 散布地 | 縄文・近世 | 74 |
| 111 | 石崎道跡 | 石崎 | 散布地 | 古墳・中世 | 125 |
| 112 | 矢方一丁目道跡 | 矢方一丁目 | 散布地 | 弥生(終)・古墳 | 77 |
| 113 | 飯久保ナガモニ道跡 | 飯久保 | 散布地 | 古墳 | 228 |
| 114 | 飯久保山メ下道跡 | 飯久保 | 散布地 | 古代・中世 | 281 |
| 115 | 万尾字二俵目 | 万尾字二俵目 | 散布地 | 弥生(後)・近世 | 63 |
| 116 | 西ノ木フルヤマ道跡 | 西ノ木 | 埋納残 | 中世 | 381 |
| 117 | 中山ガメ山道跡 | 中尾字芦原 | 埋納残 | 中世 | 120 |
| 118 | 中谷内道跡 | 中谷内 | 集落 | 古墳(中・後)・古代・中世・近世 | 274 |
| 119 | 栗原A道跡 | 栗原 | 集落 | 古墳・中世・近世 | 277 |
| 120 | 上久津台中尾山道跡 | 上久津台 | 集落 | 縄文・弥生(後)・古墳・古代・中世 | 315 |
| 121 | N E 1 - 18道跡 | 上久津台 | 散布地 | 縄文・古代・中世 | 314 |
| 122 | 上久津B道跡 | 上久津台 | 散布地 | 縄文・古代 | 113 |
| 123 | 上久津A道跡 | 上久津宇前田 | 散布地 | 古代 | 66 |
| 124 | N E 1 - 17道跡 | 矢田部 | 散布地 | 縄文・近世 | 313 |
| 125 | 深原田道跡 | 深原字前田 | 散布地 | 古墳・中世・近世 | 265 |
| 126 | 深原打越道跡 | 深原 | 散布地 | 古代 | 279 |
| 127 | 豊瀬之前道跡 | 豊瀬 | 集落 | 縄文・弥生(後)・古墳・古代・中世 | 312 |
| 128 | 豊瀬野道跡 | 豊瀬 | 集落 | 古墳(前)・中世 | 311 |
| 129 | 正保寺道跡 | 飯久保・神代 | 散布地・寺院 | 縄文・弥生・古代・中世・近世 | 235 |
| 130 | 豊瀬道跡 | 豊瀬 | 散布地 | 古墳(中)・古代・中世 | 84 |
| 131 | 熊野道跡(上野御中尾墓) | 熊無 | 中世墓 | 中世 | 287 |
| 132 | 小原摩寺跡 | 小原字寺のスマ | 寺院 | 古代 | 94 |
| 133 | 小原丸廻跡 | 小原 | 廻 | 古代 | 44 |
| 134 | 田ノ大畠道跡 | 田ノ江 | 散布地 | 縄文 | 162 |
| 135 | 小久米香畠谷内道跡 | 小久米字香畠谷内 | 散布地 | 古墳・近世 | 34 |
| 136 | 小久米A道跡 | 小久米字御詠平 | 集落 | 縄文・弥生(終)・中世 | 43 |
| 137 | 小浦城跡(池田城跡) | 小久米字鹿田・久日・日詮 | 城跡 | 中世(南北朝・戰國) | 46 |
| 138 | 久日安楽寺道跡 | 久日安楽寺 | 散布地 | 古代 | 157 |
| 139 | 久日桑ノ木道跡 | 久日 | 散布地 | 古代・中世 | 207 |
| 140 | 久日ソウダナ道跡 | 久日 | 散布地 | 古墳・古代 | 206 |
| 141 | 久日朴木道跡 | 久日 | 散布地 | 古代・中世 | 203 |
| 142 | 久日寛地道跡 | 久日寛地 | 散布地 | 古代 | 146 |

第Ⅲ章 古代

1 概要

遺跡の主体となる時期で、掘立柱建物17棟、溝4条、土坑約250基などを検出した。出土遺物から8世紀後半と9世紀半ばに隆盛があったものとみられる。

掘立柱建物は比較的大型の柱穴をもつ総柱構造の建物をはじめ、方位がそろう建物が複数あることから、ある程度の規格性をもった建物群であったと考えられる。上庄川や古代から存在したとされる「志乎路」に隣接する立地は、周辺地域の要衝として申し分ない場所と考えられるが、出土遺物をみると墨書・硯など文字に関する遺物や、石帶などいわゆる威信材や奢侈品とされるものはほぼ欠落しており、集落の性格を判断するための材料が多いとはいえない。

2 遺構と遺物

(1) 遺構

A 掘立柱建物

1号掘立柱建物（SB1、第8図）

調査区東端に位置し、北東隅は調査区外へ続く。桁行3間、梁行2間の南北棟の側柱建物で、面積は約31.2m²を測り、一部でSB2と重複している。方位は北から6.5°東に振る。柱穴の深さにはばらつきがありSP37・89など10cm未満の非常に浅い土坑も含まれるが、桁、梁それぞれの並びが揃うことから同一建物を構成すると判断した。

2号掘立柱建物（SB2、第8図）

調査区東側に位置し、SB1と一部重複している。桁行3間、梁行2間の南北棟とみられるが、北半部については後世の遺構に切られ、確認できなかった柱穴がある。SP2、SP6、SP23は底部が細くすぼむが、柱痕跡と考えられる。建物の方位は4.5°西に振る。

3号掘立柱建物（SB3、第9図）

調査区東側、SB2の西に隣接し、南側は調査区外へ延びる。桁行3間以上、梁行は2間の可能性が高く、方位は2.5°西に振る。桁行は2.0~2.5m間隔で柱が並ぶが、梁行は攪乱等のため不詳である。また、西側の柱列ではSP67を除くすべての柱穴がそれぞれ2基の重複したものである。SP62・63、SP74・75、SP349・350が該当するが、いずれも浅い土坑を切って深い土坑が掘られたような状況を示しており、柱の抜き取りや建替え等に起因するものではないかと考えられる。

4号掘立柱建物（SB4、第10図、図版4）

調査区中央の南寄りに位置する。桁行3間、梁行2間の南北棟で、面積は約41.5m²を測り、方位は7.5°東に振る。桁側の柱穴は長楕円形の平面形で、長径が120~140cmと規模が大きいのに対し、梁行中央の柱穴は南北ともに径40cm程度と極端な差があり、特殊な建物構造であった可能性も考えられる。また、桁行東側の柱列はSB3の西側柱列と同様に2基が重複していることも特徴に挙げられる。なお、SP108・109・115・156・295・336の底面には柱当たりの痕跡がみられるが、柱根を北東寄りに据えたものが多いように見受けられる。

6号掘立柱建物（SB 6、第11・12図、図版4）

調査区のはば中央に位置する。桁行4間、梁行3間の総柱建物で、方位は11.5°東へ振る南北棟である。面積は約86.7m²で、今回の調査で確認した建物のうち最大である。柱穴の平面形は円、楕円、長楕円、方形が混在しており、長径が100cm以上の規模が大半を占める。断面の観察からも、柱を据えた状況の判る例が数多くみられる。東側の柱列にあるSP 182は柱痕跡が明瞭で、一辺130cmの平面方形を呈する柱穴底面中央には、径58cmの柱当たり痕が二段掘り状の窪みとなって残る好例である。このほかSP 190・192・195・369・375・419で柱当たり痕を確認した。

このような大型の柱穴をもつ総柱建物としては高岡市出来田南遺跡にも類例があり、倉庫とされる総柱建物の柱穴で重複の痕跡が確認されている。ただし、管見では県内において4間×3間の総柱建物で、ここまで面積の広い例はないと思われる。面積の広い建物の場合は概して桁行が長じる例が多く、高岡市東木津遺跡などで大型の側柱建物の存在が知られている。SB 6の構造および性格については、周辺地域における今後の資料蓄積をふまえ、慎重に考える必要があろう。

7号掘立柱建物（SB 7、第13図、図版4）

調査区のはば中央でSB 6と重複し、南側は調査区外に延びる。桁行3間以上、梁行3間の側柱建物で、方位はSB 6と同じ11.5°東へ振る南北棟である。柱間の間隔は概ねそろうものの、柱穴の規模は一定ではなく桁行東側の柱穴がやや小ぶりな印象で、特に深さにばらつきがある。SP 367は深さ30cm程度であるが、断面には柱痕跡が残っており、遺構上部が削平されたものと考えられる。

8号掘立柱建物（SB 8、第9図、図版4・5）

調査区の中央南端に位置し、SB 6、SB 7と重なる。桁行2間以上、梁行2間の総柱建物で、方位は1°東に振る。北西隅のSP 306は底面中央に径30cmほどの柱当たり痕がみられる。このほかSP 325でも東隅で柱当たり痕を確認した。

9号掘立柱建物（SB 9、第14図、図版4）

調査区中央でSB 6、SB 10と重なる。桁行3間、梁行2間とみられるが、中世の遺構に切られて不明な部分が多い。南北棟で方位は13.5°東へ振る。柱穴は平面形がほぼ円形で、比較的小さな柱穴で構成される。SP 389は長径66cmで、断面に柱痕跡が明瞭である。

10号掘立柱建物（SB 10、第14・15図、図版4・5）

調査区中央でSB 9、SB 11と重なる。桁行3間、梁行2間の東西棟で、面積は約38.5m²を測り、方位は11°東へ振る。柱穴はほぼ2.5m間隔で配置されている。平面形が方形を呈するものが多く、一辺が80cm以上の規模をもつものがほとんどであるが、梁行中央の柱穴は長径48cmで規模が小さい。また、約半数の柱穴底面には柱当たり痕があり、SP 177・366では東寄り、SP 203・225では南～南西寄り、SP 216では中央でそれぞれ痕跡を確認した。ほかの建物と比べ、この建物の柱穴からは遺物の出土が多くみられ、SP 177・203・216・225・226で特に多い。

11号掘立柱建物（SB 11、第16図、図版4）

調査区中央やや西寄りでSB 10、SB 12と重なる。桁行3間、梁行2間の総柱建物で、面積は約43.5m²を測る。方位は4.5°東に振る南北棟である。柱穴の平面形は楕円形または方形で、径60～80cmの規模をもつ。断面観察からは柱痕跡が明瞭な例も多く、遺構上部が削平されたものと考えられる。なお、柱当たりの痕跡はSP 207・346で中央付近に、SP 373では南西隅に確認できた。

12号掘立柱建物（SB 12、第17図、図版4・5）

調査区中央より西のSD 400をまたぐ位置にあり、東側ではSB 11と重なる。桁行4間、梁行2間で、

面積は約56.8m²を測り、方位は9.5°東へ振る東西棟である。柱穴は2.5m前後の間隔を保つが、遺構の切り合いによって不明な部分もある。柱穴の平面形は円形または楕円形で、断面観察から柱位置を示す痕跡のある例が多い。S P293・372では柱当たりの痕跡を確認した。

13号掘立柱建物（SB13、第15図、図版4）

調査区中央から西寄り、北端に位置する。建物の南東部分のみを確認したものであり、桁行、梁行については不明であるが、柱間距離から梁行2間の南北棟と考えるのが妥当か。断面には柱痕跡が残るものもあり、遺構上部は削平されたものと考えられる。

14号掘立柱建物（SB14、第18図、図版4）

調査区西側でSB15、SB16と重複する。柱間は約2.5mの間隔を保持し、桁行4間、梁行は2間と考えたいが、適合する柱が見当たらないため1間としておく。面積約49.4m²の南北棟で、方位は13°東へ振る。柱穴は径60~80cm台で、平面形は楕円形が多い。断面で柱位置を示す痕跡のある例も多く、S P269では底面に柱当たりの痕跡を確認した。

15号掘立柱建物（SB15、第19図、図版4・5）

調査区西側でSB14、SB16と重複する。桁行4間、梁行2間の南北棟で、面積は約42.5m²を測り、方位は8.5°東へ振る。柱間はほぼ90cm台で、SB14をやや小ぶりにした建物である。柱穴の平面形は円形か楕円形で、その多くは長径40~70cmの規模であるが、唯一S P260のみ、長径100cm超と規模が大きい。断面観察から、遺構上部は削平されたものと考えられる。

16号掘立柱建物（SB16、第19図、図版4）

調査区西側でSB14、SB15と重複する。桁行2間、梁行2間の南北棟で、面積は約24.5m²を測り、方位は2°西へ振る。柱穴の平面形は楕円形で、規模にはばらつきがある。一様に浅いが、S P302では柱当たりの痕跡もみられることから、遺構上部の削平が著しいものと考えられる。

17号掘立柱建物（SB17、第20図）

調査区の西端でSB18と重複する。桁行2間、梁行2間とみられるが、南東隅の柱穴は確認できなかった。また、梁行方向の柱間距離は均一ではない。方位は真北を向く南北棟で、面積は約19m²を測る。柱穴は40~60cm台で、深さは30cmに達しない。周辺の柱穴の多くと同様、遺構上部を削平されたものと考えられる。

18号掘立柱建物（SB18、第20図）

調査区西端でSB17と重なり、西側は調査区外に延びている。桁行4間、梁行3間以上とみられ、方位は11°東へ振る。柱穴の遺構上部は後世の削平によって大きく失われているとみられ、すべての柱穴は深さが20cm台以下で浅く、規模も非常に小ぶりである。唯一、S P414では断面に柱位置の痕跡をみることができる。

B 土坑（第21・22図、図版5）

土坑は250基を検出した。ただし埋土による時期判別が困難であったため、所属時期については古代～中世としたものが多い。

第21図および第22図の1~9については形状や堆積状況などから柱穴の可能性が高いもので、遺構の並びが整わず、建物としては復元できなかった土坑群である。このなかにはSK144、SK215、SK217、SK240、SK345、SK347などのように断面観察から柱根が明瞭に確認できるものもあり、さらにSK345では底面中央で柱当たりの痕跡も確認できた。遺構は上部を削平された影響もあり、

原形を留めているものは限られ、柱穴の可能性があるものとして抽出できなかった土坑も多いと思われる。よって、実際の掘立柱建物の棟数はより多かった可能性が高い。なお、S K363、S K364、S K427は一端がトレンチに掛かっており欠損した部分がある。

第22図10～12は大型の土坑である。S K305は長径136cm、深さ100cmを測り、8世紀後半～9世紀初頭の須恵器（41・42）が出土している。S K356はS D30②の底面で検出した不整形な土坑で、上部はS D30②によって切られている。長径184cmの規模をもつ。S K411は中央が窪む土坑で長径182cm、深さ78cm。S D311に切られる。

C 溝

10号溝（S D10、第23図、図版6）

調査区東側に位置し、調査区北東角から南西に斜めに横切る。幅約60cm、深さ30cmの溝で、断面は逆三角形を呈しており、方位は北から約30°東に振る角度で直行する。均一に掘られた形状からは何らかの区画溝として機能したこと想到起させる。S B4と重複するが、柱穴との直接な切り合いはないため、新旧関係は明確ではない。ただし、溝や掘立柱建物群との方位から関係性を考えると、建物群の出現期もしくはそれ以前に機能した可能性がある。

30②号溝（S D30②、第23図）

調査区中央よりやや東に位置し、南北方向に走る溝で、最大幅144cm、最深38cmを測る。北端は近代の擾乱があり不明である。検出段階では中世の遺構であるS D30が調査区北端でL字に屈曲すると考えていたが、掘削を進めるに従い堆積状況が異なることが判り、S D30②としたものである。溝は中央に向かって緩やかに落ち込む形状であるが、なだらかな斜面を呈する部分もある。溝の方位は調査区中央部で集中する掘立柱建物群と近似し、これらに伴う区画溝ではないかと考えられる。なお、遺構上部については後世の堆積等の影響を受けており、溝の東側肩では幅を広めに検出している可能性がある。中世遺物の混入も少なくない。

31号溝（S D311、第23図）

調査区中央付近で南北に走る溝で、幅48cm、深さ20cmを測る。S D10に似るが全体的に浅い。北端は近代の擾乱により不明である。東にはS D30②が並ぶが、この溝の方位はやや東に振っている。S B6の柱穴複数と重複しておりS D311が新しい。

400号溝（S D400、第23図、図版6）

調査区西寄りに位置する。S D311とはほぼ同じ方位で南北方向に造られており、最大幅212cm、最深74cmを測る。検出した溝のなかでは最も規模が大きい。S B12と交差するように重複しているが、建物中央部分の柱穴は溝に切られると考えられることから、S D400が新しい。埋土上位では中世遺物の混入がみられ、埋没時期は不詳である。

(2) 遺物

A 須恵器（第24～29図、図版8～12）

杯、杯蓋、甕、横瓶、壺などがある。

食膳具の割合が高く、貯蔵具は小片のみで全形を知りうる資料は皆無である。なお、古代の土器編年について石川考古学研究会・北陸古代土器研究会編『シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題』（1988）に準拠した。

第24・25図は杯で、1～47、49～51は杯Aである。実測した資料のうち、法量が明らかな個体の計測値から①9.6～11.1cm、②11.6～14.1cm、③15.0～18.2cmの3種に大別され、②が最多である。1～8は厚みのある器壁で、体部が丸みを帯びて立ち上がる。10は小型で体部にはヘラ刻み「×」がある。13～16は体部が直線的に外傾する形態。19、20は口縁端部が外反しており、やや古相を呈する。23は底部が厚みを持つ。24は内面の体部と底部の境界に強いナデを施し、段が出来たもの。25、26、28は深身の器形。31～51は浅身で全体的に薄造りの新しい様相を呈する。このうち48については体部が大きく聞く器形から皿とした。

52～106は杯Bである。これらも杯Aと同様に法量差がみられるが、底部のみの計測不能な資料が多いいため、口径13.2～14.0cmにやや集中が見られる程度であり、明瞭な規格は把握しにくい。52、53は扁平な高台が付き、52はSB10の柱穴から出土している。54はロクロ目が明瞭に残る。56は深身の大型品。57～62は丸みのある浅めの体部から口縁が大きく聞く古めの様相を呈する一群で、特に57、59はシャープな造りである。61は口径17.5cmのやや大型品で、高台は外側に張り出す。80は薄造りの体部で、口縁端部は外反気味。88は体部に棱を持ち、口縁部が外反する棱挽である。90の底部外面には、高台貼り付け前の器面調整と考えられる細かいハケ状の平行線が残る。98は高台内にヘラ刻みがある。

第26図107～141は杯蓋である。杯Bと同じく、全形のわかる資料は少ないが、法量は口径14.7～16.5cmを測るものが多い。また、図化していないが、口縁内面にかえりが付く形態もわずかに出土している。107～111はSD30②から出土した破片資料であるが、共通して口縁端部が屈曲している。110は上面のロクロ目が明瞭である。113は器壁が厚く重量感があり、鉢は宝珠形を呈する。116～119はSD400から出土した。116は無鉢とみられ、口縁端部の屈曲や立ち上がりがない。122、123は天井部が扁平な器形。127は内面に明確な摩耗痕跡があり、唯一の転用硯とみられる。転用の際には、故意に紐頂部を打ち欠いて整形したものとも想定できる。131は上面に糸切り痕がみられ、新しい様相を示す。132は無鉢で口縁端部が小さく屈曲し、薄手でシャープな造りである。133は焼き垂みがあるが、無鉢で非常に扁平な器形である。136は平坦で小さめの頂部から体部が直線的に聞く器形で、口縁端部はわずかに下垂する。外面にはナデが明瞭に残る。

第26～29図142以降は貯蔵具である。

142～146は横瓶で、完形に復元できるものがないが、複数個体が存在したことは判明している。145は胎土が酷似する破片を同一個体として推定復元したもので、閉塞部には同心円状にカキメが施されている。146は大型品だが、器壇は薄めに仕上げられたものである。

147～163、165～179は壺、164は壺蓋である。147は小型壺で、有段の口縁部は端部を上方につまみ上げる。150は小型壺の胴部で、各2条の沈線間にタタキ状の痕がある。152、153は大きく外反した口縁部、広口壺か。157～159は口縁端部を下垂させ、口縁帶が造られたもの。162は壺の肩部で、やや焼成不良である。163は屈曲した胴部。164の壺蓋は、端部がわずかに聞く。165は四耳壺で、耳部の剥離跡が残る。168の底面には杯と壺の小片が重なって熔着しており、壺のタタキ痕が確認できる。169は壺の底部で、接地面には面取りが一巡している。170は胴部下に3条の沈線が巡る。171は胴部に5条1単位の櫛状工具による列点が施されたもの。172～174は双耳瓶で、いずれも耳の付く胴部の一部のみである。176～178は長頸壺の高台部分とみられ、端部は下方へ薄く垂下させる。178は焼成不良であるのか白っぽく、やや軟質である。

180～183、186～194は壺である。182と183は褐色を帯びた胎土が特徴的で、非常に酷似しているこ

とから同一個体の可能性が高い。体部上半部の内面には同心円の当て具痕がみられるが、下半部では平行の当て具痕が重なり、格子目状を呈している。188、189の口縁部に施された波状文、193の下垂した口縁端部は、ともに古相を示すものとみられる。

B 土師器（第29・30図、図版8・9・13）

椀、皿、甕、鍋があり、胎土には赤色粒や海綿骨針を含むものが多くみられる。なお、埋土の性質によるものと思われるが、土と土器表面とが吸着しているため、取り上げの際に土器表面がごとく剥離してしまう場面が多々あった。このため、本来ならば器面にみられる調整の類いはほぼ観察不能となった。また、器厚も原形をとどめておらず、一様に薄いものとなっている。

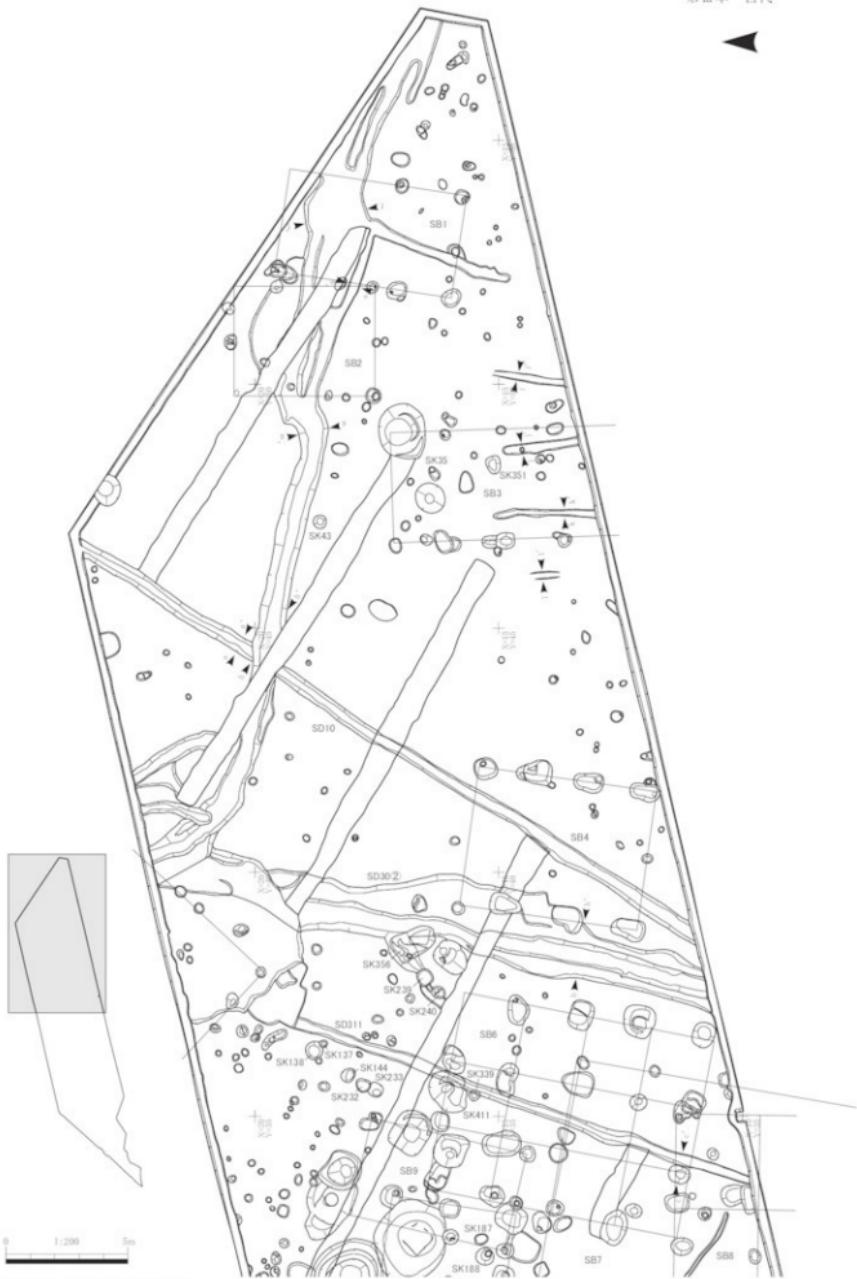
184、185は鍋。184は頸部が緩やかに屈曲し、口縁端部は上方につまみ上げる。185は胴部にカキメ、ケズリがみられる。

195～227は椀で、時期は概ね9世紀後半から10世紀とみられる。底部には糸切り痕があるが、表面の剥離が著しく不明瞭である。195は浅身で体部が直線的に広がる器形である。201はSD30②から出土したやや深身の椀で、比較的厚みのある体部は原形を留めている。199と210は小片であるが、内面に黒色処理が施されたことがわかる資料。213は口縁部周辺に煤痕が残る。

228～234は皿で、無台と有台がある。228、230はともに柱穴から出土したもので、口縁端部が外反する器形である。234は直線的に広がった体部に角張った高台が付けられる。

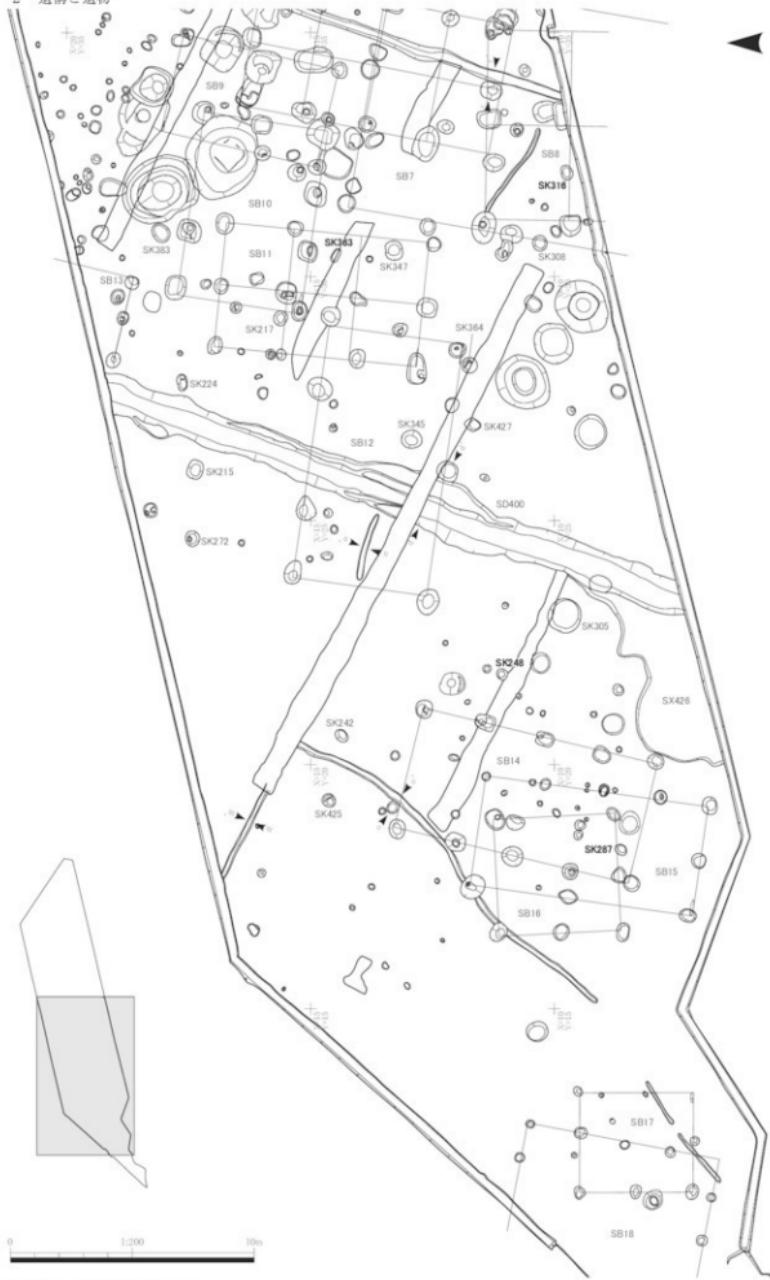
235～237は椀か皿の高台部分である。237は高台裾が外側に開く、やや足高な形態である。

238～245は甕である。238は口縁端部を上方に短くつまみ上げている。240は断面方形の口縁が外反する。242、243は口縁部が肥厚する。244、245は細かいハケ調整や口縁部の器形から8世紀初頭と想定されるが、この他は概ね8世紀後半から9世紀初頭と考えられる。

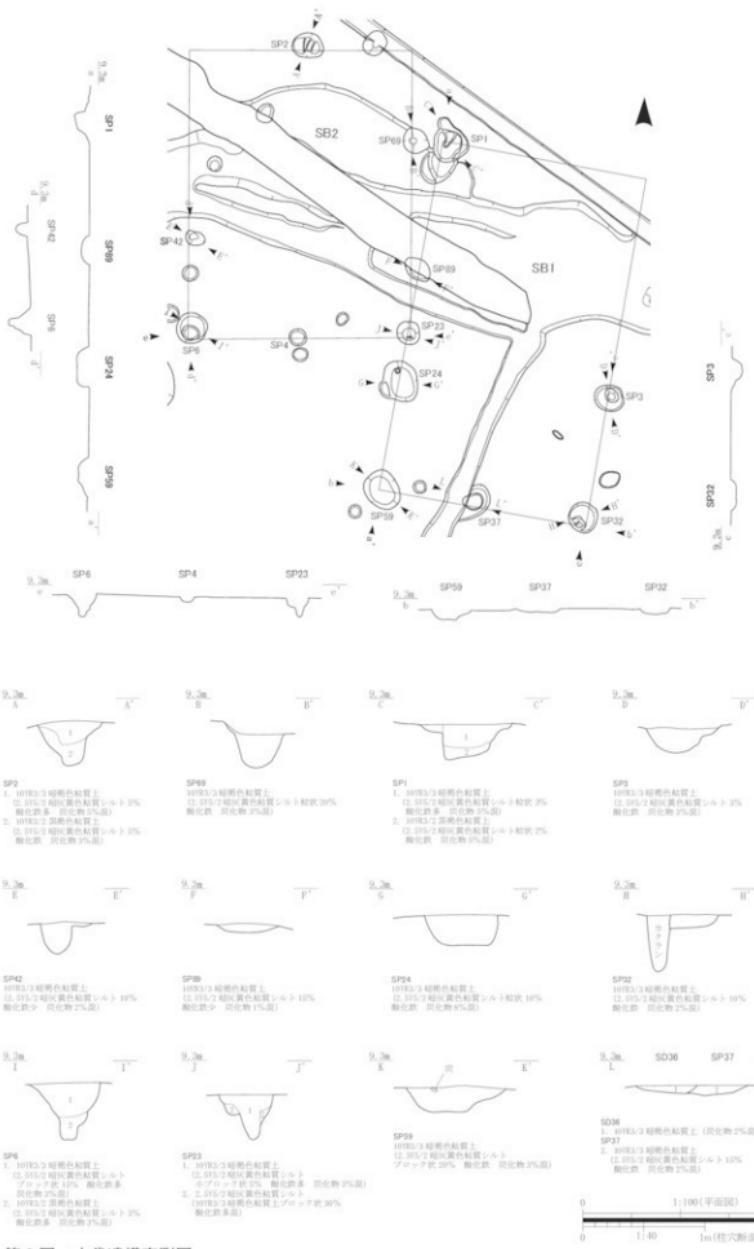


第6図 古代遺構全体図

2 造構と遺物

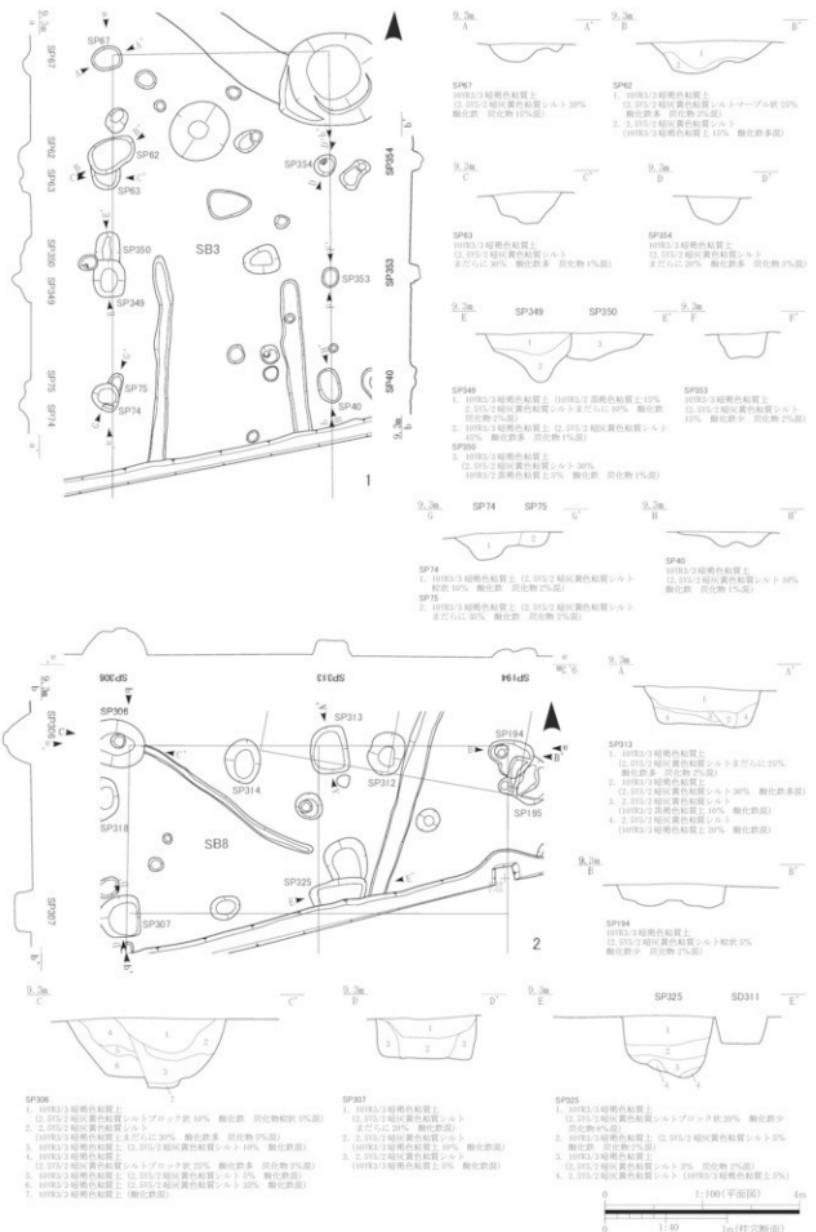


第7図 古代造構全体図



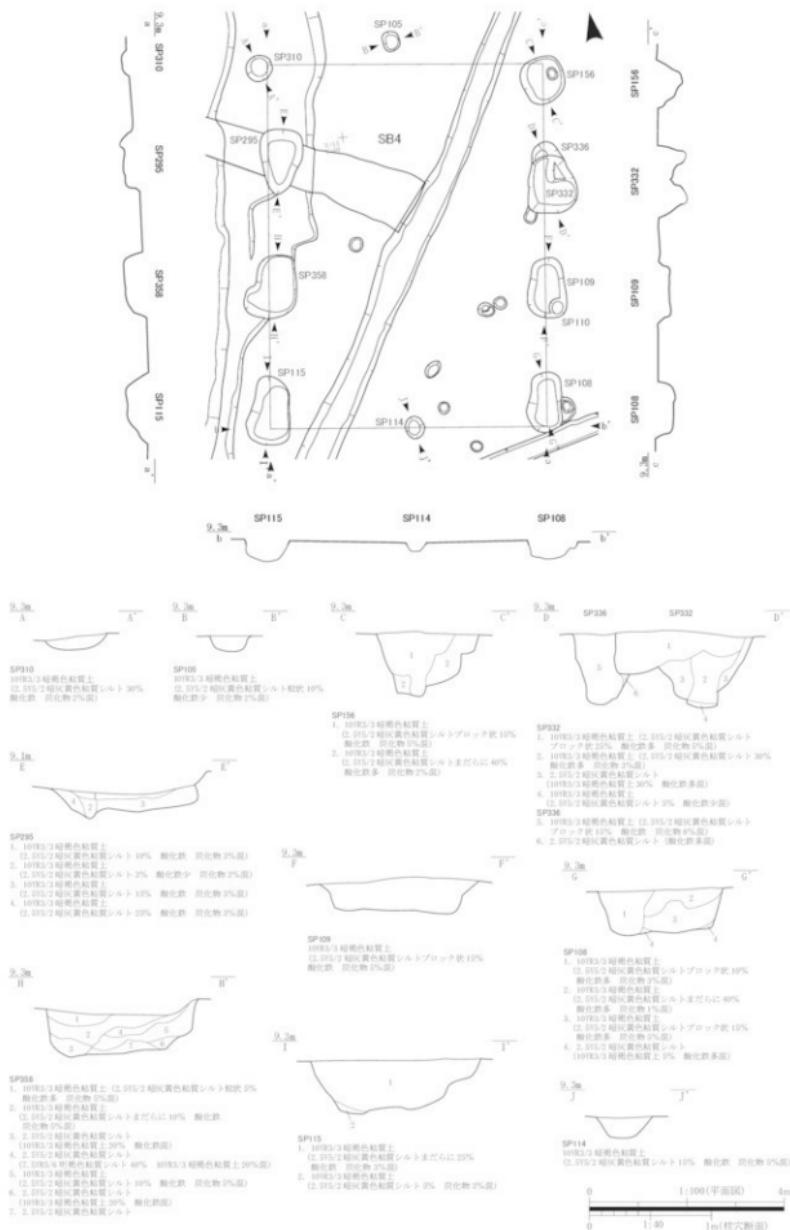
第8図 古代遺構実測図

SB1 SB2



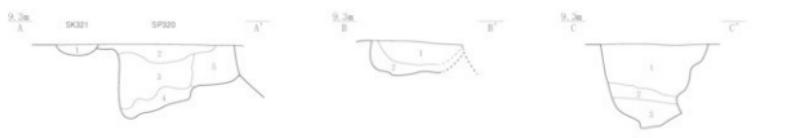
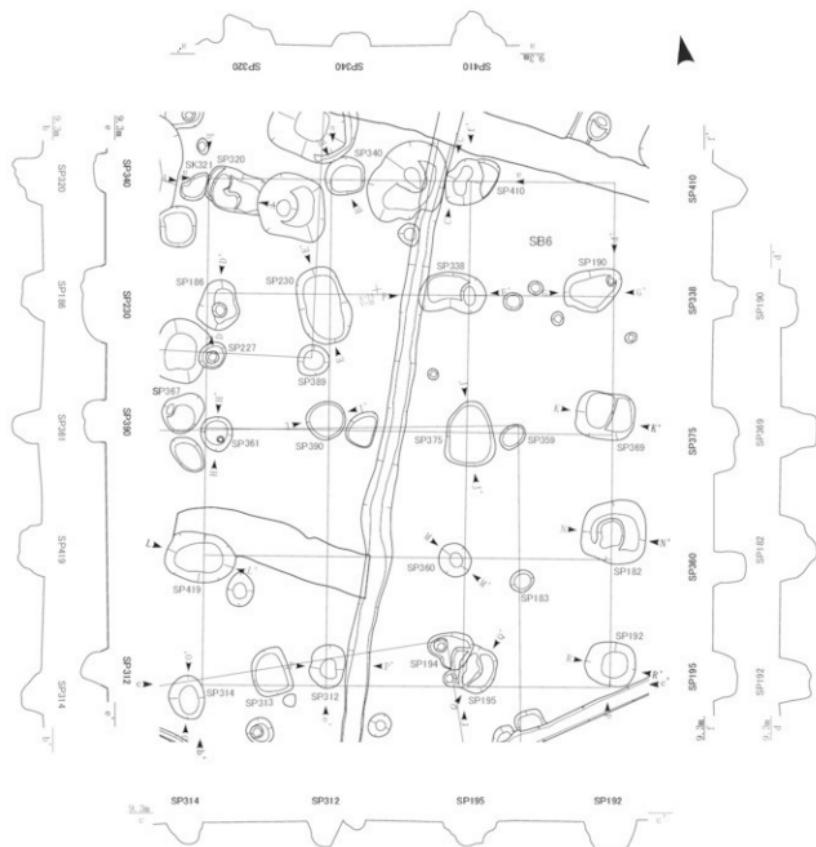
第9図 古代遺構実測図

1. SB3 2. SB8



第10図 古代遺構実測図

SBA



SK321
1. 10R/3 3種褐色系賞上
(2) 3S/2種黄褐色賞シルト 40% 酸化鉄、褐化物 3%混)
SP520
1. 10R/3 3種褐色系賞上
(2) 3S/2種黄褐色賞シルト粒状プロック 10% 酸化鉄、褐化物 1%混)
2. 10R/3 3種褐色系賞上
(2) 3S/2種黄褐色賞シルト 5% 酸化鉄、褐化物 2%混)
3. 2. 3S/2種黄褐色系賞シルト
(10R/3 3種褐色系賞上に) 10% 酸化鉄混)

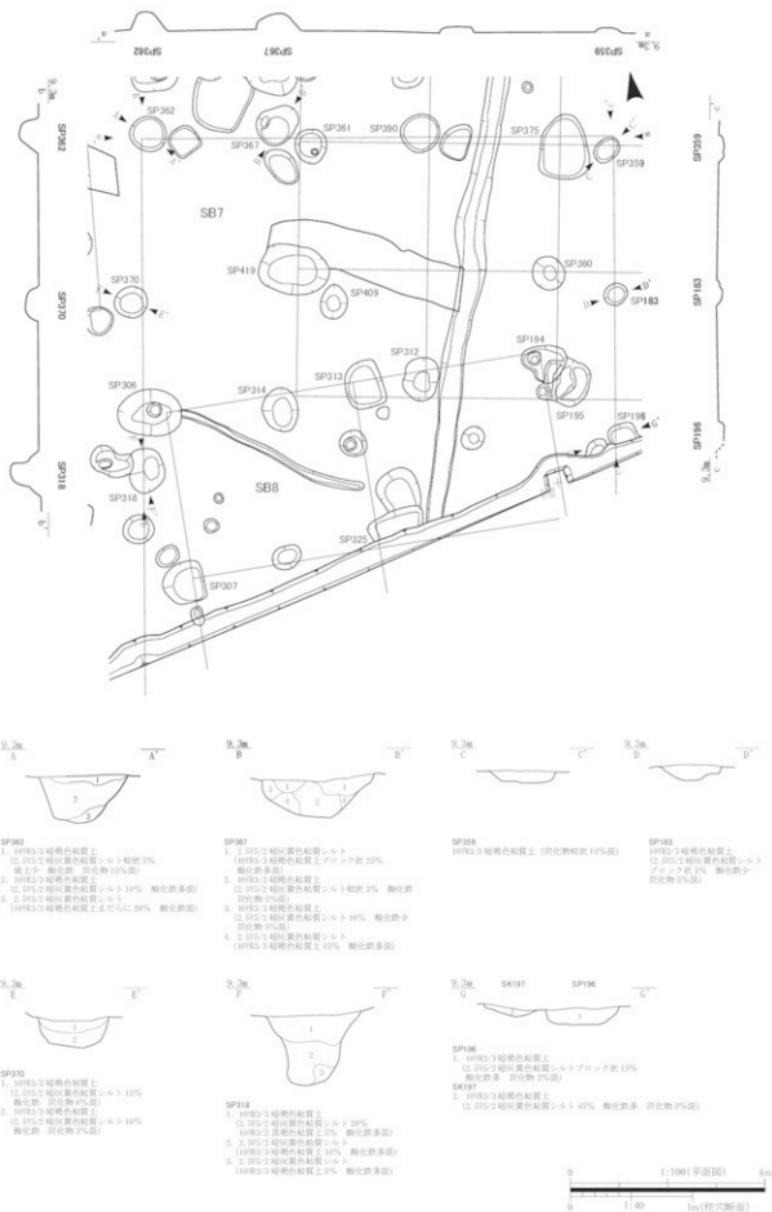
SP340
 1. 10%3/3褐色粘質土
 (2. 5%2 岩灰黃色粘質シルト粒状 10%
 酸化鉄少含)
 2. 10%3/3褐色粘質土
 (2. 5%2 岩灰黃色粘質シルト 30%
 酸化鉄多、腐殖化 20%含)

SP410
 1. 10R3/3 鮎褐色粘質上
 2. 5S5/2 鮎灰褐色粘質シルトブロック 15%
 腐化较少 硫化物 2%
 3. 5S5/2 鮎灰褐色粘質シルト
 (10R3) 3 鮎褐色粘質上 20% 腐化较少
 3. 10R3/3 鮎褐色粘質上
 10R3/2 鮎褐色粘質シルト 10%
 10R3/2 鮎褐色粘質上 10% 腐化较少 硫化物 3% 腐化较少

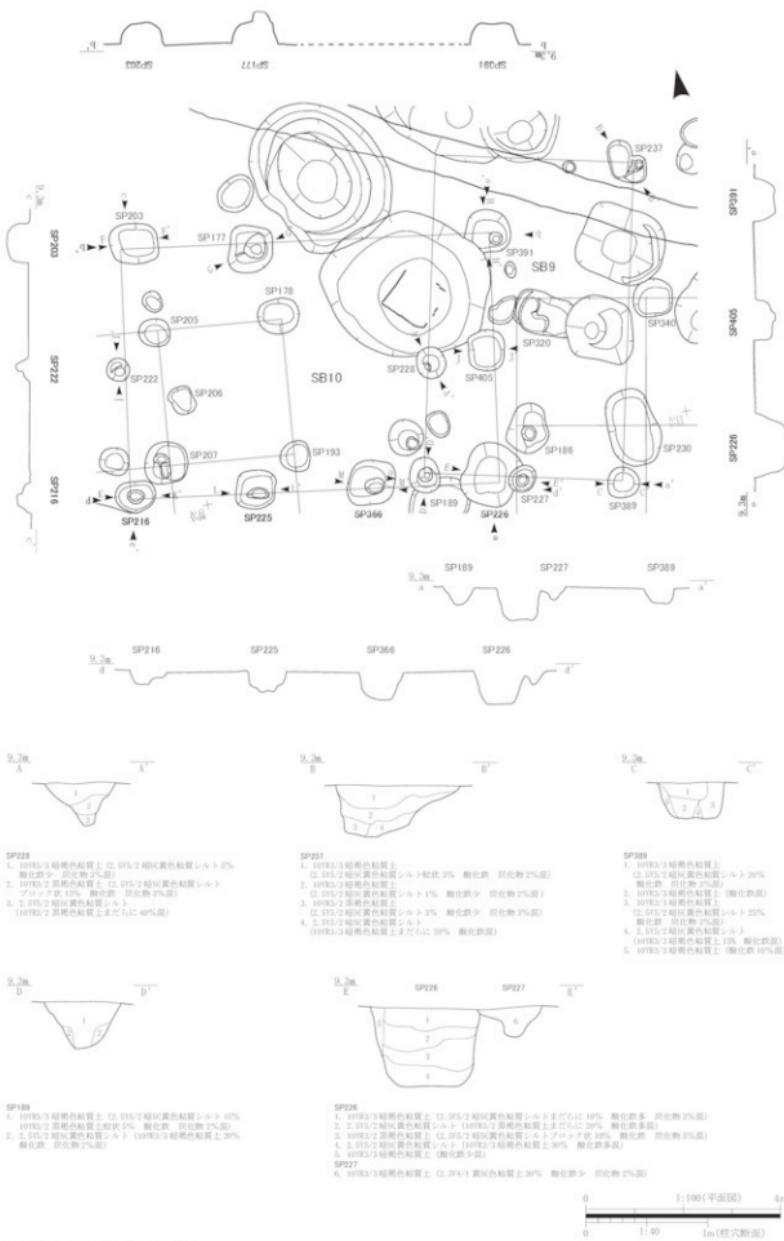
第11図 古代遺構実測図

SBG

第12図 古代遺構実測図

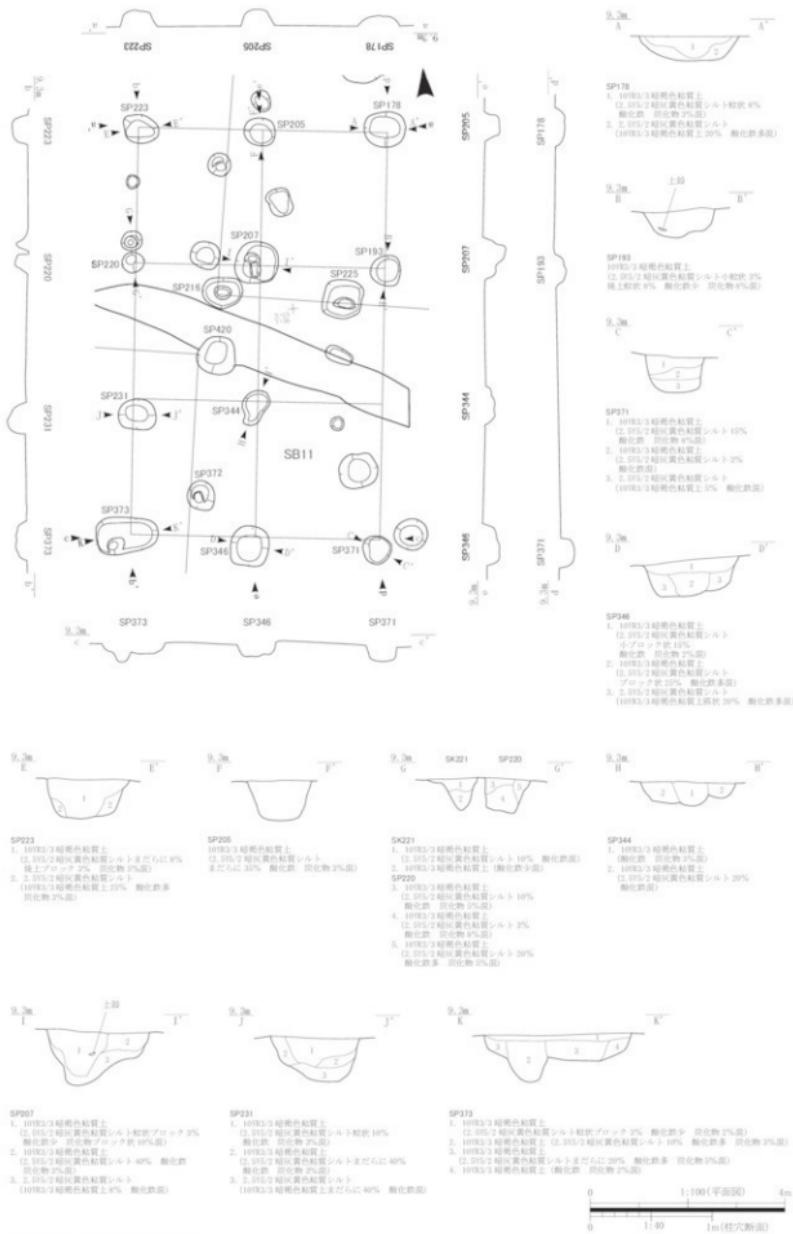


第13図 古代遺構実測図



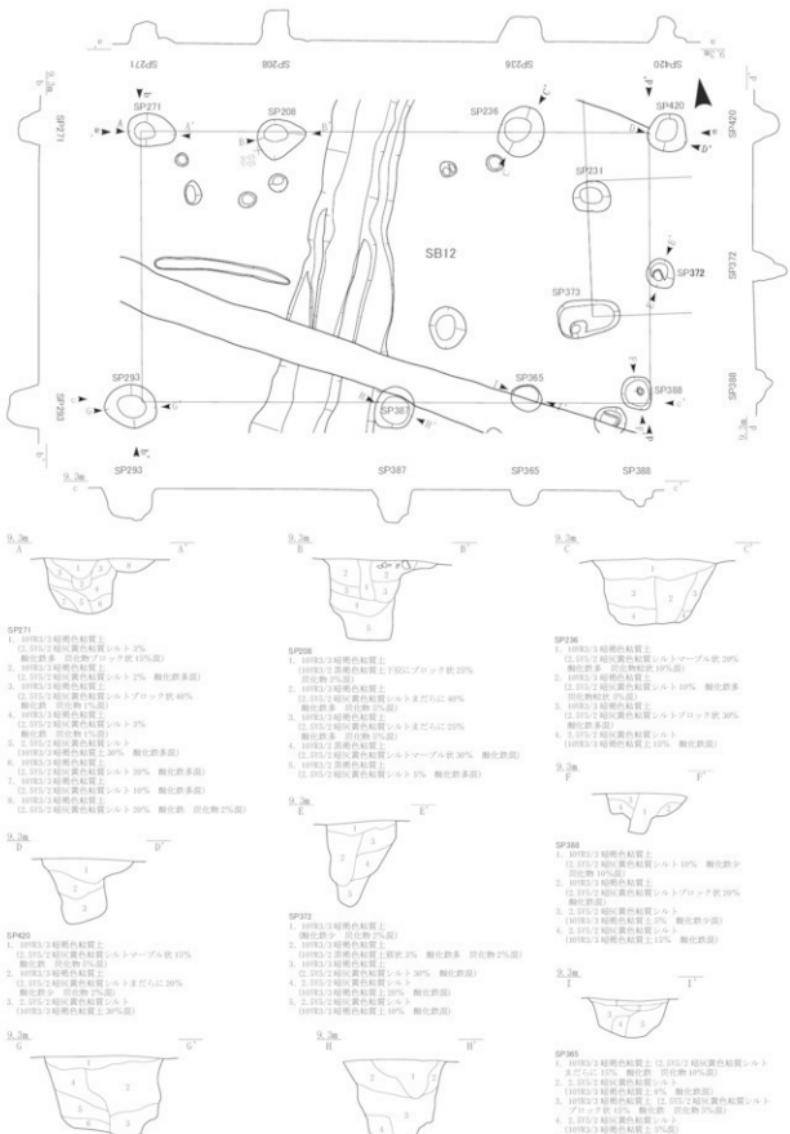
第14図 古代遺構実測図

SB9 SB10

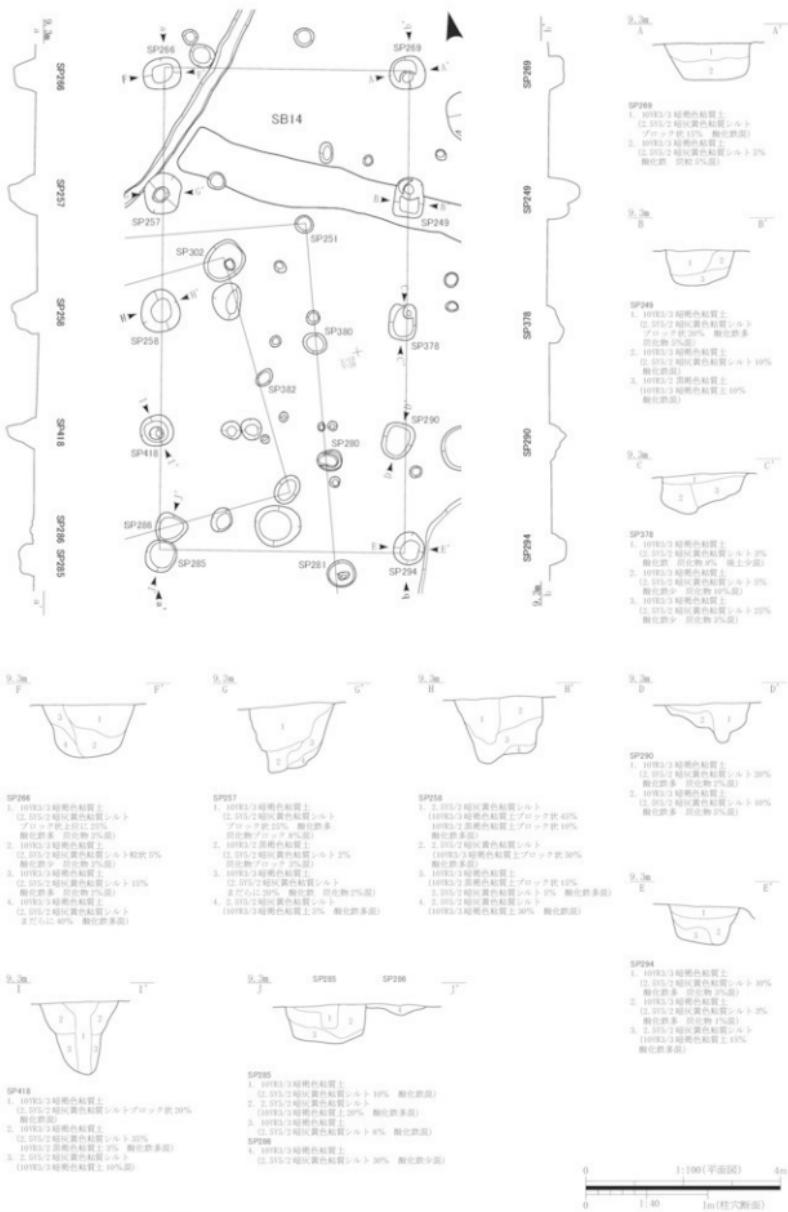


第16図 古代遺構実測図

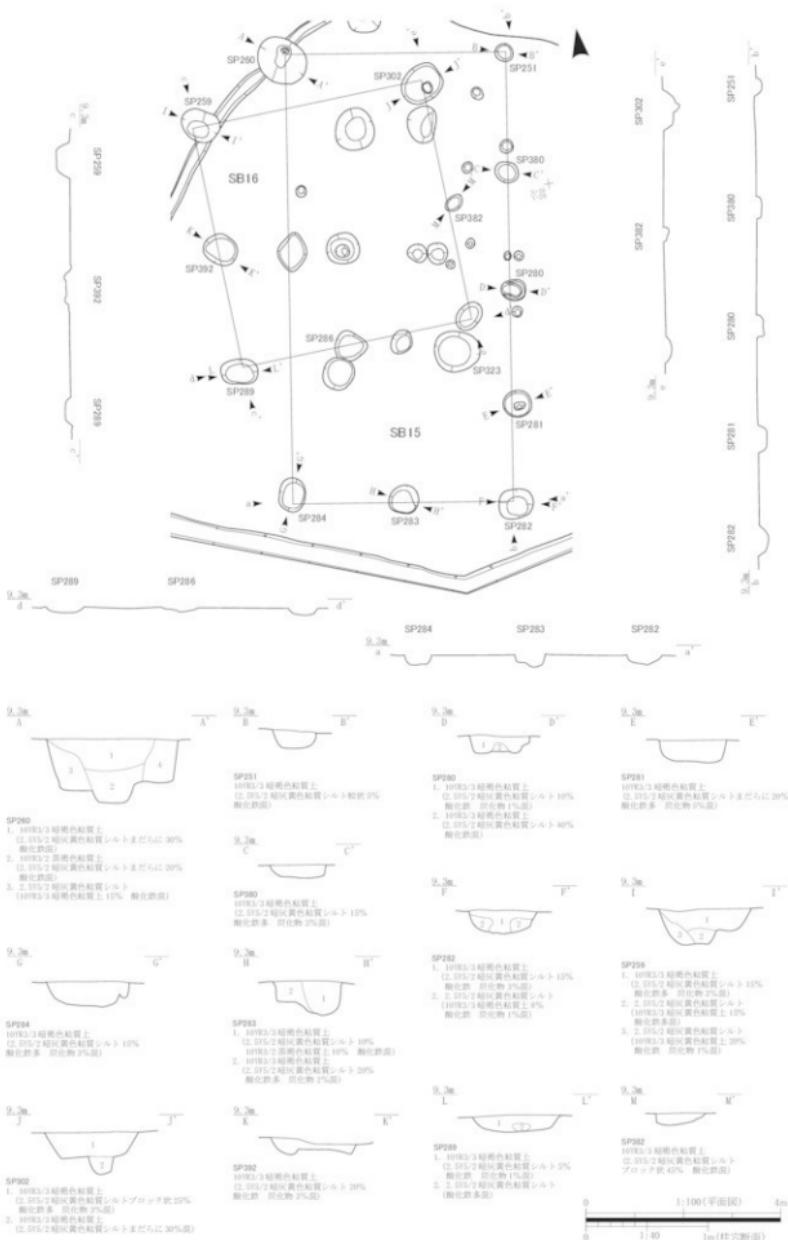
SRI



第17図 古代遺構実測図

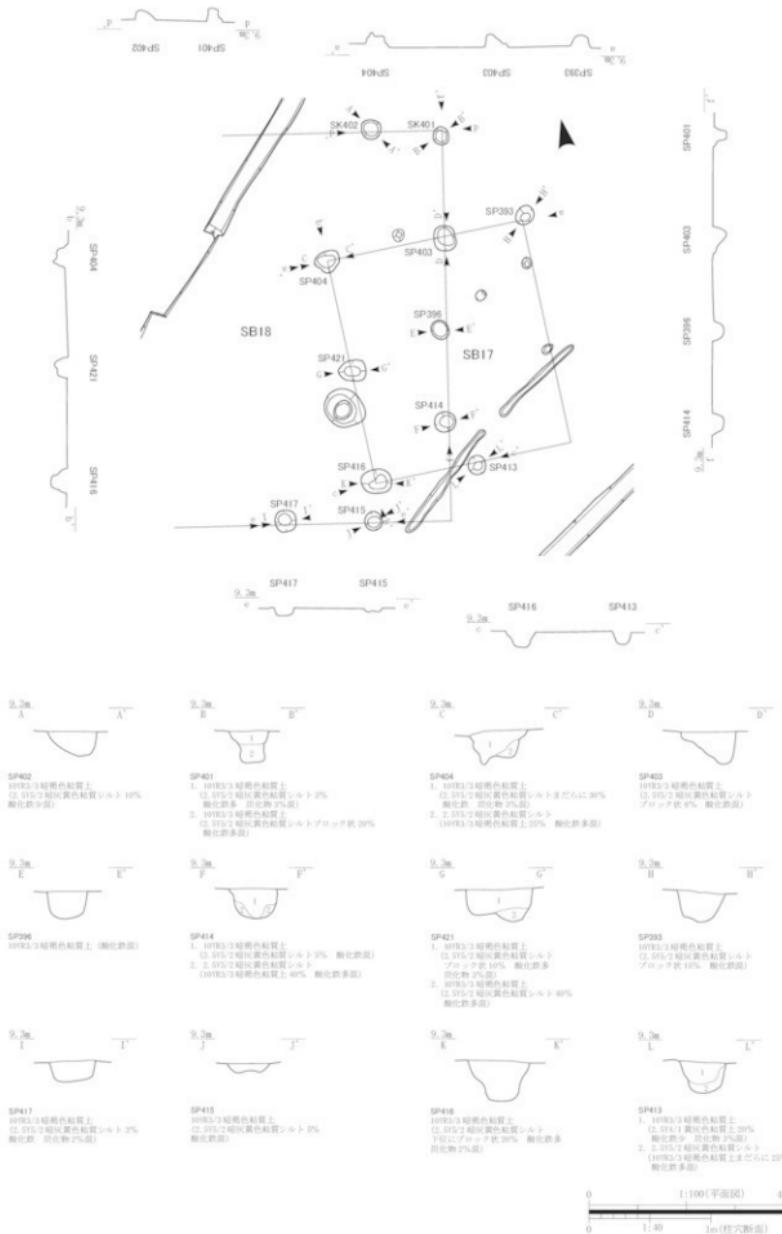


第18図 古代遺構実測図



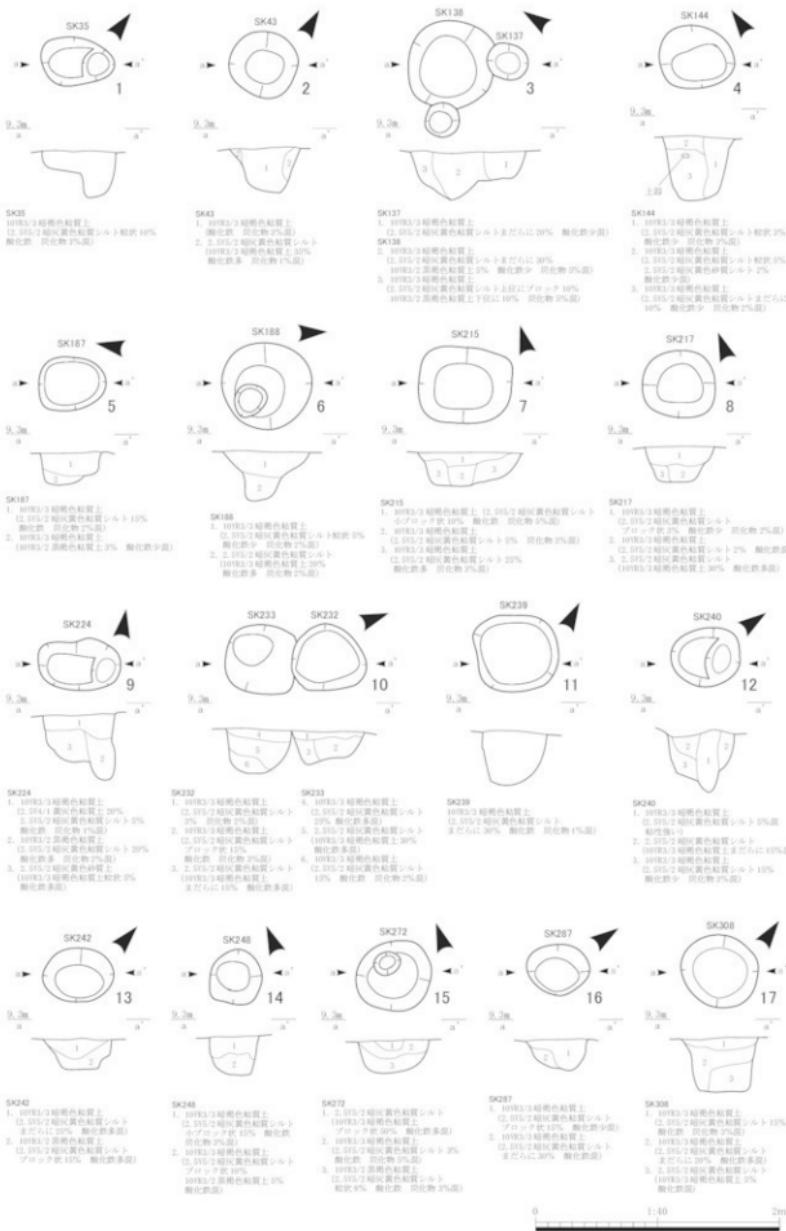
第19図 古代遺構実測図

SB15 SB16



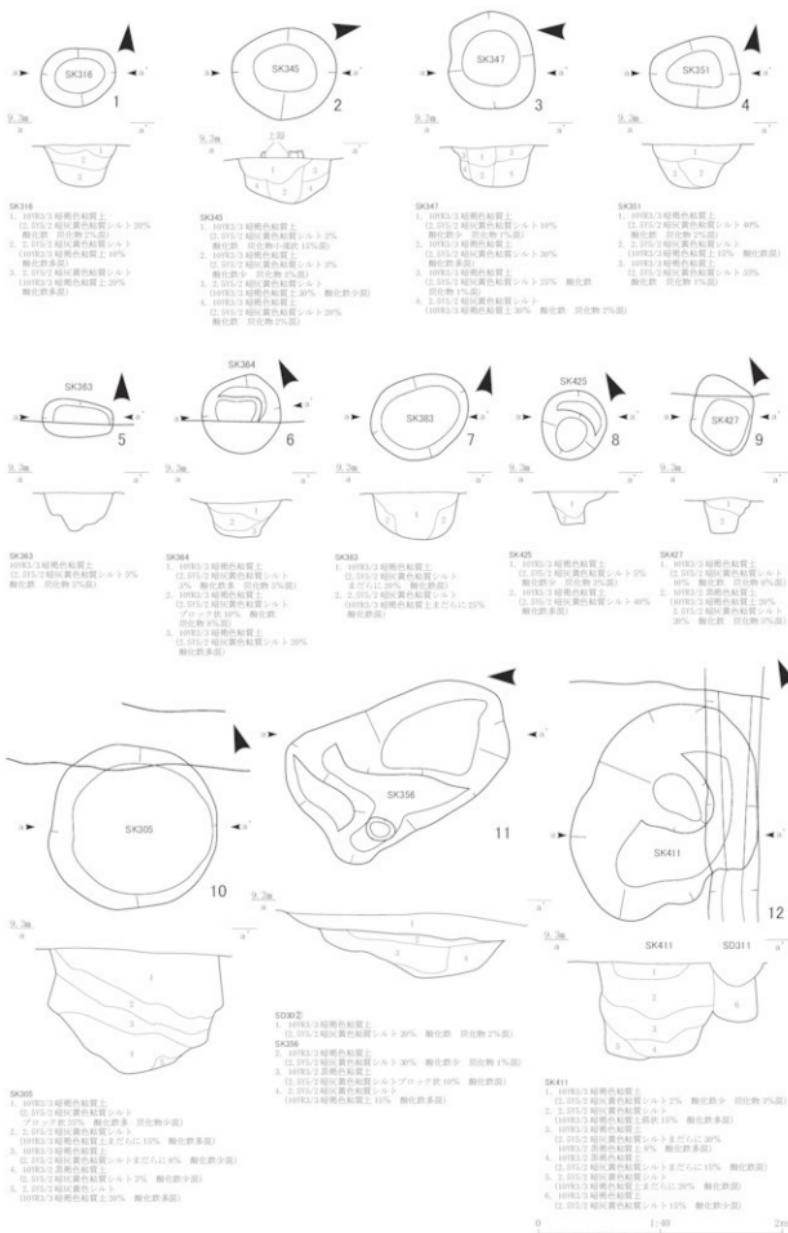
第20図 古代遺構実測図

SB17 SB18



第224図 古代遺構実測図

1. SK35 2. SK43 3. SK137・SK138 4. SK144 5. SK188 6. SK215 7. SK217 8. SK224
10. SK232・SK233 11. SK239 12. SK240 13. SK242 14. SK248 15. SK272 16. SK287 17. SK308



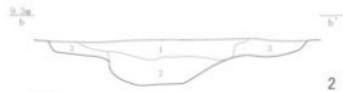
第22図 古代遺構実測図

1. SK316 2. SK345 3. SK347 4. SK351 5. SK363 6. SK364 7. SK383 8. SK425 9. SK427
10. SK305 11. SK356 12. SK411



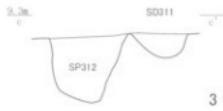
SD10

1. 10YR3/3褐色色粘質土 (2. 0Y5/3褐色粘質シート小ブロック状 5% 粘化鉄 5% 鉄化物 1%)
2. 10YR3/3褐色色粘質土 (10YR3/2黒褐色粘質土 30% 粘化鉄質)



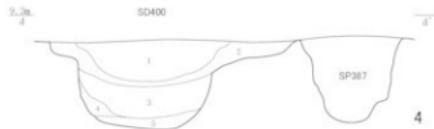
SD30②

1. 10YR3/3褐色色粘質土 (2. 0Y5/2褐色粘質シート 3% 粘化鉄 2% 鉄化物 3% 鉄化物)
2. 10YR3/2褐色粘質シート (2. 0Y5/2褐色粘質シート 5% 粘化鉄 5% 鉄化物 5% 鉄化物)
3. 2. 0Y5/2褐色粘質シート (10YR3/2褐色色粘質土まだらに 40% 粘化鉄質)



SD311

- 10YR3/3褐色色粘質土 (2. 0Y5/2褐色粘質シート 3% 粘化鉄 1% 鉄化物)



SD400

1. 10YR3/3褐色色粘質土 (2. 0Y5/2褐色粘質シート 2% 粘化鉄 2% 鉄化物)
2. 10YR3/3褐色色粘質土 (2. 0Y5/2褐色粘質シート 3% 粘化鉄 3% 鉄化物)
3. 10YR3/2褐色粘質シート (2. 0Y5/2褐色粘質シート 5% 粘化鉄 5% 鉄化物 5% 鉄化物)
4. 2. 0Y5/2褐色粘質シート (10YR3/2褐色色粘質土マーブル状 25% 粘化鉄多量)
5. 10YR3/2黒褐色粘質土 (2. 0Y5/2褐色粘質シート 5% 粘化鉄多量)



第23図 古代遺構実測図

1. SD10 2. SD30② 3. SD311 4. SD400

第7表 古代掘立柱建筑一览

| 建物 番号 | 棟行 柱間 | | | 棟行長(m) | | | 棟行短(m) | | | 面積 (m ²) | | | 方位 | | | 柱穴 | | | 備考 | |
|----------|----------|---------------|------|--------|---------------|------|--------|-------------------------|------|-------------------------|-------------------------|-------|------------------|-------------------------|-------------------------------|--|--|-------------------------------------|-----------------------------------|----|
| | 柱行 柱間 | 柱行柱頭距離 (m) | 平均 | 計 | 棟行柱頭距離 (m) | 平均 | 計 | 面積 (m ²) | 平均 | 計 | 面積 (m ²) | 平均 | 計 | 面積 (m ²) | 平均 | 計 | 面積 (m ²) | | | |
| SB1 | 3 | 2 | 2.7 | 2.32 | 2.2 | 2.41 | 7.22 | 2 | 2.32 | 216 | 4.32 | 31.19 | N.65° E | 南北棟 | SP1 | SP89 SP24 SP99 SP37 SP32 SP3 | SP89±SB2± 耐用 | 8 | | |
| SB2 | 3 | 2 | 2 | 2 | 2.00 | 2.2 | 2.3 | 225 | 4.5 | N.45° W | 南北棟 | SP2 | SP42 SP6 SP4 | SP23 SP89 SP99 | SP89±SB1± 耐用 | 8 | | | | |
| SB3 | 4? | 2? | 2.5 | 2.42 | 2.31 | | | | | N.25° W | 南北棟 | SP67 | SP62+63 SP49+350 | SP74+75 | SP67 SP62+63 SP49+350 SP74+75 | 9 | | | | |
| SB4 | 3 | 2 | 1.9 | 2.62 | 2.9 | 2.47 | 7.42 | 3 | 2.6 | 28 | 5.6 | 41.55 | N.75° E | 南北棟 | SP10 | SP295 SP76 SP115 SP114 SP108 | SP10 SP295 SP76 SP115 SP114 SP108 | 10 | | |
| SB5 | 4 | 3 | 2.35 | 2.8 | 2.6 | 2.7 | 2.61 | 10.45 | 2.5 | 295 | 2.77 | 83 | 86.74 | N.115° E | 南北棟 | SP20 | SP240 SP110 SP186 SP220 SP238 | SP190 SP91 SP90 SP75 SP299 SP419 | 船住 | |
| SB7 | 3 | 3 | 3.4 | 3.43 | | | | | | 28 | 3.63 | 3.13 | 3.19 | 9.56 | N.115° E | 南北棟 | SP96 | SP182 SP7314 SP312 SP195 SP192 | SP96+367 SP730 SP7318 SP739 SP183 | 13 |
| SB8 | 2 | 2 | 3.4 | | | | | | | 3.49 | 4.12 | 3.5 | 3.81 | 7.62 | N.1° E | 南北棟 | SP196 | SP213 SP194 SP707 SP35 | SP206 SP213 SP194 SP707 SP35 | 船住 |
| SB9 | 3? | 2 | 2.34 | | | 2.34 | | 2 | 2.04 | 202 | 4.04 | | N.135° E | 南北棟 | SP27 | SP228 SP189 SP227 SP389 | SP27 SP228 SP189 SP227 SP389 | 14 | | |
| SB10 | 3 | 2 | 2.42 | 2.4 | 2.6 | 2.47 | 7.42 | 2.55 | 2.64 | 26 | 5.19 | 38.51 | N.11° E | 東西棟 | SP20 | SP97 SP77 SP91 SP405 SP226 SP366 | SP20 SP97 SP77 SP91 SP405 SP226 SP366 | 14+15+4.5 | | |
| SB11 | 3 | 2 | 2.85 | 3.1 | 2.6 | 2.85 | 8.55 | 2.55 | 2.54 | 255 | 5.69 | 43.52 | N.45° E | 南北棟 | SP22 | SP230 SP178 SP220 SP7193 | SP23 SP234 SP173 SP346 SP271 | 船住 | | |
| SB12 | 4 | 2 | 2.7 | 2.58 | 2.44 | 2.8 | 2.63 | 10.52 | 2.92 | 248 | 2.7 | 54 | 56.81 | N.95° E | 東西棟 | SP271 | SP278 SP236 SP420 SP372 SP388 | SP271 SP278 SP236 SP420 SP372 SP388 | 17+4.5 | |
| SB13 | ? | 2 | | | | | | | | 1.7 | 1.65 | 1.68 | | | 南北棟 | SP365 | SP387 SP293 | SP241 SP201 SP199 | 15 | |
| SB14 | 4 | 1? | 2.5 | 2.38 | 2.5 | 2.47 | 9.88 | 5 | | 5 | 5 | 49.40 | N.13° E | 南北棟 | SP249 | SP266 SP257 SP258 SP7418 SP7265 SP7269 | SP249 SP266 SP257 SP258 SP7418 SP7265 SP7269 | 18 | | |
| SB15 | 4 | 2 | 2.44 | 2.45 | 2.4 | 2.02 | 2.33 | 9.31 | 2.3 | 227 | 229 | 4.57 | 42.55 | N.85° E | 南北棟 | SP260 | SP251 SP280 SP281 SP282 | SP260 SP251 SP280 SP281 SP282 | 19+4.5 | |
| SB16 | 2 | 2 | 2.56 | 2.5 | | 2.53 | 5.06 | 2.25 | 2.6 | 243 | 4.85 | 24.54 | N.2° W | 南北棟 | SP259 | SP292 SP289 SP286 SP282 SP302 | SP259 SP292 SP289 SP286 SP282 SP302 | 19+4 | | |
| SB17 | 2 | 2 | 2.32 | 2.38 | | 2.35 | 4.7 | 2.47 | 1.6 | 204 | 4.07 | 19.13 | N.0° | 南北棟 | SP404 | SP421 SP116 SP413 SP793 SP403 | SP404 SP421 SP116 SP413 SP793 SP403 | 20 | | |
| SB18 | 4 | 3? | 2.3 | 1.9 | 1.9 | 2.03 | | 1.9 | 1.54 | 1.72 | | | N.11° E | 南北棟 | SP402 | SP401 SP403 SP736 SP414 SP415 | SP402 SP401 SP403 SP736 SP414 SP415 | 20 | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | SP417 | | | | | |

第8表 古代柱穴一覧(1)

| 遺構 | 建物番号 | 平面形 | 規模(cm) | 切り合い | 出土遺物(遺物番号) | 特記事項 | 跡国番号 | 図版番号 |
|-------|-------|-----|-------------|---------------|------------------------------------|------------------|-------|------|
| SP1 | SB1 | 不整 | 90 72 29 | | 土師器 | | | |
| SP2 | SB1 | 円 | 58 54 20 | | | | | |
| SP24 | SB1 | 不整円 | 90 82 25 | | 瓶底器 土師器 | | | |
| SP32 | SB1 | 円 | 64 62 12 | | | | | |
| SP37 | SB1 | 椭円 | 82 (42) 8 | <SD036 | | | | |
| SP59 | SB1 | 椭円 | 84 70 22 | | | | | |
| SP89 | SB1・2 | 椭円 | 56 (16) 7 | | | | | |
| SP2 | SB2 | 円 | 66 52 36 | | | | | |
| SP4 | SB2 | 円 | 36 32 10 | | | | | |
| SP6 | SB2 | 円 | 62 62 46 | | 瓶底器 | | | |
| SP23 | SB2 | 円 | 48 48 37 | | | | | |
| SP42 | SB2 | 椭円 | 42 30 26 | | | | | |
| SP99 | SB2 | 円 | 52 52 27 | | | | | |
| SP40 | SB3 | 円 | 70 46 12 | | 瓶底器(1) | | | |
| SP92 | SB3 | 椭円 | 100 66 26 | | 土師器 | | | |
| SP93 | SB3 | 円 | 58 (30) 26 | | | | | |
| SP97 | SB3 | 円 | 62 50 15 | | | | | |
| SP74 | SB3 | 円 | 58 56 21 | >SP75 | | | | |
| SP75 | SB3 | 椭円 | 30 (24) 13 | <SP74 | | | | |
| SP249 | SB3 | 方 | 76 66 40 | >SP250 | | | | |
| SP250 | SB3 | 長方 | (56) 50 22 | <SP249 | | | | |
| SP253 | SB3 | 円 | 40 34 20 | | 瓶底器(68) | | | |
| SP254 | SB3 | 円 | 46 44 23 | | | | | |
| SP105 | SB4 | 円 | 42 34 13 | | | | | |
| SP108 | SB4 | 不整円 | 124 100 36 | | 土師器 土口 | 底部南東に柱当たり痕か | | |
| SP109 | SB4 | 椭円 | 124 80 30 | >SP110 | 瓶底器 土師器 炭化物 鉄滓(272) 焼土塊 | 底部南東隅に柱当たり痕 | | |
| SP110 | SB4 | 円 | 49 36 27 | <SP109 | | | | |
| SP114 | SB4 | 円 | 46 40 17 | | | | | |
| SP115 | SB4 | 椭円 | 140 80 45 | | 瓶底器 土師器 | 底部に柱当たり痕か | | |
| SP156 | SB4 | 椭円 | 94 88 54 | | 瓶底器 | 底部北東隅に柱当たり痕 | | |
| SP295 | SB4 | 椭円 | 134 84 22 | | 土師器 | 底部に柱当たり痕 | | |
| SP310 | SB4 | 円 | 54 52 11 | | | | | |
| SP332 | SB4 | 椭円 | 120 100 62 | >SP336 | 瓶底器(172) 土師器 | | | |
| SP336 | SB4 | 椭円 | 58 (28) 57 | <SP332 | | 底部2箇所に柱当たり痕 | | |
| SP358 | SB4 | 不整円 | 130 104 37 | | 瓶底器 土師器(221) | | | |
| SP182 | SB6 | 方 | 132 132 75 | | 瓶底器 土師器 | 底部中心に柱当たり痕 | | |
| SP186 | SB6 | 椭円 | 104 86 46 | | 瓶底器 土師器(238) | | | |
| SP190 | SB6 | 円 | 126 90 37 | | 瓶底器(9.55) 土師器 | 底部東隅に柱当たり痕 | | |
| SP192 | SB6 | 方 | 104 90 65 | | 瓶底器 土師器(240) 炭化物 | 底部東隅に柱当たり痕 | | |
| SP195 | SB6 | 不整方 | 100 91 51 | | | 底部中心に柱当たり痕 | | |
| SP230 | SB6 | 長方 | 160 100 51 | | 瓶底器(96) 土師器(203) | | | |
| SP312 | SB6 | 椭円 | 90 70 54 | | 瓶底器 土師器 炭化物 | | | |
| SP314 | SB6 | 椭円 | 90 74 43 | | 瓶底器 | | | |
| SP320 | SB6 | 長方 | (108) 86 10 | <SK321, SE226 | 瓶底器 土師器(185) | | | |
| SP328 | SB6 | 椭円 | (126) 80 51 | <SD311 | 瓶底器 土師器(226) | | | |
| SP340 | SB6 | 不整方 | 80 78 28 | | 瓶底器 土師器(232) | | | |
| SP390 | SB6 | 円 | 70 64 67 | | 瓶底器 | | | |
| SP361 | SB6 | 円 | 70 66 56 | | | | | |
| SP369 | SB6 | 方 | 120 94 77 | | 瓶底器 土師器 | 底部西に柱当たり痕 | | |
| SP375 | SB6 | 椭円 | 132 98 54 | | 土師器 | 底部北に柱当たり痕 | | |
| SP390 | SB6 | 円 | 82 78 48 | | 瓶底器 土師器 | | | |
| SP410 | SB6 | 不整円 | 126 90 69 | | 瓶底器 土師器 | | | |
| SP419 | SB6 | 椭円 | 140 100 53 | | 瓶底器 土師器(205, 218) | 底部北・南に柱当たり痕 | | |
| SP183 | SB7 | 円 | 50 44 13 | | | | | |
| SP196 | SB7 | 方 | 58 (40) 6 | | | | | |
| SP218 | SB7 | 椭円 | 90 72 57 | | | | | |
| SP259 | SB7 | 椭円 | 58 44 10 | | | | | |
| SP362 | SB7 | 円 | 76 72 38 | | 瓶底器 土師器 | 底部北寄りに柱当たり痕 | | |
| SP367 | SB7 | 椭円 | 90 78 30 | | 瓶底器 土師器 | | | |
| SP370 | SB7 | 円 | 68 64 21 | | | | | |
| SP194 | SB8 | 不整円 | 92 74 19 | | 瓶底器(140) 土師器 | | | |
| SP306 | SB8 | 椭円 | 130 96 57 | | 瓶底器(49) 土師器 | 底部中心に90cm径の柱当たり痕 | | |
| SP307 | SB8 | 不整方 | 86 84 35 | | | | | |
| SP213 | SB8 | 方 | 98 78 30 | | | | | |
| SP225 | SB8 | 方 | 116 (60) 51 | | | | | |
| SP189 | SB9 | 円 | 70 62 39 | | | | | |
| SP227 | SB9 | 円 | 56 52 24 | >SP226 | | | | |
| SP228 | SB9 | 円 | 66 60 35 | >SE423 | | | | |
| SP237 | SB9 | 不整 | 100 70 42 | | 瓶底器 土師器 | | | |
| SP289 | SB9 | 円 | 66 62 30 | | | | | |
| SP177 | SB10 | 方 | 100 100 64 | | 瓶底器(44, 115) 土師器(197, 211, 224) | 底部東寄りに柱当たり痕 | 14・15 | 4 |

第8表 古代柱穴一覧(2)

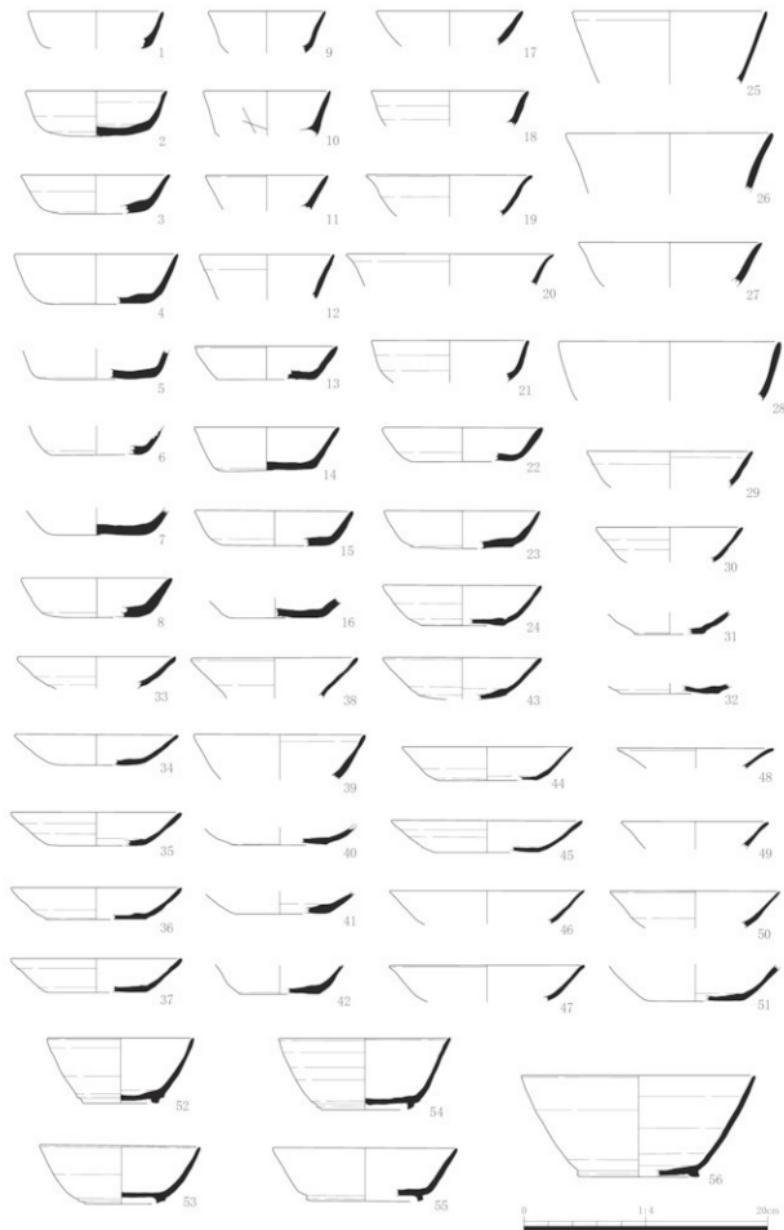
| 遺構 | 建物番号 | 平面形 | 規模(cm) | | | 切り合ひ | 出土遺物(遺物番号) | 特記事項 | 隣国番号 | 国版番号 |
|-------|---------|------|--------|------|----|--------|---|-------------|-------|------|
| | | | 長 | 幅 | 深 | | | | | |
| SP203 | SB10 | 方 | 98 | 84 | 45 | | 須恵器(35, 36, 84) 土師器 | 底部南東隅に柱当たり痕 | | |
| SP216 | SB10 | 椭円 | 82 | 66 | 28 | | 須恵器(51, 147) 土師器(208) | 底部中心に柱当たり痕 | | 4 |
| SP222 | SB10 | 円 | 46 | 46 | 20 | | | | | |
| SP225 | SB10 | 方 | 80 | 80 | 44 | | 須恵器 土師器(184, 223, 234) | 底部南隅に柱当たり痕 | 14・15 | 4・5 |
| SP226 | SB10 | 方 | 130 | 110 | 65 | <SP227 | 須恵器(52) 土師器(196, 198, 219, 228, 233, 237) | | | |
| SP266 | SB10 | 方 | 94 | 92 | 54 | | 須恵器 土師器(225) | 底部東隅に柱当たり痕 | | |
| SP291 | SB10 | 方 | 94 | 86 | 42 | | 須恵器 土師器 | | | 4 |
| SP405 | SB10 | 方 | 84 | 74 | 43 | | 須恵器(158) 土師器(230) | | | |
| SP178 | SB11 | 椭円 | 86 | 72 | 19 | | | | | |
| SP193 | SB11 | 円 | 62 | 62 | 22 | | 土師器 | | | |
| SP205 | SB11 | 円 | 64 | 57 | 33 | | 須恵器 | | | |
| SP207 | SB11 | 円 | 88 | 86 | 45 | | 須恵器 上土器 壺化物 | 底部中心に柱当たり痕 | | |
| SP220 | SB11 | 円 | 46 | 42 | 28 | | 須恵器 土師器 | | | |
| SP223 | SB11 | 椭円 | 70 | 60 | 32 | | 須恵器 土師器 | | 16 | 4 |
| SP231 | SB11 | 椭円 | 80 | 62 | 36 | | 須恵器 土師器 | | | |
| SP244 | SB11 | 不整方 | 26 | 50 | 19 | | | | | |
| SP246 | SB11 | 円 | 82 | 80 | 29 | | | 底部中心に柱当たり痕 | | |
| SP271 | SB11 | 円 | 60 | 58 | 30 | | | | | |
| SP273 | SB11 | 椭円 | 128 | 76 | 38 | | 須恵器 土師器 | 底部南西隅に柱当たり痕 | | |
| SP208 | SB12 | 椭円 | 98 | 82 | 66 | | 須恵器(127) 土師器(207, 223, 227) 焼土塊 | | | |
| SP236 | SB12 | 椭円 | 106 | 90 | 55 | | 須恵器 土師器(220) | | | 4 |
| SP271 | SB12 | 椭円 | 100 | 68 | 44 | | 須恵器(126) | | | |
| SP293 | SB12 | 椭円 | 104 | 90 | 67 | | 須恵器 土師器 | 底部東に柱当たり痕 | 17 | |
| SP265 | SB12 | 円 | 66 | (30) | 30 | | 須恵器 土師器 | | | |
| SP272 | SB12 | 円 | 58 | 58 | 69 | | | 底部中央に柱当たり痕 | 4・5 | |
| SP287 | SB12 | 円 | 78 | (72) | 29 | | 須恵器 土師器(229) | | | |
| SP388 | SB12 | 円 | 70 | 62 | 33 | | | | | 4 |
| SP420 | SB12 | 椭円 | 80 | 80 | 54 | | | | | |
| SP199 | SB13 | 円 | 58 | 52 | 32 | | 土師器 | | | |
| SP201 | SB13 | 椭円 | 58 | 44 | 21 | | | | 15 | 4 |
| SP241 | SB13 | 円 | 60 | 58 | 37 | | | | | |
| SP249 | SB14 | 不整方 | 82 | 62 | 29 | | | | | |
| SP257 | SB14 | 椭円 | 84 | 74 | 54 | <SP291 | 須恵器(106) 土師器(217) | | | |
| SP258 | SB14 | 円 | 86 | 80 | 53 | | 須恵器(100) 土師器 | | | |
| SP266 | SB14 | 椭円 | 78 | 64 | 44 | | 須恵器 | | | |
| SP269 | SB14 | 円 | 76 | 68 | 30 | | 須恵器(153) 土師器 | 底部中心に柱当たり痕 | 18 | 4 |
| SP285 | SB14 | 円 | 68 | 64 | 33 | >SP286 | | | | |
| SP290 | SB14 | 円 | 74 | 62 | 33 | | | | | |
| SP294 | SB14 | 円 | 68 | 62 | 31 | | | | | |
| SP278 | SB14 | 方 | 72 | 56 | 32 | | 土師器 | | | |
| SP418 | SB14 | 円 | 68 | 62 | 60 | | | | | |
| SP251 | SB15 | 円 | 38 | 38 | 15 | | 土師器 | | | 4 |
| SP260 | SB15 | 椭円 | 108 | 90 | 52 | <SP291 | | | | 4・5 |
| SP280 | SB15 | 円 | 50 | 44 | 15 | | | | | |
| SP281 | SB15 | 円 | 58 | 56 | 18 | | 土師器 | | 19 | 4 |
| SP282 | SB15 | 円 | 70 | 60 | 20 | | | | | |
| SP283 | SB15 | 円 | 60 | 58 | 27 | | | | | |
| SP284 | SB15 | 円 | 70 | 54 | 20 | | | | | |
| SP285 | SB15 | 円 | 50 | 42 | 11 | | | | | |
| SP229 | SB16 | 椭円 | 80 | 61 | 29 | <SP291 | | | | |
| SP286 | SB16 | 円 | 62 | (56) | 8 | <SP285 | | | | |
| SP289 | SB16 | 椭円 | 76 | 50 | 14 | | | | 19 | 4 |
| SP302 | SB16 | 椭円 | 88 | 74 | 35 | | | 底部南隅に柱当たり痕 | | |
| SP282 | SB16 | 椭円 | 42 | 30 | 10 | | | | | |
| SP292 | SB16 | 椭円 | 70 | 60 | 14 | | | | | |
| SP363 | SB17 | 円 | 40 | 36 | 24 | | | | | |
| SP404 | SB17 | 不整椭円 | 32 | 44 | 28 | 須恵器(6) | | | | |
| SP413 | SB17 | 円 | 40 | 38 | 25 | | | | 20 | |
| SP416 | SB17 | 椭円 | 64 | 50 | 34 | | | | | |
| SP421 | SB17 | 椭円 | 56 | 42 | 27 | | | | | |
| SP403 | SB17+18 | 方 | 50 | 44 | 26 | | | | 20 | |
| SP296 | SB18 | 円 | 40 | 38 | 22 | | | | | |
| SP401 | SB18 | 円 | 36 | 34 | 26 | | | | | |
| SP402 | SB18 | 円 | 42 | 42 | 20 | | | | | |
| SP414 | SB18 | 円 | 44 | 42 | 25 | | | | | |
| SP415 | SB18 | 円 | 38 | 36 | 8 | | | | | |
| SP417 | SB18 | 円 | 44 | 44 | 17 | | | | | |

第9表 古代土坑一覧

| 遺構 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出土遺物(図番号) | 切り合い | 特記事項 | 挿図番号 | 図版番号 |
|-------|------|--------|-------|-----|-----------------------|---------|------|------|------|
| | | 長 | 幅 | 深 | | | | | |
| SK35 | 楕円 | 60 | 40 | 38 | 羽口 炭化物 | | | 21 | |
| SK43 | 円 | 58 | 56 | 37 | | | | 21 | |
| SK137 | 円 | 34 | 30 | 23 | | >SK138 | | 21 | |
| SK138 | 円 | 72 | 70 | 38 | 須恵器 土師器 | <SK137 | | 21 | |
| SK144 | 楕円 | 60 | 52 | 53 | 須恵器 土師器 | | | 21 | |
| SK187 | 円 | 54 | 44 | 26 | 須恵器 土師器 羽口 | | | 21 | |
| SK188 | 円 | 74 | 72 | 41 | 須恵器 土師器 | | | 21 | |
| SK215 | 方 | 76 | 63 | 29 | 土師器 | | | 21 | |
| SK217 | 円 | 60 | 56 | 30 | | | | 21 | |
| SK224 | 楕円 | 68 | 42 | 54 | 土師器 | | | 21 | |
| SK232 | 円 | 62 | 56 | 27 | | | | 21 | |
| SK233 | 方 | 56 | 54 | 37 | | | | 21 | |
| SK239 | 円 | 66 | 62 | 44 | | | | 21 | |
| SK240 | 円 | 56 | 48 | 51 | | | | 21 | |
| SK242 | 円 | 60 | 44 | 25 | | | | 21 | |
| SK248 | 円 | 44 | 42 | 32 | | | | 21 | |
| SK272 | 円 | 60 | 58 | 26 | 須恵器 土師器 | | | 21 | |
| SK287 | 円 | 52 | 42 | 26 | | | | 21 | |
| SK305 | 円 | 136 | 134 | 100 | 須恵器(41, 42) 土師器 | | | 22 | 5 |
| SK308 | 円 | 62 | 60 | 45 | | | | 21 | |
| SK316 | 楕円 | 62 | 48 | 34 | 須恵器 | | | 22 | |
| SK345 | 楕円 | 86 | 74 | 36 | 須恵器(27, 166) 土師器(241) | | | 22 | |
| SK347 | 円 | 80 | 70 | 33 | | | | 22 | |
| SK351 | 楕円 | 75 | 56 | 35 | | | | 22 | |
| SK356 | 長方 | 184 | 108 | 54 | 須恵器 土師器 | <SD30.2 | | 22 | |
| SK363 | 楕円 | 58 | (20) | 31 | 須恵器 土師器 | | | 22 | |
| SK364 | 円 | 64 | (38) | 28 | 土師器 | | | 22 | |
| SK383 | 円 | 80 | 70 | 38 | | | | 22 | |
| SK411 | 不整楕円 | 182 | (110) | 78 | 須恵器 土師器 | <SD311 | | 22 | |
| SK425 | 円 | 58 | 52 | 27 | | | | 22 | |
| SK427 | 方 | 50 | (50) | 30 | 土師器 | | | 22 | |

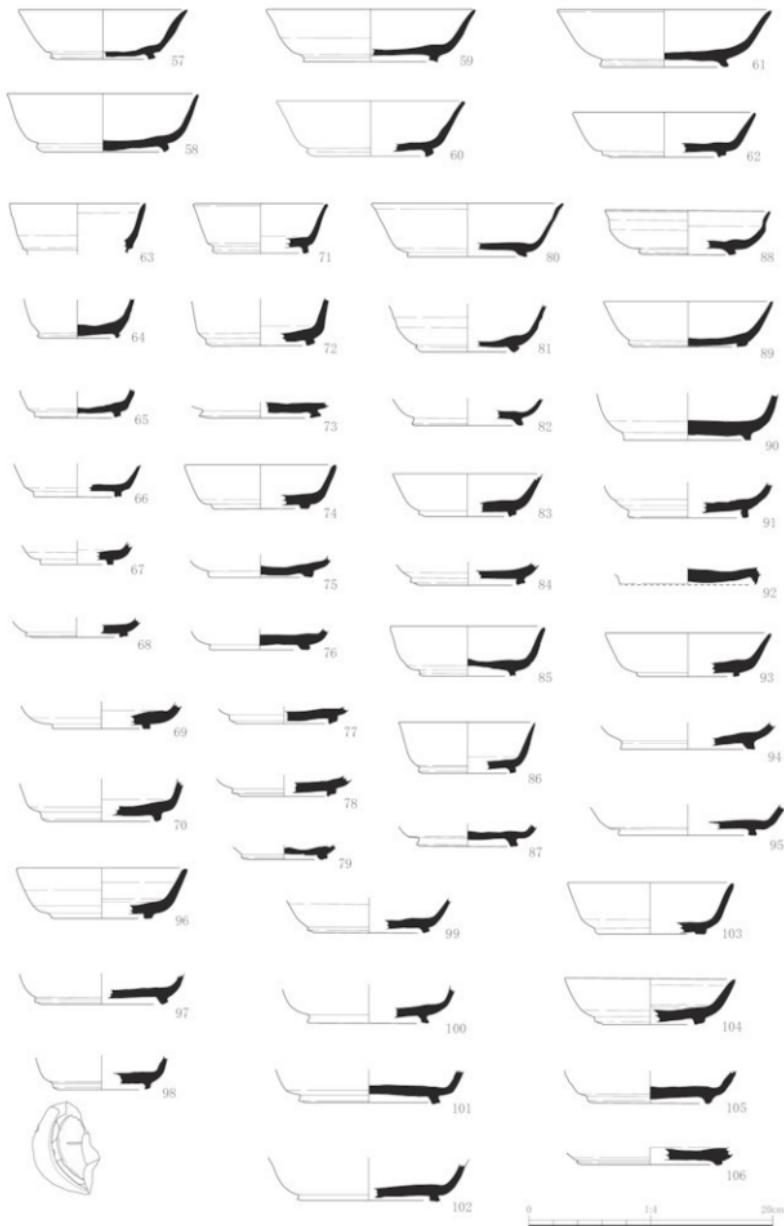
第10表 古代溝一覧

| 遺構 | 規模(cm) | | | 出土遺物(図番号) | 切り合い | 特記事項 | 挿図番号 | 図版番号 |
|--------|--------|-----|----|--|-------------------------|------|------|------|
| | 長 | 幅 | 深 | | | | | |
| SD10 | | 64 | 29 | 須恵器(59, 101, 121) 土師器(244) 珠洲 | | | 23 | 6 |
| SD30.2 | | 144 | 38 | 須恵器 (2, 3, 4, 5, 10, 11, 13, 14, 15, 16, 18, 19, 20, 21, 57, 58, 63, 64, 85, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 92, 93, 94, 95, 107, 108, 109, 110, 111, 125, 128, 129, 132, 133, 137, 142, 146, 156, 175, 176, 177, 178) 土師器(201, 202, 204, 239) 珠洲(261) 鉄滓(269, 276) 羽口(280) | | | 23 | 4 |
| SD311 | | 48 | 20 | 土師器 | >SK339, SK338, SK411 | | 23 | |
| SD400 | | 212 | 74 | 須恵器 (12, 31, 48, 72, 73, 80, 105, 116, 117, 118, 119, 135, 145, 151, 152, 155, 157, 159, 164, 167, 168, 169, 174, 180, 182, 183, 188, 189, 190, 193) 土師器(199, 200, 245) 珠洲 黒口 炭化物 砥石? 鉄滓(271, 277) | >SX426 | | 23 | 6 |



第24図 古代遺物実測図(1 / 4)

SP40(1) SD30(2)(2~5・10・11・13~16・18~21) SP40(6) SP190(9・55) SD400(12・31・48) SK119(23)
SK357(25) SK345(27) SE397(29・46) SE331(32・39) SP203(35・36) SK305(41・42) SP177(44)
SP141(47) SP306(49) SP216(51) SP226(52) SD30(53・54) 包含層

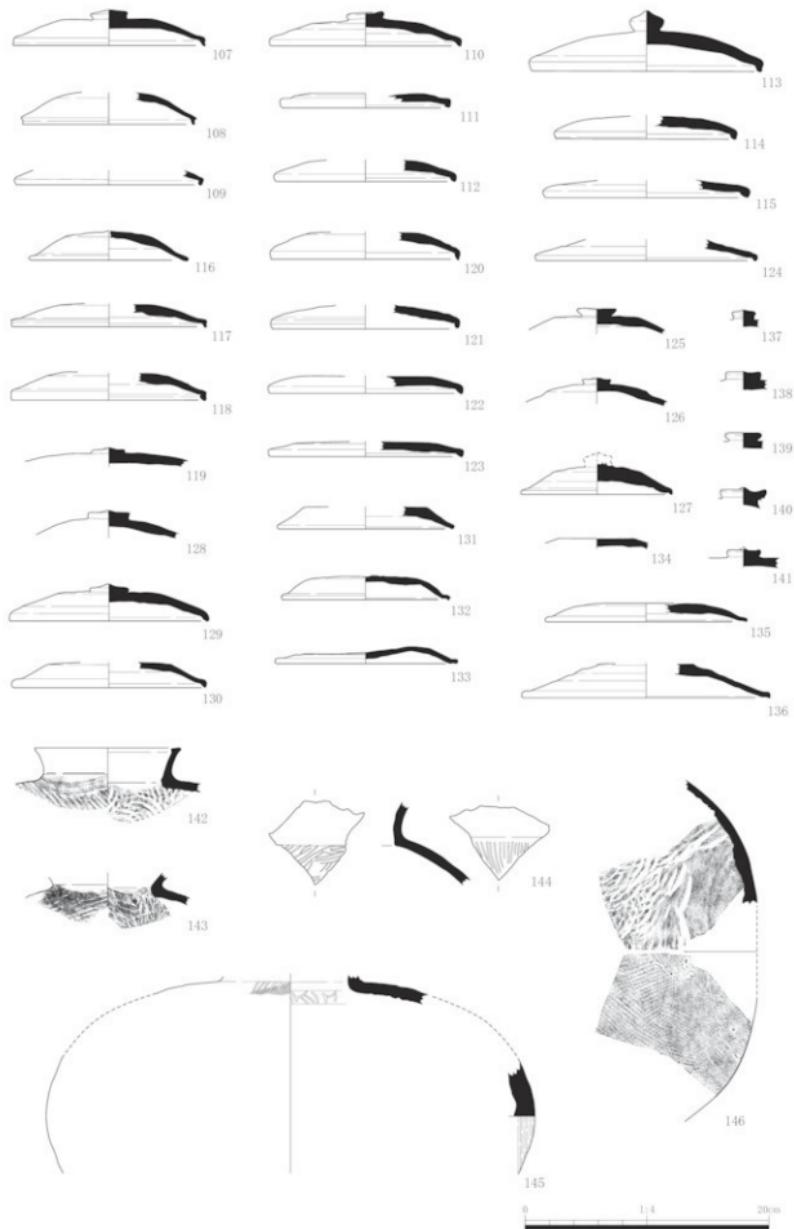


第25図 古代遺物実測図(1/4)

SD30(57・58・63・64・85～95) SD10(59・101) SE423(67・74・103) SP353(68) SK335(71)

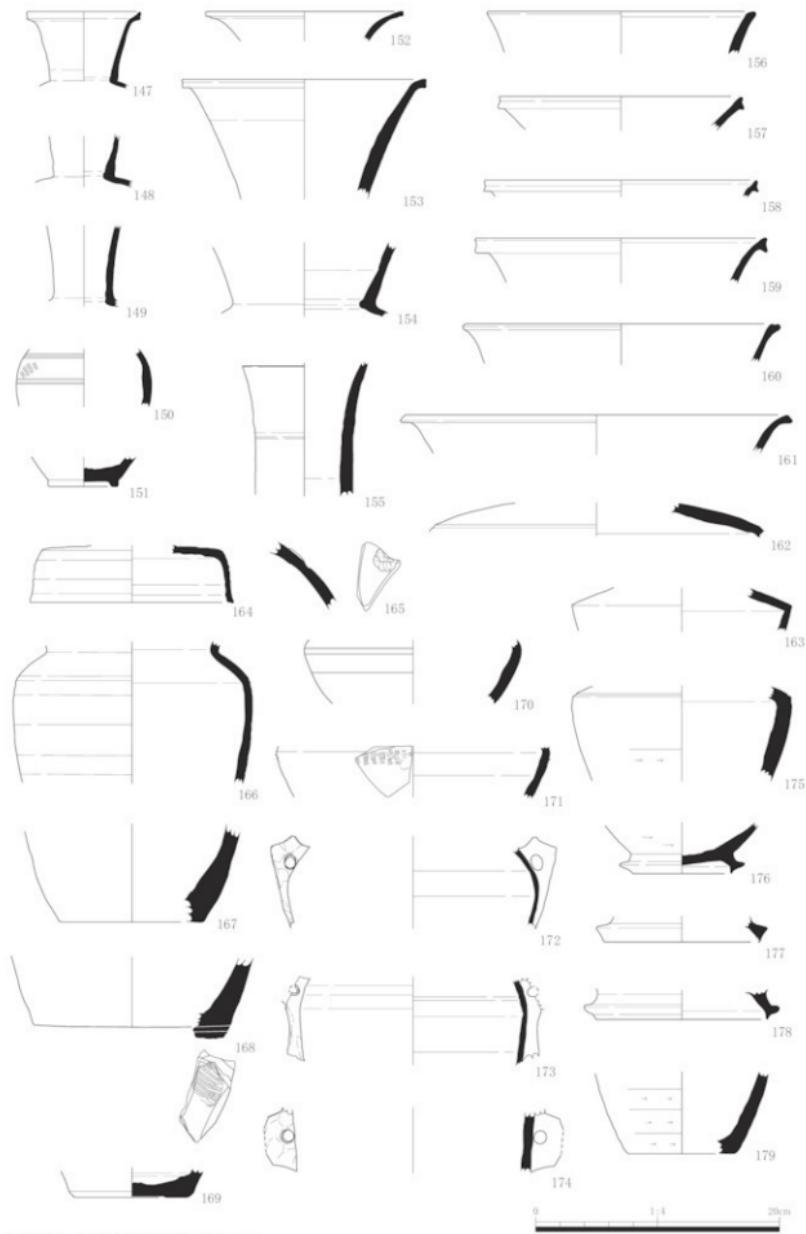
SD400(72・73・80・105) SE311(75) SD30(76) SE276(79) SD301(81) SK408(83) SP203(84)

SP230(96) SE397(98) SP258(100) SP257(106) 包含層



第26図 古代遺物実測図(1/4)

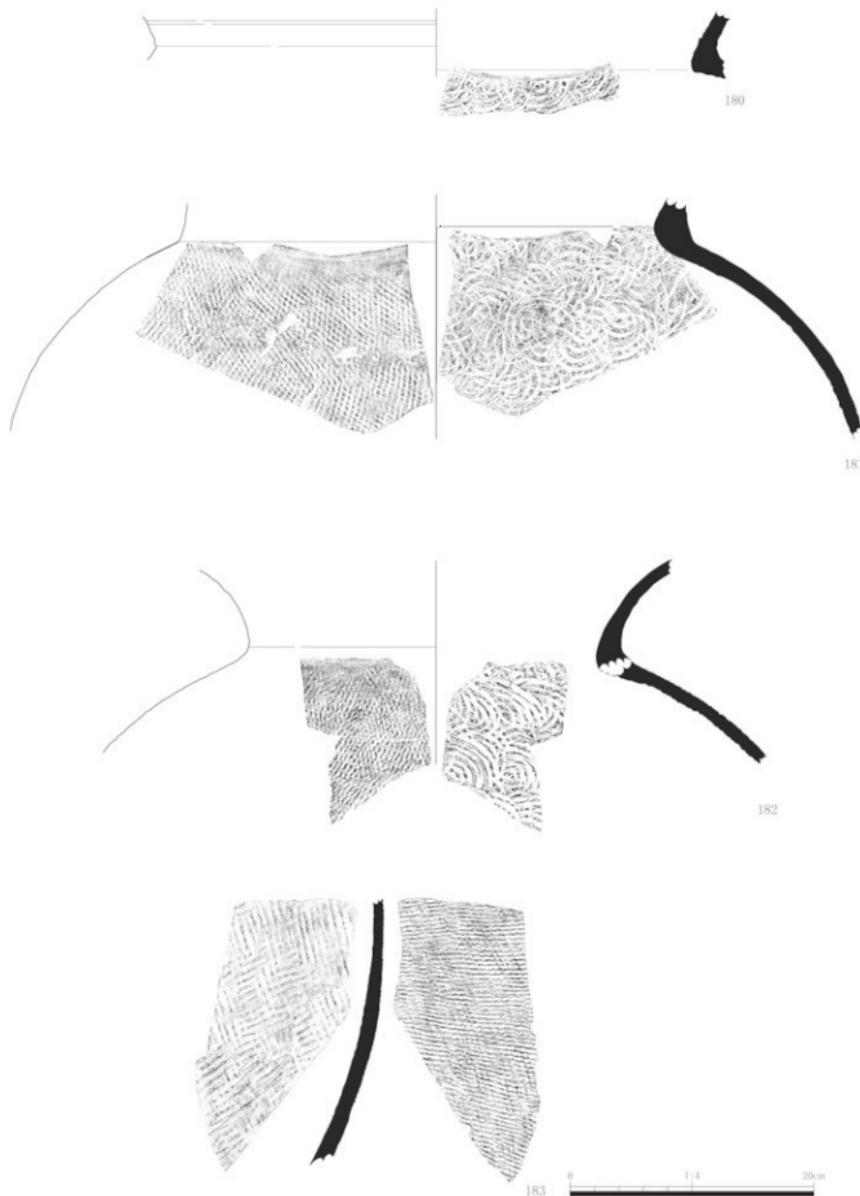
SD30(2)(107~111・125・128・129・132・133・137・142・146) SE238(112・136) SE422(114)
SP177(115) SD400(116~119・135・145) SD10(121) SK134(123) SP271(126) SP208(127)
SK206(139) SP194(140) SE331(144) 包含層



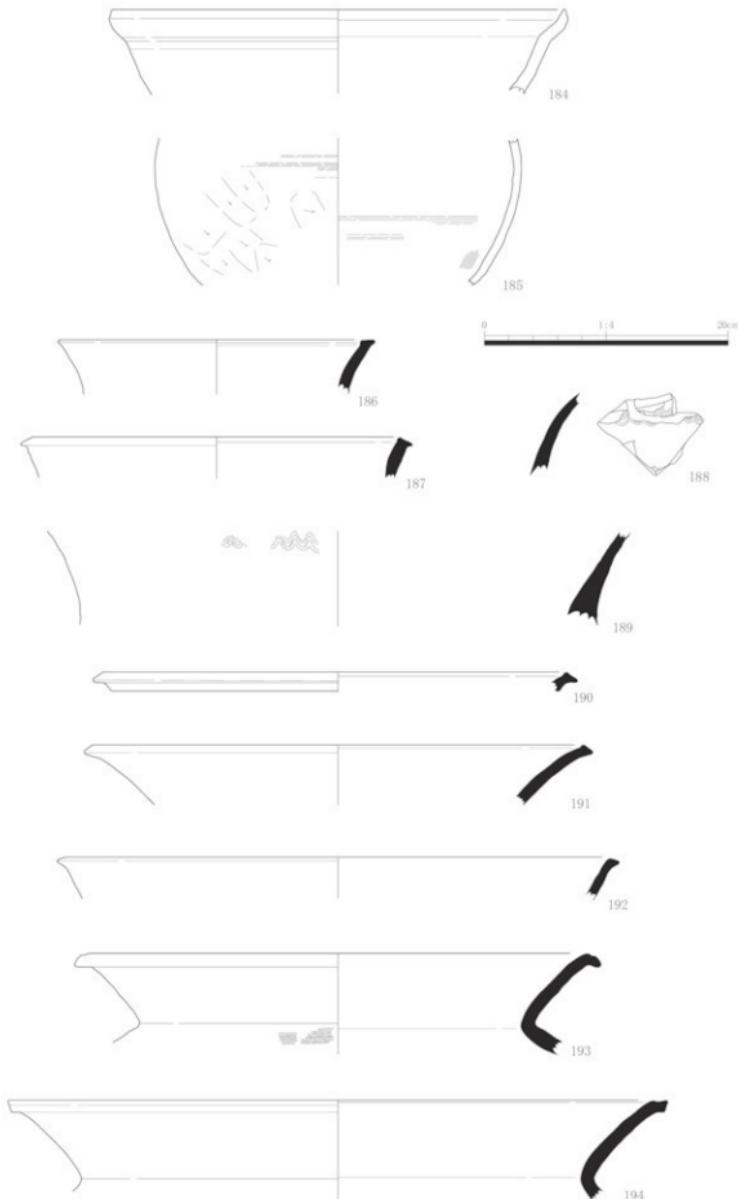
第27図 古代遺物実物図(1/4)

SP216(147) SE253(148) SE397(149・179) SD400(151・152・155・157・159・164・167～169・174)

SP269(153) SD302(156・175～178) SP405(158) SE238(161) SD30(162・165) SK345(166)

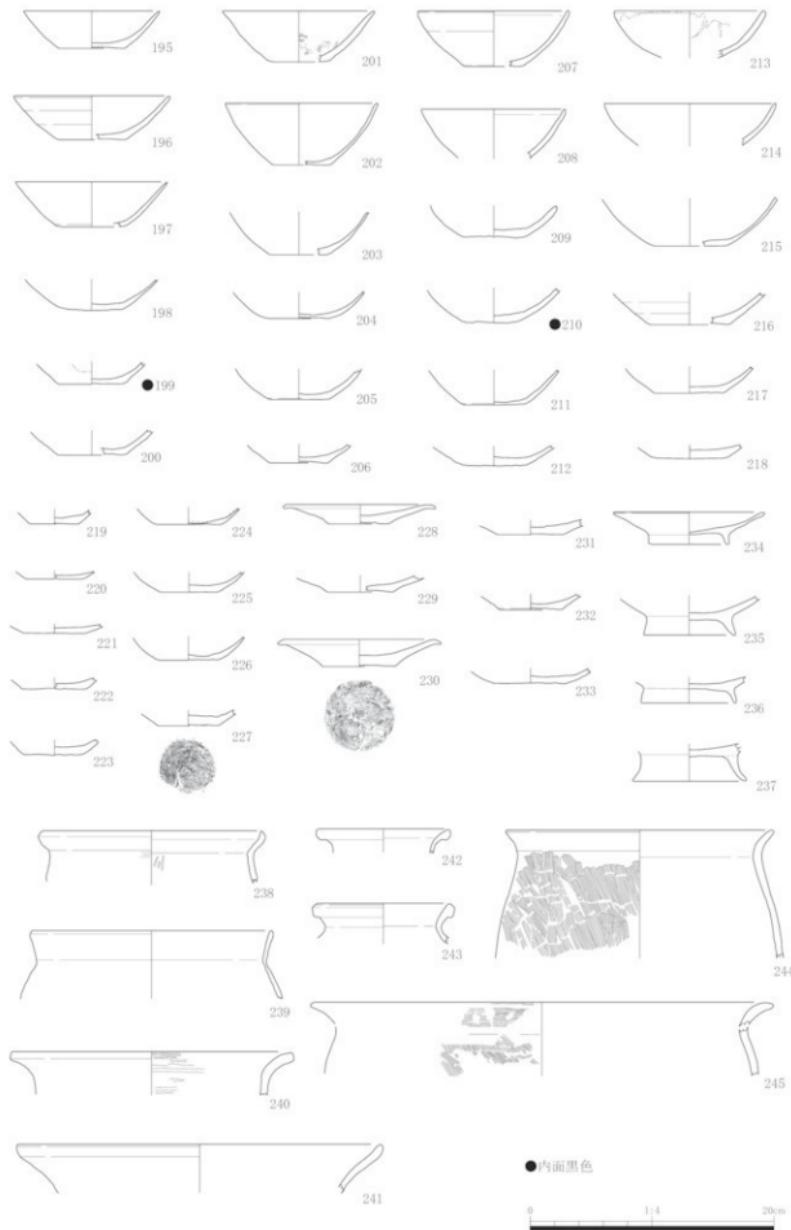


第28図 古代遺物実測図(1/4)
SD400(180・182・183) SE397(181)



第29図 古代遺物実測図(1/4)

SP225(184) SP320(185) SD400(188~190・193) SE276(194) 包含層



第30図 古代遺物実測図(1/4)

SP236(196・198・219・228・235・237) SP177(197・211・224) SD400(199・200・245) SD302(201・202・204・239) SP230(203)
 SP249(205・218) SP238(207・223・227) SP216(208) SP225(209・233・234) SK374(210) SP141(212) SP257(217)
 SP236(220) SP358(221) SK297(222) SP366(225) SP338(226) SP387(229) SP405(230) SE238(231) SP340(232) 45
 SE331(236) SP186(238) SP192(240) SK345(241) SE423(242・243) SD10(244) 包含層

第11表 古代土器一覧(1)

| 遺物名 | 種別 | 番号 | 通標番号 | 出土地点 | 層位 | 種類 | 法縫 | 口径(cm) | 底径 | 底号 | 断土色調2 | 記号 | 時期 | 備考 |
|-----|-----|-------|----------|---------------|-----|-----|------|---------------|-----|--------|--------|--------|--------|----|
| 1 | 柱状瓶 | SH00 | | X18738 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.11 (0.0) | 6.5 | 73/6.4 | 灰色 | ■~N? | | |
| 2 | 11 | SH002 | | X13137 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.16 (0.0) | 3.7 | 73/6.4 | 灰白色 | II~N | | |
| 3 | 11 | SH002 | | X18738/X1739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.22 (0.0) | 3.2 | 73/6.4 | 灰白色 | II~N? | | |
| 4 | 11 | SH002 | | X18738/X1739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.35 (0.0) | 4.0 | 8.7 | 23/7.4 | 灰白色 | II~N? | |
| 5 | 5 | SH002 | | X18738/X1739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.35 (0.0) | 2.5 | 9.8 | 23/7.4 | 灰白色 | II~N? | |
| 6 | 6 | SH04 | | X18734 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.24 (0.0) | 2.4 | 7.2 | 5/6.1 | 灰白色 | II~N? | |
| 7 | 8 | SH09 | | X11734 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.24 (0.0) | 3.2 | 7.6 | 5/6.1 | 灰白色 | II~N? | |
| 8 | 9 | SH09 | | X16139 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.06 (0.0) | 8.0 | 73/6.4 | 灰白色 | V? | | |
| 9 | 10 | SH09 | | X16139 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.04 (0.0) | 3.4 | 10/5.1 | 灰白色 | III | | |
| 10 | 11 | SH09 | | X16139 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.04 (0.0) | 3.7 | 73/6.4 | 灰白色 | III | | |
| 11 | 12 | SH09 | | X17122 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.00 (0.0) | 2.9 | 23/6.4 | 灰白色 | III | | |
| 12 | 13 | SH09 | | X18739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.10 (0.0) | 3.7 | 11/0 | 灰白色 | V? | | |
| 13 | 8~9 | SH09 | | X13137 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.16 (0.0) | 2.7 | 8.0 | 73/6.4 | 灰白色 | V? | |
| 14 | 15 | SH09 | | X13137 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.18 (0.0) | 3.6 | 7.7 | 23/6.4 | 灰白色 | V? | |
| 15 | 16 | SH09 | | X12738 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 2.8 | 8.7 | 73/6.4 | 灰白色 | N~V | |
| 16 | 17 | SH09 | | X12738 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.16 (0.0) | 2.5 | 7.5 | 5/6.1 | 灰白色 | N~V? | |
| 17 | 18 | SH09 | | X13137 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 2.8 | 23/6.4 | 灰白色 | III~N? | | |
| 18 | 19 | SH09 | | X13137 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.29 (0.0) | 2.9 | 7.5 | 23/6.4 | 灰白色 | III~N? | |
| 19 | 20 | SH09 | | X17129 | 須地2 | 須地2 | H.C. | 1.36 (0.0) | 3.3 | 7.6 | 0 | 灰白色 | II~N | |
| 20 | 21 | SH09 | | X18739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.70 (0.0) | 2.6 | 23/6.4 | 灰白色 | III | | |
| 21 | 22 | SH09 | | X13137 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.30 (0.0) | 3.4 | 73/5.4 | 灰白色 | IV? | | |
| 22 | 23 | SK07 | b.L. 2~6 | X18739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.32 (0.0) | 2.8 | 8.2 | 73/6.4 | 灰白色 | N~V | |
| 23 | 24 | SK07 | | X15133 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.28 (0.0) | 3.1 | 8.3 | 5/7.1 | 灰白色 | V~W | |
| 25 | 26 | SK07 | | X18734 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 3.3 | 7.0 | 5/6.1 | 灰白色 | III~V | |
| 26 | 27 | SK07 | | X18735/S1000 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.60 (0.0) | 5.9 | NS.0 | NS.0 | NS.0 | N~V | |
| 27 | 28 | SK07 | | X18738 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.70 (0.0) | 4.9 | 5/6.1 | 灰白色 | III~V | | |
| 28 | 29 | SK07 | | X18739 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.36 (0.0) | 3.6 | 5/7.1 | 灰白色 | N~V | | |
| 29 | 30 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.82 (0.0) | 4.8 | 73/6.4 | 灰白色 | V~W | | |
| 30 | 31 | SK07 | | X11725 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.26 (0.0) | 3.9 | NS.0 | NS.0 | NS.0 | N~V? | |
| 31 | 32 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 3.8 | 73/6.4 | 灰白色 | V~W | | |
| 32 | 33 | SK07 | | X15139 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.28 (0.0) | 3.8 | 5/6.1 | 灰白色 | V~W | | |
| 33 | 34 | SK07 | | X12738 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 3.6 | 7.5 | 5/6.1 | 灰白色 | V~W | |
| 34 | 35 | SK07 | | X12738 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.34 (0.0) | 2.5 | 6.8 | NS.0 | NS.0 | V~W | |
| 35 | 36 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.40 (0.0) | 2.7 | 7.8 | NS.0 | NS.0 | V~W | |
| 36 | 37 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.40 (0.0) | 2.6 | 8.0 | 5/6.1 | 灰白色 | V~W | |
| 37 | 38 | SK07 | | X15133 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.40 (0.0) | 2.7 | 8.0 | 73/6.4 | 灰白色 | V~W | |
| 38 | 39 | SK07 | | X11725 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.37 (0.0) | 3.3 | 5/7.1 | 灰白色 | V~W | | |
| 39 | 40 | SK07 | | X13134 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.41 (0.0) | 3.7 | 73/6.4 | 灰白色 | V? | | |
| 40 | 41 | SK07 | | X15139 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.41 (0.0) | 3.4 | 7.7 | 73/6.4 | 灰白色 | V~W | |
| 41 | 42 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 2.4 | 6.5 | 10/5.1 | 灰白色 | V~W | |
| 42 | 43 | SK07 | | X18730/X19731 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 3.4 | 23/7.3 | 灰白色 | V~W | | |
| 43 | 44 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.40 (0.0) | 2.7 | 8.0 | 73/6.4 | 灰白色 | V~W | |
| 44 | 45 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.56 (0.0) | 2.6 | 8.4 | 10/5.1 | 灰白色 | V~W | |
| 45 | 46 | SK07 | | X18730 | 須地2 | 須地2 | H.C. | 1.60 (0.0) | 2.7 | NS.0 | NS.0 | NS.0 | V~W | |
| 46 | 47 | SK07 | | X14141 | 須地2 | 須地2 | H.C. | 1.60 (0.0) | 2.9 | NS.0 | NS.0 | NS.0 | V~W | |
| 47 | 48 | SK07 | | X15139 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.28 (0.0) | 3.6 | 23/6.4 | 灰白色 | V~W | | |
| 48 | 49 | SK07 | | X15136 | 須地2 | 須地2 | H.A. | 1.20 (0.0) | 2.3 | 5/6.1 | 灰白色 | V? | | |

第11表 古代土器一覽(2)

| 遺物 番号 | 種類 番号 | 遺物番号 | 出土地點 | 層次 | 種類 | 器種 | 厚度(cm) | | 新土色調 記号 | 色名 | 時間 | 備考 |
|----------|----------|---------------|-----------------------------|-----|----|------|--------|------|------------|---------|-----|---------|
| | | | | | | | 上 | 下 | | | | |
| 50 | | SPI26 | X17332 | II | 須地 | II-A | 1.39 | 0.10 | N5.0 | 灰色 | V1? | |
| 51 | 10 | SPI26 SPI265 | | III | 須地 | II-A | 0.30 | | 78 | 575V.1 | | |
| 52 | 24 | SU30 | X17338 | II | 須地 | II-B | 1.20 | 5.3 | 61 | 735V.4 | 灰色 | V1? |
| 53 | 8.9 | SU30 | X17338 | II | 須地 | II-B | 1.32 | 4.7 | 59 | N5.0 | 灰色 | V1~V2? |
| 54 | 8.9 | SU30 | X17338 | II | 須地 | II-B | 1.40 | 5.9 | 70 | N5.0 | 灰色 | V1~V2? |
| 55 | | SPI99 | | II | 須地 | II-B | 1.52 | 4.3 | 96 | N7.0 | 灰褐色 | V1~V2? |
| 56 | | SPI99 | X17339 | II | 須地 | II-B | 1.90 | 8.3 | 96 | N5.0 | 灰褐色 | V1~V2? |
| 57 | 8.9 | SU30 SU302 | X16339 X16340 X16341 X16342 | II | 須地 | II-B | 1.38 | 4.0 | 86 | N6.0 | 灰色 | II? |
| 58 | 10 | SU30 | X16340 X16341 X16342 | II | 須地 | II-B | 1.57 | 4.7 | 100 | N6.0 | 灰色 | II~III? |
| 59 | 10 | SU30 | X16340 X16341 X16342 | II | 須地 | II-B | 1.70 | 4.2 | 110 | 235V.1 | 褐色 | II~III? |
| 60 | b-L-#6 | X20139 | | II | 須地 | II-B | 1.54 | 4.5 | 92 | 735V.1 | 褐色 | II? |
| 61 | 8.9 | X20145 | | II | 須地 | II-B | 1.75 | 4.6 | 102 | 575V.1 | 褐色 | II |
| 62 | 10 | b-L-#6 | X16345 | II | 須地 | II-B | 1.50 | 3.6 | 101 | 235V.2 | 褐色 | II~III |
| 63 | | SU302 | X16349 | II | 須地 | II-B | 1.11 | 1.42 | NS.0 | 灰褐色 | III | |
| 64 | 10 | SU302 | X16349 | II | 須地 | II-B | 1.31 | | 62 | 575V.1 | 褐色 | III |
| 65 | | 前田 | | II | 須地 | II-B | 1.27 | | 71 | 56.0 | 灰褐色 | III |
| 66 | | SX5121 | | II | 須地 | II-B | 1.27 | | 72 | 56.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 67 | SPI623 | | | II | 須地 | II-B | 1.19 | | 60 | 235V.1 | 褐色 | IV~V |
| 68 | SPI533 | X18734 | | II | 須地 | II-B | 1.60 | | 84 | 235V.2 | 褐色 | IV~V |
| 69 | | X15726 | | II | 須地 | II-B | 1.22 | | 80 | NS.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 70 | b-L-#6 | X14725 | | II | 須地 | II-B | 1.35 | | 98 | NS.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 71 | 10 | SPI335 | | II | 須地 | II-B | 1.10 | 4.0 | 75 | 575V.1 | 褐色 | III~IV |
| 72 | | SPI400 | X10125 | II | 須地 | II-B | 1.38 | | 90 | NS.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 73 | 10 | SPI423 | X1125 | II | 須地 | II-B | 1.30 | | 100 | 575V.1 | 褐色 | III~IV |
| 74 | 10 | SPI423 | X1125 | II | 須地 | II-B | 1.24 | 3.6 | 78 | 735V.1 | 褐色 | III~IV |
| 75 | 10 | SPI331 | | II | 須地 | II-B | 1.80 | | 84 | 575V.1 | 褐色 | III~IV |
| 76 | SU30 | X10943 | | II | 須地 | II-B | 1.17 | | 82 | NS.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 77 | | X20139 | | II | 須地 | II-B | 1.14 | | 88 | NS.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 78 | | X15727 | | II | 須地 | II-B | 1.17 | | 86 | JOY65.1 | 褐色 | III~IV |
| 79 | | SPI26 | | II | 須地 | II-B | 1.11 | | 71 | 595V.1 | 褐色 | V? |
| 80 | 8.9 | SU300 | X17339 X18726 X18729 | II | 須地 | II-B | 1.57 | 4.4 | 98 | N5.0 | 灰褐色 | III~IV |
| 81 | | SU300 | X17341 | II | 須地 | II-B | 1.39 | | 76 | 735V.1 | 褐色 | III~IV |
| 82 | | SPI406 | | I | 須地 | II-B | 0.72 | | 91 | NS.0 | 灰褐色 | II~III |
| 83 | | SPI406 | | I | 須地 | II-B | 1.22 | 3.5 | 70 | 735V.1 | 褐色 | II~III |
| 84 | | SPI203 | X16339 | I | 須地 | II-B | 1.26 | | 104 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 85 | 10 | SU302 | X17339 | I | 須地 | II-B | 1.26 | | 104 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 86 | | SPI203 SPI300 | X17339 X19140 | I | 須地 | II-B | 1.12 | 4.1 | 80 | N5.0 | 灰褐色 | II~III |
| 87 | | SPI203 SPI300 | X17339 X19140 | I | 須地 | II-B | 1.18 | | 84 | NS.0 | 灰褐色 | II~III |
| 88 | 10 | SU302 SPI300 | X16339 | I | 須地 | II-B | 1.36 | | 74 | NS.0 | 灰褐色 | II~III |
| 89 | 10 | SU302 SPI300 | X16339 | I | 須地 | II-B | 1.39 | 3.7 | 97 | 235V.2 | 褐色 | II~III |
| 90 | 10 | SU302 SPI300 | X15728 X15727 | I | 須地 | II-B | 1.38 | | 104 | 235V.1 | 褐色 | II~III |
| 91 | 10 | SU302 SPI300 | X15728 X15727 | I | 須地 | II-B | 1.19 | | 99 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 92 | | X18734 | | I | 須地 | II-B | 1.20 | | 110 | 235V.1 | 褐色 | II~III |
| 93 | | SU302 SPI300 | X15728 X15729 | I | 須地 | II-B | 1.36 | 3.5 | 84 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 94 | | SU302 SPI300 | X18734 | I | 須地 | II-B | 1.22 | | 110 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 95 | | SU302 SPI300 | X18734 | I | 須地 | II-B | 1.25 | | 113 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 96 | | SPI203 | X1125 | I | 須地 | II-B | 1.40 | 4.1 | 82 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 97 | | SPI203 | X1125 | I | 須地 | II-B | 1.25 | | 110 | 575V.1 | 褐色 | II~III |
| 98 | 10 | SPI207 | X1125 | I | 須地 | II-B | 1.28 | | 80 | N5.0 | 灰褐色 | II~III |

第11表 古代土器一覧(3)

| 番号 | 種類 | 器形番号 | 通情番号 | 出土地点 | 部位 | 種類 | 器形 | 口径(cm) | 底径(cm) | 足号 | 断土色調2 | 色名 | 時期 | 備考 | |
|-----|-------|--------|--------|------------|--------|--------|-----|--------|--------|------|--------|-------|-----|------|--|
| 99 | 素面 | X13Y21 | | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 109 | N6.0 | 灰色 | N | | |
| 100 | 素面 | SP258 | | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 109 | N6.0 | 灰色 | N | | |
| 101 | 10 | SL10 | X30Y44 | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 109 | N6.0 | 灰色 | N | | |
| 102 | 25 | 10 | SL223 | X11Y27 | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 116 | N6.0 | 灰色 | N | |
| 103 | 10 | SL223 | X23Y42 | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 117 | 23Y6.4 | 灰灰色 | N | | |
| 104 | | | X10Y25 | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 88 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V? | | |
| 105 | 10 | SL400 | SP257 | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 89 | 23Y6.1 | 灰灰色 | V? | | |
| 106 | | | X10Y25 | II | 須地器 | 杯形 | II | 11.0 | 2.5 | 101 | 10Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 107 | SL100 | 8 | SL100 | X13Y27 | X15Y26 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V~W | | |
| 108 | | | X18Y28 | X18Y29 | X18Y29 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 109 | SL100 | 8 | SL100 | X16Y39 | X16Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 110 | | | X13Y27 | X13Y27 | X13Y27 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 111 | SL100 | | X13Y28 | X13Y28 | X13Y28 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 112 | | | X16Y40 | X16Y40 | X16Y40 | I | 須地器 | 杯形 | I | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 113 | | | SL228 | SL228 | SL228 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 114 | | | SL222 | SL222 | SL222 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 115 | | | SP177 | SP177 | SP177 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 116 | | | SL400 | X15Y26 | X15Y26 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 117 | | | SL400 | X17Y27 | X17Y27 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 118 | | | SL400 | X15Y26 | X15Y26 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 119 | | | SL400 | X29Y24 | X29Y24 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 120 | | | SL400 | X17Y27 | X17Y27 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 121 | | | SL10 | X20Y50 | X20Y50 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 122 | | | SL10 | X15Y27 | X15Y27 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 123 | | | SK134 | X18Y49 | X18Y49 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | | |
| 124 | | | 8 | SL30(S)100 | X21Y41 | X21Y41 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 125 | | | 8 | SP271 | X17Y39 | X17Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 126 | | | 8 | SP268 | X16Y39 | X16Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 127 | | | 8 | SL100 | X18Y39 | X18Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 128 | | | 8 | SL228 | X17Y37 | X17Y37 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 129 | | | 8 | SL100 | X16Y30 | X16Y30 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 130 | | | 8 | SL100 | X17Y30 | X17Y30 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 131 | | | 8 | SL100 | X17Y30 | X17Y30 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 132 | | | 8 | SL100 | X17Y30 | X17Y30 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 133 | | | 8 | SL100 | X17Y30 | X17Y30 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 134 | | | 8 | SL100 | X17Y32 | X17Y32 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 135 | | | 8 | SL100 | X14Y26 | X15Y27 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 136 | | | 8 | SL228 | X13Y37 | X13Y37 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N | |
| 137 | | | 8 | SL100 | X20Y45 | X20Y45 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N~V | |
| 138 | | | 8 | SK296 | X16Y30 | X16Y30 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N~V | |
| 139 | | | 8 | SP194 | X18Y49 | X18Y49 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N~V | |
| 140 | | | 8 | SL100 | X17Y36 | X17Y36 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N~V | |
| 141 | | | 11 | SL100 | X17Y39 | X17Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V | |
| 142 | | | 11 | SL100 | X17Y39 | X17Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V | |
| 143 | | | 14 | SL230 | X20Y34 | X20Y34 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V | |
| 144 | | | 14 | SL230 | X20Y34 | X20Y34 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V | |
| 145 | | | 14 | SL230 | X20Y34 | X20Y34 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V | |
| 146 | | | 14 | SL230 | X17Y39 | X17Y39 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | V | |
| 147 | | | 27 | SL226 | SP216 | SP216 | II | 須地器 | 杯形 | II | 12.0 | 5Y6.1 | 灰灰色 | N~V? | |

第11表 古代土器一覽(4)

| 物 番 号 | 種 類 | 種 別 | 種 目 | 出土地点 | | 層 次 | 種 類 | 器 種 | 尺 寸(cm) | 厚 度 | 形 狀 | 記 号 | 新土色調 | 記号 | 新土色調 | 記号 | 色 名 | 時間 | 備考 |
|-------------|--------|--------|-----------------------|----------------|--------|--------|--------|--------|------------|--------|---------|--------|---------|---------|------|----|--------|----|----|
| | | | | 横 幅 | 高 さ | | | | | | | | | | | | | | |
| 148 | SIE23 | | | | | | 須地器 | 丸頭器 | (4.2) | | | | 73YR5.1 | | | | 褐色 | | |
| 149 | SIE267 | | | X187'96 | | | 須地器 | 圓 | 6.6 | | 須地器大柄49 | N4.0 | 褐色 | 73YR4.3 | | | 褐色 | | |
| 150 | 11 | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | (4.8) | | 須地器大柄11 | N5.0 | 褐色 | | | | V~VI | | |
| 151 | | SIE90 | X167'26 | | | | 須地器 | 圓 | (2.4) | | 須地器大柄56 | 5.6 | 褐色 | 73YR7.1 | | | 褐色 | | |
| 152 | 11 | SIE90 | X167'26 | | | | 須地器 | 圓 | 1.60 | | 須地器大柄24 | 2.4 | 褐色 | 73YR4.1 | | | 褐色 | | |
| 153 | 11 | SIE29 | X23'Y41 | | | | 須地器 | 圓 | 2.00 | | 須地器大柄98 | 0.98 | 褐色 | 73YR5.4 | | | 褐色 | | |
| 154 | | SIE90 | X87'34-X89'74 | | | | 須地器 | 圓 | (5.9) | | 須地器大柄17 | 1.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 155 | | SIE90 | X87'39 | | | | 須地器 | 圓 | (1.9) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR5.4 | | | 褐色 | | |
| 156 | | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | 2.20 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR5.4 | | | 褐色 | | |
| 157 | | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | (2.7) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 158 | | SIE65 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | 1.99 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 159 | 11 | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | 2.23 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 160 | | SIE90 | X197'33 | | | | 須地器 | 圓 | (1.3) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 161 | 11 | SIE28 | X11'30 | | | | 須地器 | 圓 | 3.21 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 162 | 11 | SIE90 | X23'Y42 | | | | 須地器 | 圓 | (3.2) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 163 | 27 | SIE90 | X11'38 | | | | 須地器 | 圓 | (2.7) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 164 | | SIE90 | X11'25 | | | | 須地器 | 圓 | 1.66 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 165 | | SIE90 | X20'47 | | | | 須地器 | 圓 | 5.5 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 166 | | SIE35 | X127'25 | | | | 須地器 | 圓 | (1.6) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 167 | | SIE60 | X127'25 | | | | 須地器 | 圓 | (8.0) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 168 | | SIE90 | X127'25 | | | | 須地器 | 圓 | (6.7) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 169 | | SIE90 | X11'25 | | | | 須地器 | 圓 | (2.3) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 170 | | SIE90 | X127'25 | | | | 須地器 | 圓 | (5.2) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 171 | | SIE90 | X167'25 | | | | 須地器 | 圓 | (4.2) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 172 | | SIE32 | X167'25 | | | | 須地器 | 圓 | (7.5) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 173 | | SIE219 | X167'25 | | | | 須地器 | 圓 | (7.2) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 174 | 11 | SIE90 | X17'27 | | | | 須地器 | 圓 | (6.3) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 175 | | SIE90 | X187'28-X127'28 | | | | 須地器 | 圓 | (7.7) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 176 | 11 | SIE90 | X13'39 | | | | 須地器 | 圓 | (4.1) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 177 | | SIE90 | X167'29 | | | | 須地器 | 圓 | (2.1) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 178 | | SIE90 | X187'29 | | | | 須地器 | 圓 | (3.4) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 179 | | SIE90 | X167'29 | | | | 須地器 | 圓 | (6.7) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 180 | | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | (5.5) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 181 | 28 | SIE36 | X15'35 | | | | 須地器 | 圓 | (20.0) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 182 | 12 | SIE100 | SE23 | X147'26-X17'27 | | | 須地器 | 圓 | (37.0) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 183 | 13 | SP256 | | | | | 十邊器 | 圓 | (6.8) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 184 | | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | (12.0) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 185 | | SIE90 | X197'23 | | | | 須地器 | 圓 | (1.5) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 186 | | トレー | X6 | X197'23 | | | 須地器 | 圓 | 3.0 | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 187 | | SIE90 | X17'27-X197'28-X15'35 | | | 1 | 須地器 | 圓 | (3.3) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 188 | 11 | SIE90 | X87'24-X97'24 | | | 2 | 須地器 | 圓 | (6.7) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 189 | 29 | SIE90 | X13'25 | | | 3 | 須地器 | 圓 | (7.8) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 190 | | SIE90 | X167'29 | | | 4 | 須地器 | 圓 | (1.5) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 191 | | | | | | 5 | 須地器 | 圓 | (1.9) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 192 | | | | | | 6 | 須地器 | 圓 | (4.4) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 193 | 12 | SIE90 | X17'27-X197'23 | | | 7 | 須地器 | 圓 | (8.3) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 194 | | SIE26 | X167'29 | | | 8 | 須地器 | 圓 | (34.0) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 195 | 30 | 8 | X197'40 | | | 9 | 須地器 | 圓 | (11.1) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |
| 196 | 13 | SIE26 | | | | 10 | 須地器 | 圓 | (12.8) | | 須地器大柄17 | 2.17 | 褐色 | 73YR6.1 | | | 褐色 | | |

第11表 古代土器一覧(5)

| 遺物 種別 番号 | 遺物 番号 | 遺物番号 | 出土地点 | 層位 | 種類 | 法量 | 法量(cm) | 底径 | 底高 | 記号 | 断土色調2 | 記号 | 時期 | 備考 |
|----------------|----------|--------|--------|----|----|-------|--------|----------|--------------|--------------|----------|----|----|----|
| 197 | SP177 | | | 土壠 | 壺 | 1.116 | 3.6 | 5.7 | 2.5 | 7.5YR6/8 | 褐色 | V | | |
| 198 | SP226 | X15Y26 | | 土壠 | 壺 | 1.24 | 2.6 | 4.8 | 5.7YR6/8 | 褐色 | V | | | |
| 199 | SL400 | X15Y26 | | 土壠 | 壺 | (2.5) | (1.8) | 5.3 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | N3.0 | 灰灰 | | |
| 200 | SL400 | X15Y26 | | 土壠 | 壺 | (2.0) | (2.0) | 5.5 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | 灰灰 | | |
| 201 | 8.9 | SL002 | X15Y27 | 土壠 | 壺 | 1.24 | 4.1 | 4.8 | 10YR8.4 | 6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 202 | SL002 | X15Y40 | | 土壠 | 壺 | 1.24 | 5.0 | 4.5 | 10YR8.4 | 6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 203 | SP228 | X20Y40 | | 土壠 | 壺 | (3.6) | (3.6) | 4.8 | 5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 204 | SL002 | X20Y40 | | 土壠 | 壺 | (2.1) | (2.1) | 5.0 | 7.5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 205 | SP119 | X17Y33 | II | 土壠 | 壺 | (3.6) | (3.6) | 4.9 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | 灰灰 | | |
| 206 | SP236 | | | 土壠 | 壺 | 1.24 | 4.5 | 4.8 | 5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 207 | SP216 | | | 土壠 | 壺 | 1.18 | (1.0) | 5.0 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 208 | SP225 | | | 土壠 | 壺 | (2.5) | (2.5) | 5.0 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 209 | SP274 | | | 土壠 | 壺 | (2.8) | (2.8) | 4.2 | 7.5YR7.3 | 1.5-6.5cm黃褐色 | N3.0 | 灰灰 | | |
| 210 | SP177 | SK193 | | 土壠 | 壺 | (1.6) | (1.6) | 5.4 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 211 | SP141 | SK193 | X15Y33 | II | 土壠 | 壺 | 1.24 | (3.8) | 5.0 | 7.5YR7/6 | 褐色 | V | | |
| 212 | SP141 | SK193 | X15Y33 | II | 土壠 | 壺 | 1.40 | (3.4) | 5.8 | 10YR8.4 | 6.5cm黃褐色 | V | | |
| 213 | SP225 | X15Y33 | | 土壠 | 壺 | (2.6) | (2.6) | 6.5 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 214 | SP225 | X15Y33 | | 土壠 | 壺 | (2.1) | (2.1) | 5.6 | 10YR7.3 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 215 | SP225 | X15Y33 | | 土壠 | 壺 | (1.2) | (1.2) | 6.0 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 216 | SP225 | X15Y33 | | 土壠 | 壺 | (1.2) | (1.2) | 4.0 | 7.5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 217 | SP257 | SP419 | | 土壠 | 壺 | (0.6) | (0.6) | 4.6 | 7.5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 218 | SP226 | | | 土壠 | 壺 | (0.7) | (0.7) | 5.2 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 219 | SP226 | | | 土壠 | 壺 | (0.8) | (0.8) | 5.2 | 10YR8.4 | 6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 220 | SP268 | | | 土壠 | 壺 | (1.3) | (1.3) | 4.8 | 10YR8.4 | 6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 221 | SP293 | | | 土壠 | 壺 | (1.4) | (1.4) | 5.3 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 222 | SP177 | | | 土壠 | 壺 | (1.6) | (1.6) | 4.8 | 5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 223 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | (1.6) | (1.6) | 5.0 | 7.5YR7/6 | 褐色 | V | | | |
| 224 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | (1.9) | (1.9) | 4.9 | 7.5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 225 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | (1.3) | (1.3) | 5.2 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 226 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | 1.25 | 6 | 5.0 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 227 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | (1.4) | (1.4) | 5.4 | 7.5YR6/6 | 褐色 | V | | | |
| 228 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | 1.34 | 2.2 | 6.0 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 229 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | (1.2) | (1.2) | 5.5 | 10YR7.3 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 230 | SP166 | | | 土壠 | 壺 | (1.2) | (1.2) | 5.1 | 7.5YR7/6 | 褐色 | V | | | |
| 231 | SP228 | | | 土壠 | 壺 | (1.2) | (1.2) | 5.8 | 7.5YR7/3 | 浅褐色 | V | | | |
| 232 | SP349 | SP267 | | 土壠 | 壺 | (1.2) | (1.2) | 6.6 | 7.5YR8.3 | 浅褐色 | V | | | |
| 233 | SP225 | | | 土壠 | 壺 | 1.25 | 2.6 | 7.5 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 234 | SP225 | | | 土壠 | 壺 | (3.2) | (3.2) | 5.2 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 235 | SP226 | | | 土壠 | 壺 | (2.1) | (2.1) | 7.8 | 7.5YR7/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 236 | SE231 | | | 土壠 | 壺 | (3.0) | (3.0) | 9.3 | 10YR8.4 | 6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 237 | SP226 | X15Y35 | II | 土壠 | 壺 | (3.4) | (3.4) | 10YR8.3 | 6.5cm黃褐色 | V | | | | |
| 238 | SP186 | X15Y38 | | 土壠 | 壺 | 1.96 | (0.5) | 10YR7.3 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | | |
| 239 | SL002 | X15Y38 | | 土壠 | 壺 | 2.30 | (0.5) | 10YR7.3 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | | |
| 240 | SP192 | | | 土壠 | 壺 | (1.0) | (1.0) | 1.9 | 5YR6/8 | 褐色 | V | | | |
| 241 | SP245 | | | 土壠 | 壺 | (1.6) | (1.6) | 3.3 | 5YR6/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 242 | SE231 | | | 土壠 | 壺 | (1.6) | (1.6) | 3.3 | 5YR6/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 243 | SP223 | | | 土壠 | 壺 | 1.16 | (1.0) | 3.3 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 244 | SP193 | X15Y34 | | 土壠 | 壺 | 2.18 | (1.0) | 3.3 | 10YR7.4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | |
| 245 | SL400 | | | 土壠 | 壺 | 3.78 | (6.0) | 7.5YR6/4 | 1.5-6.5cm黃褐色 | V | | | | |

第IV章 中世

1 概要

掘立柱建物1棟、井戸15基、溝11条、土坑を確認した。遺構は調査区全体に広がるが、井戸の分布には疎密がみられる。遺構は、埋土による古代との時期判別は困難であったことから、出土遺物や切り合いで確実なものを抽出した。そのため、古代の遺構として一括したものの中に中世の遺構が含まれている可能性は否定できない。

2 遺構と遺物

(1) 遺構

A 掘立柱建物

5号掘立柱建物（S B 5、第33図）

調査区やや東寄りの北端で、建物の南西部分のみを確認した。近代の攪乱により遺構上部は失われ、桁行4間以上、梁行3間以上とみられるが詳細は不明である。柱穴は古代に比べて小型で、先細りするものが多い。なお、今回の調査で唯一、S P 432には柱根の一部が遺存しており、樹種はクリと同定された。柱根樹種をまとめた町田賢一氏「木の家」『富山考古学研究』第6号（2003）では、県内の中世後期における柱根はクリが20%程度という結果で、中世前期までのスギ優位からやや多様化傾向にあるとされる。なお、建物の方位は44°東へ振り、古代の建物群とは指向が一変する。

B 井戸

15基を検出した。大半が素掘りで、木側や水溜の一部を残す例が少数みられる。井戸の構造についてはおもに宇野隆夫氏の井戸側構築材による分類に準拠した。

44号井戸（S E 44、第37図、図版6）

調査区の北東隅に位置し、一部は調査区外に延びる。長径118cm、深さは110cm以上とみられるが、壁面崩壊の恐れがあり、底部や掘形は確認出来ず部分的な発掘に止まった。埋土中位から井戸側上部が見え始め、縦板組隅柱横棧留と考えられる。なお、出土した横桟の樹種はスギと同定された。

45号井戸（S E 45、第37図、図版6）

調査区東寄りに位置し、S E 90が東に隣り合う。長径126cm、深さ100cmで、擂鉢状を呈する素掘り井戸である。埋土4層にはマーブル状に土の混入がみられ、人為的に埋め戻されたことがうかがえる。

90号井戸（S E 90、第37図、図版6）

調査区東寄りでS E 45の東に隣接する。素掘りで長径234cm、深さ174cmを測るが、断面観察から底部北寄りに水溜が据えられていた可能性がある。埋土4層について花粉分析の結果、栽培種とみられるイネ属型のほかカキノキ属も含まれており、周辺で栽培されていた可能性を示すものであった。

238号井戸（S E 238、第37図、図版6）

調査区中央に密集する井戸のひとつで、一部はトレンチにかかる。平面は不整方形で長径174cm、深さ160cmの素掘り、南東側は中位に段がある。擂鉢状の底部は湧水層とみられる砂層に達する。

253号井戸（S E 253、第36図、図版6）

調査区中央に位置し、S E 238の北西に隣接する。当初、大型の掘形をもつ1基と考えていたが、断削で確認したところ、ともに素掘りの新旧2基が重複していることが判明した。

S E 253旧は平面が不整楕円で、長径230cm以上、深さ143cmを測る。擂鉢状の底部は湧水層に達しており、水溜部分からは竹製とみられる籠^{かご}が3本みつかった。籠は平面円形の状態でみつかっており、結桶等を締めていたものと推測されるが、側板等は確認できず抜去されたと推測される。

S E 253新は平面が不整方形で、長径184cm、深さ162cmを測る。新井戸は旧井戸より20cmほど深く、底部に向かって二段掘り状をなし、中位以下はすばむ形状である。底部は湧水層に達しているが、水溜等は確認できなかった。

270号井戸（S E 270、第36図）

調査区西寄りに位置する。長径104cm、深さ100cmの素掘りで擂鉢状を呈するが、比較的浅い。この井戸を含め、西寄りの井戸は東に比べて底部までが浅い傾向を示す。

276号井戸（S E 276、第36図、図版7）

調査区中央で、S E 238の南に位置する。長径142cm、深さ198cmの素掘りで、筒状の底部が窪んだ形状をなす。底部は湧水層とみられる砂層に達しており、水溜が存在したと考えられる。埋土下位では植物遺体の混入する層があるが、井戸側などの構築材ではないとみられ、同層を花粉分析した結果、S E 90と同様にイネ属型やカキノキ属などがみつかっており、周辺環境を垣間見ることができる。

324号井戸（S E 324、第35図、図版7）

調査区中央よりやや東に位置する。長径146cm、深さ140cmの素掘りで、底部の一段窪んだ部分には水溜があったとみられる。底部の段上付近では曲物底板(283)が出土しており、樹種はヒノキである。また、最下層には竹筒が直立した状態で出土しており、井戸廃棄に伴う遺物と考えられる。これは井鎮めに関わる祭祀行為として節を抜いた竹筒を差し込む事例であり、井戸廃絶に際し、使用していた共同体において丁重な儀式が行われていたことを示すものといえる。

331号井戸（S E 331、第35図）

調査区中央より南西に位置する。長径228cm、深さ126cmの素掘りで、大きな掘形をもつ擂鉢状の底部は一段小さく窪む。埋土はレンズ状に堆積している。

397号井戸（S E 397、第35図、図版7）

S E 331の南東で調査区南端に位置する。掘形の平面形は楕円形で、長径214cm、深さ213cmの素掘り井戸である。底部は湧水層とみられる砂層に達しており、計測できた井戸のなかでは最も深い。掘形は大きいが、下位に向かって徐々に狭まり底部で小さくすばむ形状である。

422号井戸（S E 422、第34図、図版7）

調査区中央に位置し、南東部分はトレンチに掛かる。S E 423と掘形が重複し、S E 422が新しい。長径318cm、深さ176cmの素掘り井戸で、大きな掘形を持ち、底部は丸みのある擂鉢状を呈する。埋土上位から中位にかけては地山ブロックが多量に混じり、一気に埋めたような状況がみられる。

423号井戸（S E 423、第34図、図版7）

S E 422と重なり、S E 423が古い。長径350cm、深さ193cm以上の、検出した井戸のなかでは最大規模の掘形内に縦板組の木側が築かれる。縦板は上下4段で内側を横棟留しているが、隅柱は上下を貫く一本柱ではなく、角材状の短い柱がそれぞれ横棟間を支える造りとなっている。これは縦板組横棟支柱型とも分類される構造で、広島県草戸千軒町遺跡発掘調査報告のなかでは一本柱の隅柱より古相

を示すものとされている。縦板は厚みのある杉板を各辺に2枚程度立て、合わせ目外側には添板を押し当てる部分もある。また、掘形の崩壊を防ぐためか、さらにその外側の掘形縁に添板を据え、縦板との間を加工のない枝で支持している部分もある。横桟の空隙には木切れや石を詰めるなど、いたる所に工夫を凝らして頑強に造られた井戸側である。

なお、出土位置が判然としないが、S E324と同様、井戸廐棄に伴うとみられる竹筒も出土している。

S E422とS E423は最終確認のため2基を併せて断ち割ったが、湧水等の影響で壁面が大きく崩落し、木側構造等については詳細に図化できなかった。

430号井戸（S E430、第35図）

調査区西寄りに位置する。長径82cm、深さ124cmで、円筒状を呈する。

431号井戸（S E431、第35図）

調査区西端に位置する。長径88cm、深さ115cm、円筒状の底部に一段の窪みがある。

C 土坑（第38図）

第38図1～9は柱穴の可能性が高いと考えられる土坑群である。概要でも述べたとおり、古代の遺構との判別が困難で、中世遺物が出土した土坑については確実な中世遺構とみなしたが、本来の遺構数はさらに多かったことが推測される。全体的に小型で細い円筒状の形状を呈しており、柱痕跡は判りにくいものが多い。SK72は埋土中位から、SK131は底面からそれぞれ珠洲が出土した。SK181は二つの土坑を一度に掘削したものとみられる。

第38図10～13は検出時、井戸の可能性が高いと考えていたものである。SK322、SK323はともに長径90cm弱、深さ70～80cmで円筒状に落ち込む形状で、ともに底面は平坦である。SK398は長径164cm、深さ70cmを測り、底面が広く平らな形状で、断面が逆台形を呈する。

D 溝

30号溝（S D30、第33図）

調査区東端から北西方向へ走る溝である。最大幅254cm、最深26cmを測るが、規模は一定でない。検出当初は調査区北端でL字に屈曲すると考えており、古代の章で記述したSD30②と同一遺構と考えていたが、北西端の攪乱部分で新旧を確認し、このSD30は直進するものと推測される。出土遺物はさほど多くないが、珠洲（250）、白磁（246）のほか金属製品（278）や鉄滓（274）などがある。

38号溝・46号溝・73号溝・76号溝（S D38・S D46・S D73・S D76、第33図）

調査区東の南東端に位置する。4条の溝は約2.5m間隔で並行しており、遺構上部が削平を受けたため遺存状況は一様でないが、畠のサク状遺構と考えられる。

291号溝（S D291、第33図）

調査区西端から北東方向に延びる、幅34cm、深さ7cmの溝である。遺構上部が削平されているため途切れた箇所がみられるが、元々は一続きの溝と考えられる。後述するSD301とは直角方向をなしており区画溝の可能性が考えられる。

301号溝（S D301、第33図）

調査区北西に位置する。調査区北端から南東方向に延び、トレンチに掛かる。遺構上部は削平により失われているため、幅25cm未溝、深さ10cm前後の細い溝であるが、途切れながら検出したものがSD304、SD315となろう。

304号溝（S D304、第33図）

調査区中央より西に位置する短い溝だが、前述したS D301の延長上に位置することから同一遺構の可能性が高く、さらに延長上にS D315が位置付けられよう。

(2) 遺物

A 土器・陶磁器（第39図、図版14・15）

246は中国製白磁の碗である。内面の釉は蛇の目剥ぎ、12世紀中～後半の所産とみられる。247、248は瀬戸の皿で、底部には回転糸切り痕がある。247は鉢皿で、内面底部には鉢目が格子状に深く刻まれる。249は瓦質土器の鉢。海綿骨針を含む胎土はきめが細かい。250～268は珠洲である。250～263は鉢。鉢目の単位は251、261、262が14条、252が12条、254が7条で1単位をなす。253は内外面に煤が付着する。261～263の底部は全て静止糸切り痕が残る。出土した鉢の口径は20cm台がほとんどで、吉岡編年IV期（13世紀末～14世紀）頃の所産と考えられる。264～267は甕。264はやや長めに外反する口縁部や、体部が膨らむ形態からII期（13世紀前半）に相当すると考えられるが、その他はIV期とみられる。268はロクロ成形の壺。口縁部と底部のみで接合しないが、III～IV期（13世紀後半～14世紀）とみられる。

B 金属製品・鉄滓・羽口（第40図、図版16）

278は中央部で欠損した棒状の金属製品。断面が長方形を呈するが、鍛の状況から頭部があり、釘の可能性がある。269～277は鉄滓である。鉄滓の表面は凹凸が激しいが、なかには気泡状の細かな凹みや、微細な炭化物を見ることができる。272、273、276、277については底部の丸い形状から楕円形滓と考えられる。特に277は2つの楕円形滓が熔着したもので、操業2回分が重なったものとみられる。

280～282は籠の羽口である。いずれも小片のみだが、外面には熔着物がみられる。

C 石製品（第40図、図版16）

279は砥石で、ほぼ全面に擦痕が確認できるが、剥落や欠損が著しい。石材は凝灰岩である。

D 木製品（第41～44図、図版16～18）

283は曲物底板と考えられる円形板。径25.4cm、厚み0.6cmで、1/3が欠損し、残存しているほうも割れている。表裏面と側面はやや摩耗しており、角が取れて丸みをおびている。裏面に刀子痕がある。また上方に小さな孔があり、板に対して斜めにあけられている。木釘孔かとみえるが、1ヶ所だけであり、用途はわからない。樹種はヒノキで、同遺構から出土した曲物側板破片はスギであった。

284～286は折敷。底板と棧はばらばらに出土したが、底板と棧のそれぞれの縫孔位置を見て、復元図化した。底板は上下左右の辺がほぼ直線、もしくは緩やかに湾曲し、四隅は切り落とさずに角のままである。表裏面は薄く削って整えられている。左右の辺近くに各2ヶ所、上下の辺近くの中央に各1ヶ所、長さ2mm、幅1mmほどの縫孔が2孔一対であけられており、孔内には縫皮が残存する。棧は幅5mm、高さ3～5mmの棒状で、両端部は斜めに切り落とす。この棧を底板の四辺に沿って1本ずつ配置し、棧の側面から縫皮を貫通させ、底板の縫孔に通して結合している。縫皮を棧の上に掛け渡して結合するよりもズレがなく、堅固な結合方法をとっているといえよう。284は右上隅と2/3以上が欠損しており、右上の縫孔の一つは残存しているものの、半分が欠けている。棧が1本残存している。

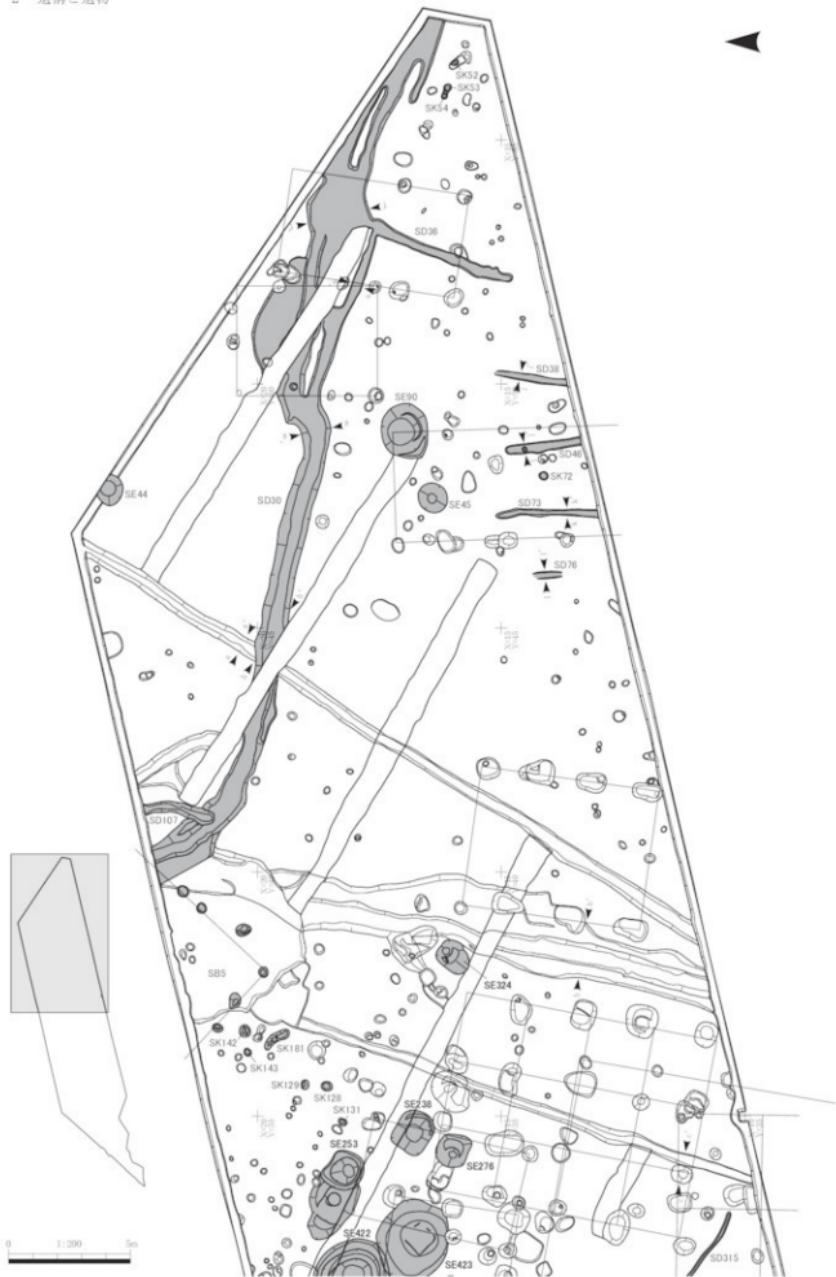
285は底板が完形で、棟が3本残存する。286は左上隅が欠損しており、棟が3本残存している。285と286の裏面には「△」の形に見える焦げがあり、意図的だとすれば、所有などを示す印の可能性がある。樹種は285のみ同定を行い、底板と棟のいずれもヒノキである。

287~290は井戸構築材の横桟。芯去りの分割材の木表側や側面を鋸で削って粗く整形し、木表側はほぼ未整形のまま、製材時の割裂した面を残す。上下面には鋸による分割の痕跡がみられる。両端は片方を凸型、もう片方を凹型に加工しており、凸部の根元には鋸、凹部は盤で加工した痕跡がある。287は大きな節の目立つ材で、表面の上半と下半部の右側は腐食によって原形をとどめていない部分が多いものの、表面上部に1ヶ所、表面中央から左側面にかけて2ヶ所、中央右側面1ヶ所に四角い穴が穿たれている。出土時にこれらの穴に組み合っていたものではなく、用途はわからない。転用材であろう。288は断面が四角形ではあるが、製材時の木取りによるもので、裏面はほぼ未整形である。両側面は鋸によって粗く削られて整形されている。凹部のほうに寄ったところへ長方形の孔があけられており、一方から孔にむかって浅い傾斜がつけられている。裏面の孔の上側には、平滑に削った部分がある。これも287と同様、転用材であろう。289は小径材の半割材で、木表側の弧の頂にあたる部分と右側面のみを鋸で削って整形している。裏面は両端に近い部分のみ削って、凸部と凹部の厚みがやや薄くなるよう仕上げている。凸部の上面には、製材時の鋸による切断痕が観察でき、木表と木裏からそれぞれ挽き出して、中ほどで切断してある様子が窺える。290は凸部の形が他と違い、なで肩状に削りだしたもの。凹部は表裏を削って厚みを減らしている。樹種は287・289・290を同定し、いずれもスギであった。

291・292は井戸構築材の隅柱で、芯去りの分割材をほぼ未整形のまま使用した、粗い作りのもの。292は下面に左右から鋸で挽いた痕跡があり、中央に穴が穿たれている。上面にはくぼみが加工されている。横桟と組み合うものではなく、孔とくぼみの用途は不明である。樹種はいずれもスギ。

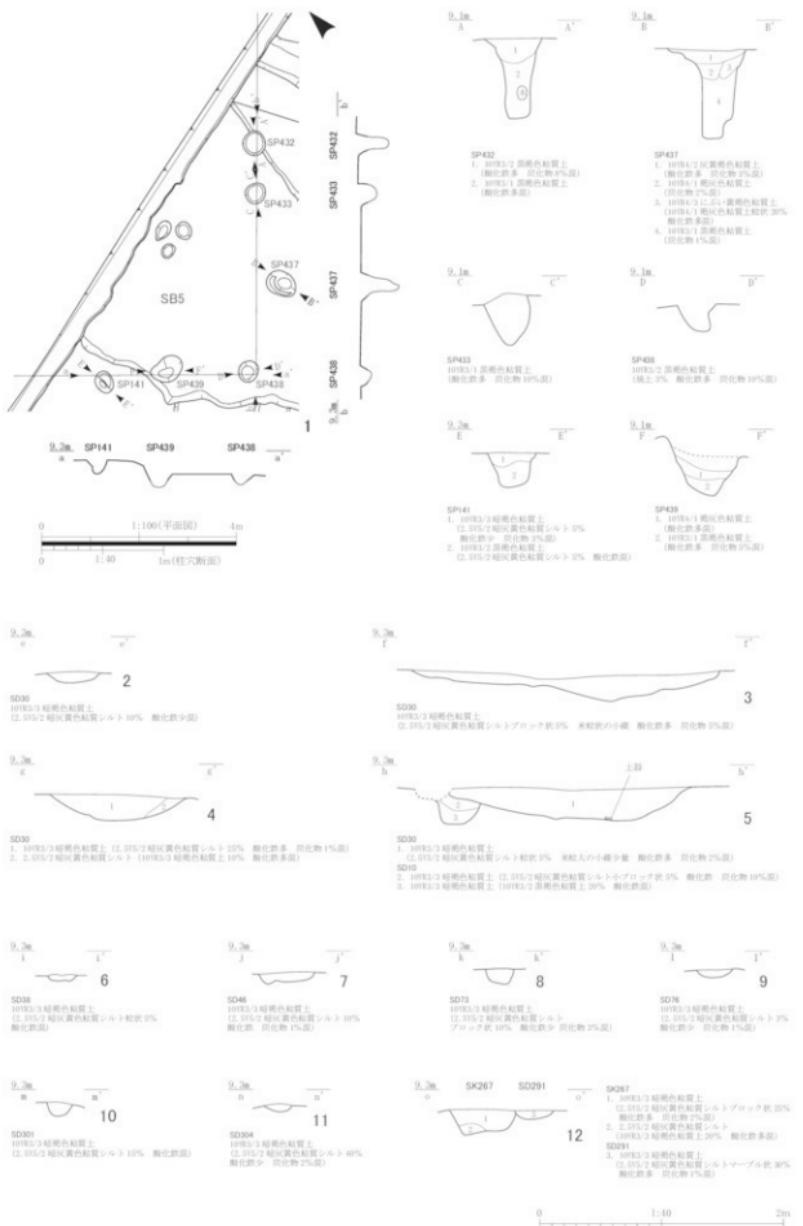
293~296は井戸構築材の縦板。293は追柱目の板材の上下両端を、表面だけ削て薄くしたもの。上端に孔が1つ穿たれている。294~296は大径材からとった板目材の表面中央に、縦約10cm、横約3~5cmの加工痕が鱗状に整然と並んでおり、加工痕の一つ一つには、短軸方向に工具の刃こぼれ痕が観察できる。これは板を横長にして置き、木目とは直角の短軸方向に上から下へ、刃幅約10cmの鋸で削ったものとみられ、「春日権現駿記絵」などの中世の絵巻にみられるように、座ったまま削る方法で加工したものとみられる。表面の上下に加工痕がみられないのは、腐食による。また、表面の両端、もしくは、いずれかの端は、表面中央の削り方とは違って、長軸方向へ細かく連続して削って仕上げる方法をとっている。294は裏面に加工痕がみられず、製材時の割裂面のままでおり、左上隅の出っ張りは、後述する296のような「相欠きはぎ」の可能性がある。295は裏面も削ってあるが、腐食により、不明瞭である。296は2枚の板目材を中央付近で、長さ4.5cm、幅1.2cmの「相欠きはぎ」で組み合わせ、幅の広い一枚板としたもの。表面は他の縦板よりも残りがよく、ほぼ全面に加工痕がみられた。左右端は細かく削って仕上げている。裏面は不明瞭であるが、加工痕とともに、横方向の圧痕がみられた。横桟が当たっていた痕かと考えたが、圧痕の間隔が20~30cmほどと狭く、長さ50cmの隅柱とは合わないため、何に由来するものかはわからない。樹種は294と296を同定しており、いずれもスギである。約60cmの横幅のある295でも、木取りからみて、原本の直径を示すには至っていない。かなりの大径材が入手できる環境にあったことが窺える。

註：実測図の木取りは、年輪を計測したものではなく、模式的に表したものである。



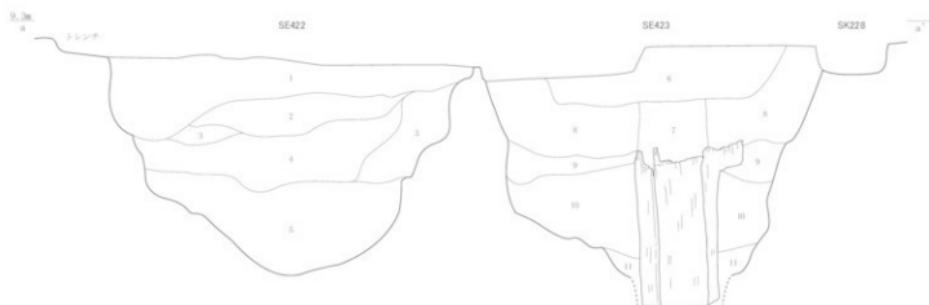
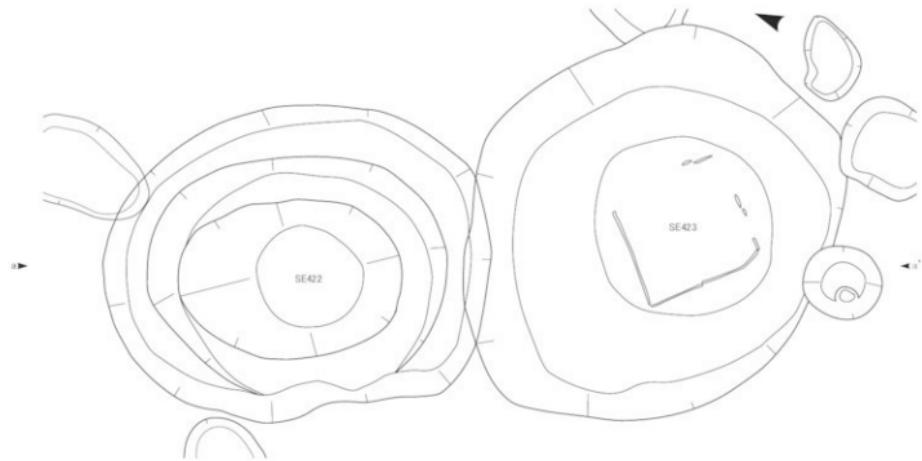
第31図 中世遺構全体図





第33図 中世遺構実測図

1. SB5 2 ~ 5. SD30 6. SD38 7. SD46 8. SD73 9. SD76 10. SD301 11. SD304 12. SD291



SE422

1. 1093/3 線画色粘質土 (2.05/2 線画黄色粘質シートブロック約 10%、無化鉄部)
2. 2.05/2 線画黄色粘質シート (1093/2 線画色粘質土 2%、無化鉄多量)
3. 1093/2 黄色粘質土 (2.05/2 線画黄色粘質シート 20%、無化鉄少量、L.まきなL.)
4. 2.05/2 黄色粘質土 (1093/2 線画色粘質土 80%、1093/2 黄色粘質土 10%、S14/1 黄色粘質シート 5%、無化鉄多量)
5. 1093/2 黑褐色粘質土 (2.05/2 線画黄色粘質シート 20%、S14/1 黄色シート 25%、無化鉄少量)

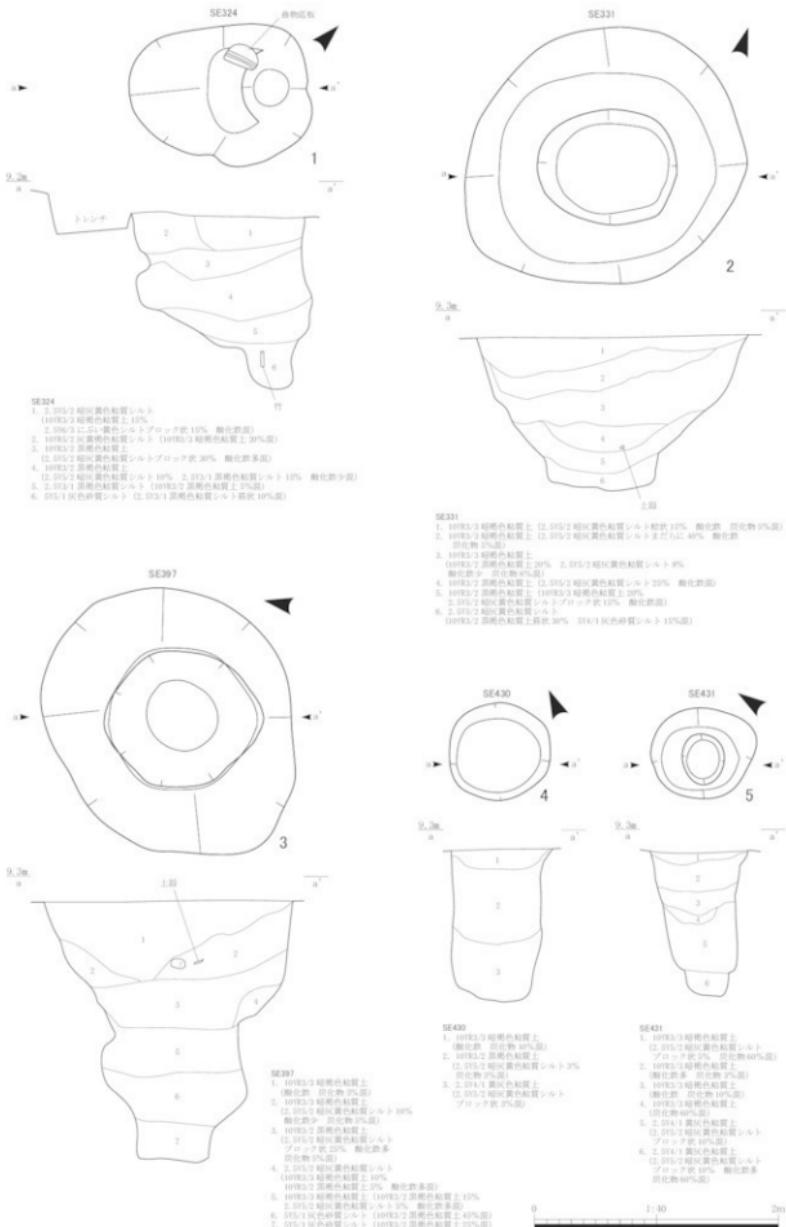
SE423

6. 1093/3 線画色粘質土 (2.05/2 線画黄色粘質シートブロック約 25%、無化鉄部)
7. 1093/2 黄色粘質土 (S14/1 黄色シート 25%、無化鉄部)
8. 1093/2 黄色粘質土 (2.05/2 線画黄色粘質シートブロック約 30%、無化鉄多量)
9. 1093/2 黑褐色粘質土 (S14/1 黄色粘質シート 20%、無化鉄少量)
10. 1093/2 黑褐色粘質土 (S14/1 黄色粘質シート 40%、無化鉄多量)
11. S14/1 黄色粘質シート (1093/2 黄色粘質土 10%部)

第34図 中世遺構実測図

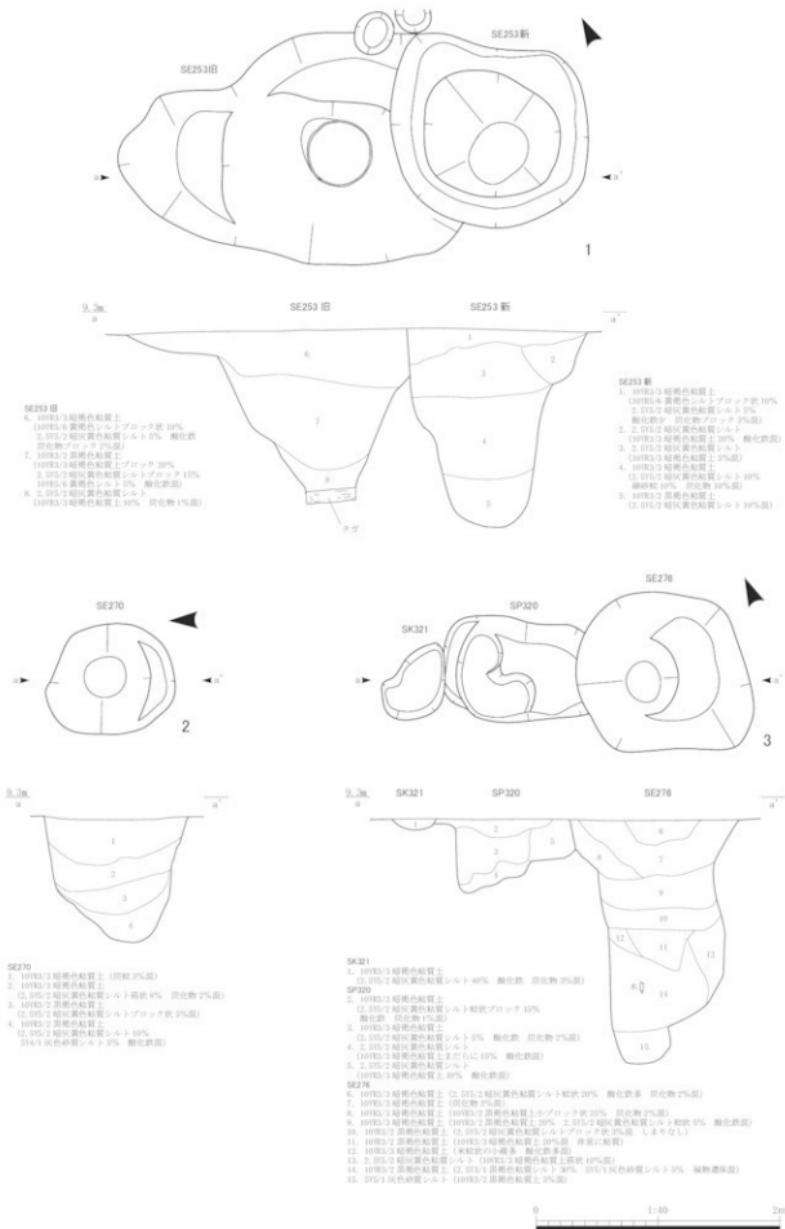
SE422・SE423

0 1:40 2m



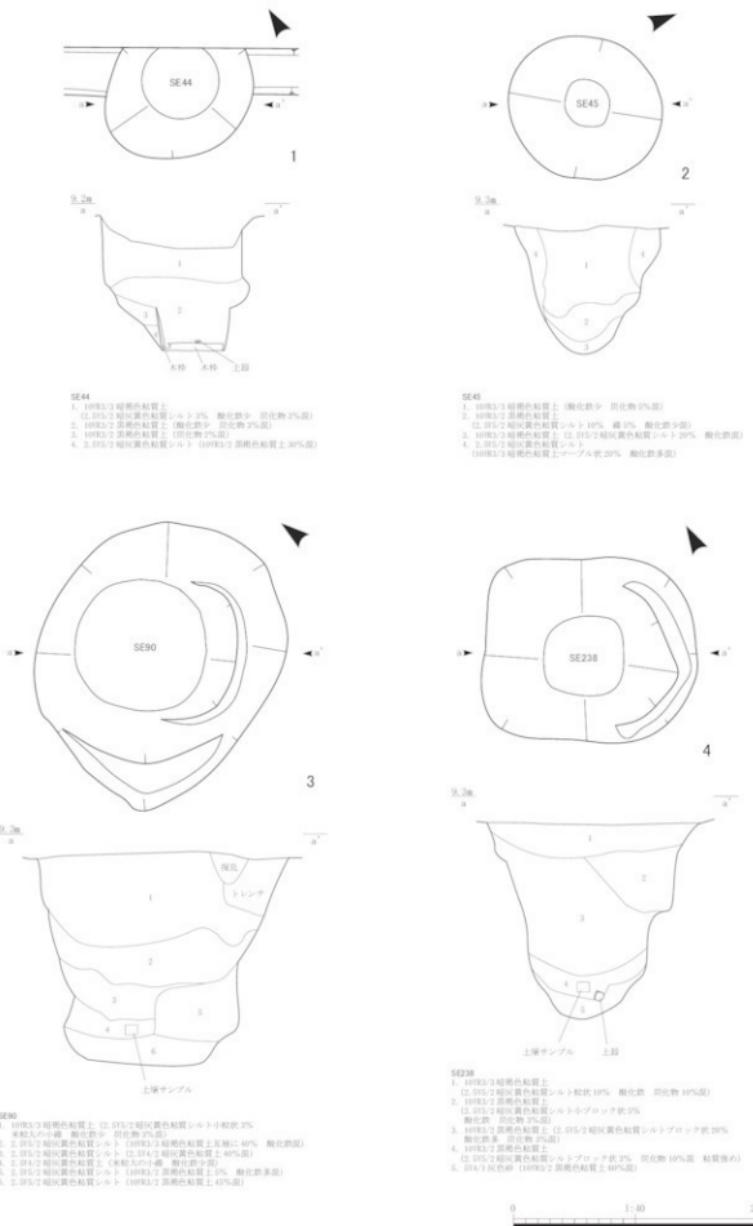
第35図 中世遺構実測図

1. SE324 2. SE331 3. SE397 4. SE430 5. SE431



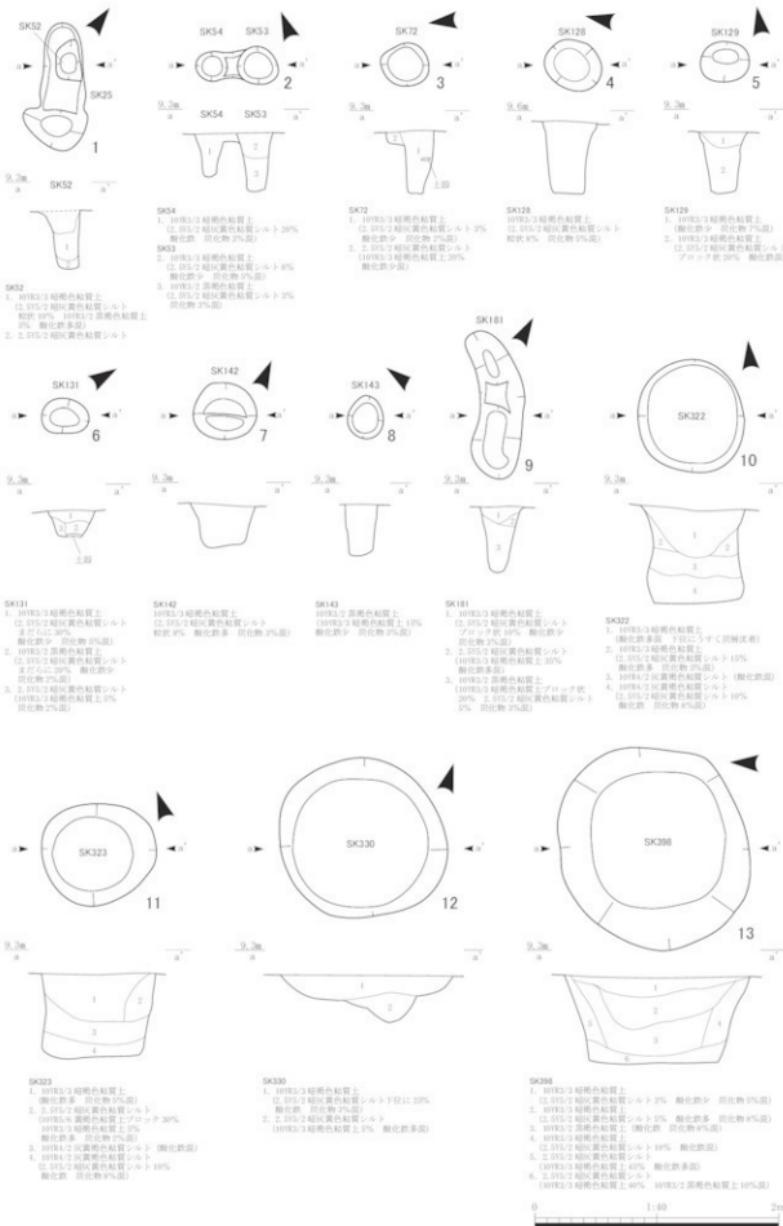
第36図 中世遺構実測図

1 SF253 2 SF270 3 SF276



第37図 中世遺構実測図

1. SE44 2. SE45 3. SE90 4. SE238



第38図 中世遺構実測図

1. SK52 2. SK53 · SK54 3. SK72 4. SK128 5. SK129 6. SK131 7. SK142 8. SK143 9. SK181
10. SK322 11. SK323 12. SK330 13. SK398

第12表 中世掘立柱建物一覧

| 建物 番号 | 柱行 間 | 梁行 間 | 柱行長(m) | | | 梁行柱間 距離(m) | 平均 | 計 | 面積 (m ²) | 方位 | 柱穴 | 備考 | 挿図 番号 | 国版 番号 | | |
|----------|---------|---------|-----------|------|------|---------------|----|------|-------------------------|------|---------|-----|----------------|----------------|----------------|----|
| | | | 柱行柱間距離(m) | 平均 | 計 | | | | | | | | | | | |
| SE5 | 4~? | 3~? | 0.43 | 0.75 | 0.74 | 0.64 | | 0.54 | 0.68 | 0.61 | N-44°-E | 東西棟 | SP411 SP437 | SP439 SP433 | SP438 SP432 | 33 |

第13表 中世井戸一覧

| 造構 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出土遺物(国番号) | 切り合い | 特記事項 | 挿図 番号 | 国版 番号 |
|---------|------|--------|-----|------|---|----------------------------|------------|----------|----------|
| | | 長 | 幅 | 深 | | | | | |
| SE44 | 円 | 118 | 90 | 110~ | 須恵器 土師器 珠洲 | | | 37 | 6 |
| SE45 | 円 | 126 | 116 | 100 | 須恵器 土師器 刃口? 鉄津(270) | | | 37 | 6 |
| SE90 | 楕円 | 234 | 206 | 174 | 須恵器 土師器 珠洲(256, 257) | | | 37 | 6 |
| SE238 | 不整方 | 174 | 152 | 160 | 須恵器(112, 136, 161) 土師器(231) | | | 37 | 6 |
| SE238ii | 不整楕円 | (230) | 164 | 143 | | | 底部に竹製? 罐3本 | 36 | 6 |
| SE253新 | 不整方 | 184 | 190 | 162 | 須恵器(146) 土師器 珠洲(362) | | | 36 | 6 |
| SE270 | 楕円 | 104 | 90 | 100 | 須恵器 土師器 珠洲(252) | | | 36 | |
| SE276 | 楕円 | 142 | 130 | 198 | 須恵器(19, 194) 土師器 珠洲(266) 灰化物 燃土塊 焼石 | >SP320 | | 36 | 7 |
| SE324 | 楕円 | 146 | 116 | 140 | 須恵器 土師器 銀物底板(283) | | | 35 | 7 |
| SE331 | 円 | 228 | 210 | 126 | 須恵器(32, 39, 75, 144) 土師器(236) 灰化物 鉄津 | | | 35 | |
| SE297 | 楕円 | 214 | 204 | 213 | 須恵器(29, 46, 98, 149, 179, 181) 土師器 珠洲(260) 土種 灰化物 石灰(279) 鉄津 | | | 35 | 7 |
| SE422 | 楕円 | 318 | 260 | 176 | 須恵器(114) 土師器 珠洲(255) 井戸築? 燃土塊 須恵器(67, 74, 103) 土師器(242, 243) 珠洲(253, 254, 258, 267) 瓢口(247) 瓢質(249) 斧敷(284, 285, 286) | >SE423 >SP228 <SE422 | | 34 | 7 |
| SE423 | 円 | 350 | 300 | 193~ | 須恵器(287, 288, 289, 290, 291, 292, 293, 294, 295, 296) 灰石 燃土塊 | | | 34 | 7 |
| SE430 | 円 | 82 | 80 | 124 | 須恵器 土師器 鉄津 | | | 35 | |
| SE431 | 楕円 | 88 | 76 | 115 | | | | 35 | |

第14表 中世土坑一覧

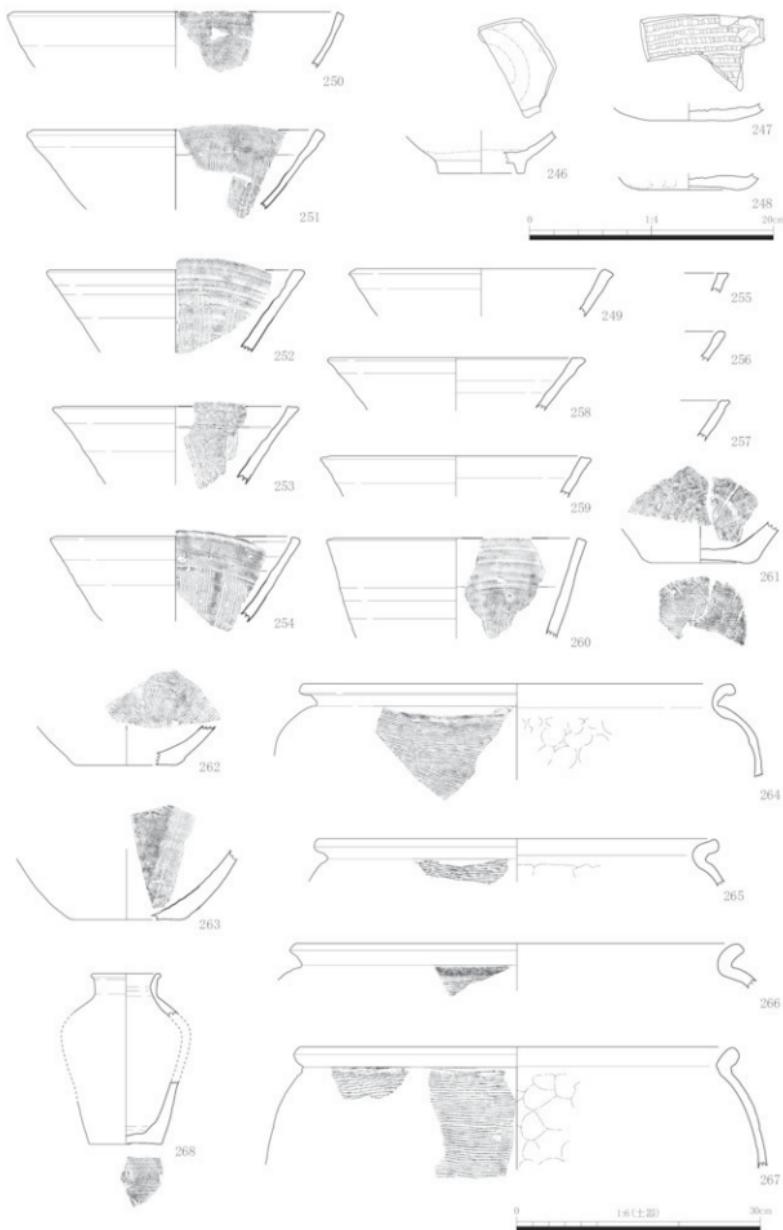
| 造構 | 平面形 | 規模(cm) | | | 出土遺物(国番号) | 詳細時期 | 切り合い | 特記事項 | 挿図 番号 | 国版 番号 |
|-------|-----|--------|-----|----|-------------|------|------|-------|----------|----------|
| | | 長 | 幅 | 深 | | | | | | |
| SK52 | 方 | 30 | 20 | 47 | | | | >SK25 | | |
| SK53 | 円 | 32 | 32 | 48 | | | | >SK54 | | |
| SK54 | 楕円 | (34) | 22 | 36 | | | | <SK53 | | |
| SK72 | 円 | 40 | 36 | 51 | 珠洲 | | | | | |
| SK128 | 円 | 48 | 42 | 60 | | | | | | |
| SK129 | 円 | 40 | 32 | 50 | | | | | | |
| SK131 | 楕円 | 40 | 30 | 22 | 土師器 珠洲 | | | | | |
| SK142 | 円 | 52 | 46 | 36 | 須恵器 土師器 珠洲 | | | | | |
| SK143 | 円 | 36 | 28 | 42 | | | | | | |
| SK181 | 長楕円 | 124 | 42 | 54 | 須恵器 土師器 燃土塊 | | | | | |
| SK322 | 円 | 92 | 88 | 79 | | | | | | |
| SK323 | 円 | 94 | 84 | 69 | | | | | | |
| SK330 | 円 | 138 | 132 | 40 | | | | | | |
| SK398 | 円 | 164 | 154 | 70 | | | | | | |

38

第15表 中世溝一覧

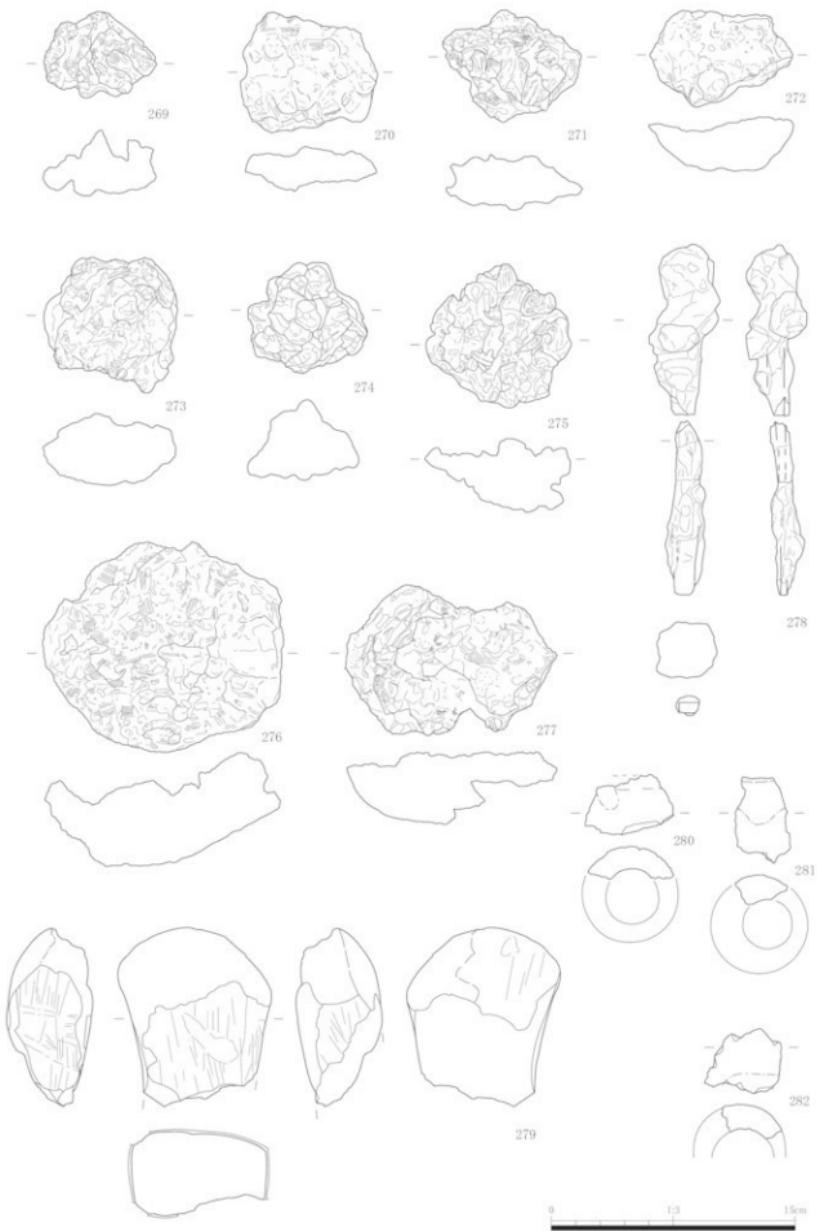
| 造構 | 規模(cm) | | | 出土遺物(国番号) | 切り合い | 特記事項 | 挿図 番号 | 国版 番号 |
|-------|--------|----|---|-----------|-----------------------------|------|----------|----------|
| | 長 | 幅 | 深 | | | | | |
| SD30 | 254 | 36 | 須恵器(53, 54, 76, 162, 165) 土師器 珠洲(250) 白磁(246) 羽口 鉄津(274) 棒状金属製品 (278) | | >SD10 | | | |
| SD38 | 30 | 5 | | | | | | |
| SD46 | 46 | 9 | 須恵器 | | | | | |
| SD73 | 26 | 13 | | | | | | |
| SD76 | 30 | 7 | | | | | | |
| SD291 | 34 | 7 | | | >SK267, SP257, SP259, SP260 | | | |
| SD301 | 24 | 12 | 須恵器(81) | | | | | |
| SD304 | 24 | 6 | 土師器 | | | | | |

33



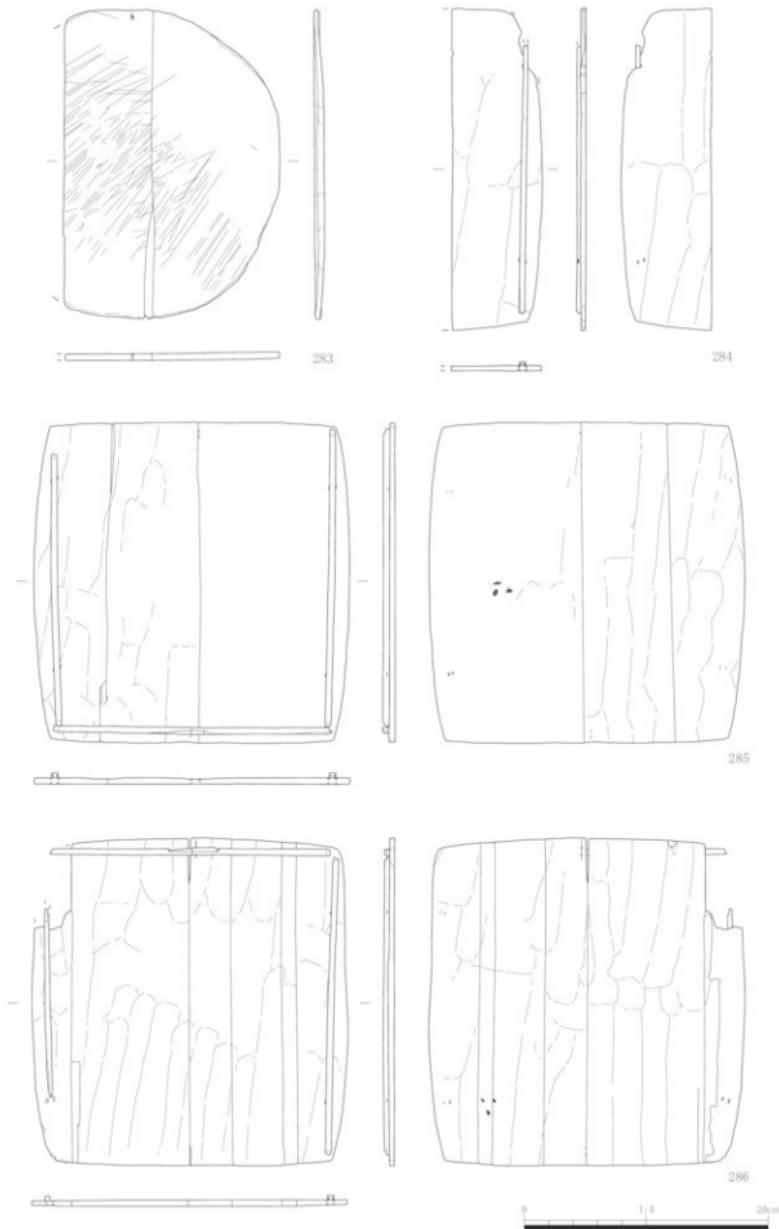
第39図 中世遺物実測図 (246~248 1/4, 249~268 1/6)

SD30(246・250) SE423(247・249・253・254・258・267) SE270(252) SE422(255) SE90(256・257)
SE397(260) SD30②(261) SE253(262) SE276(266) 包含層

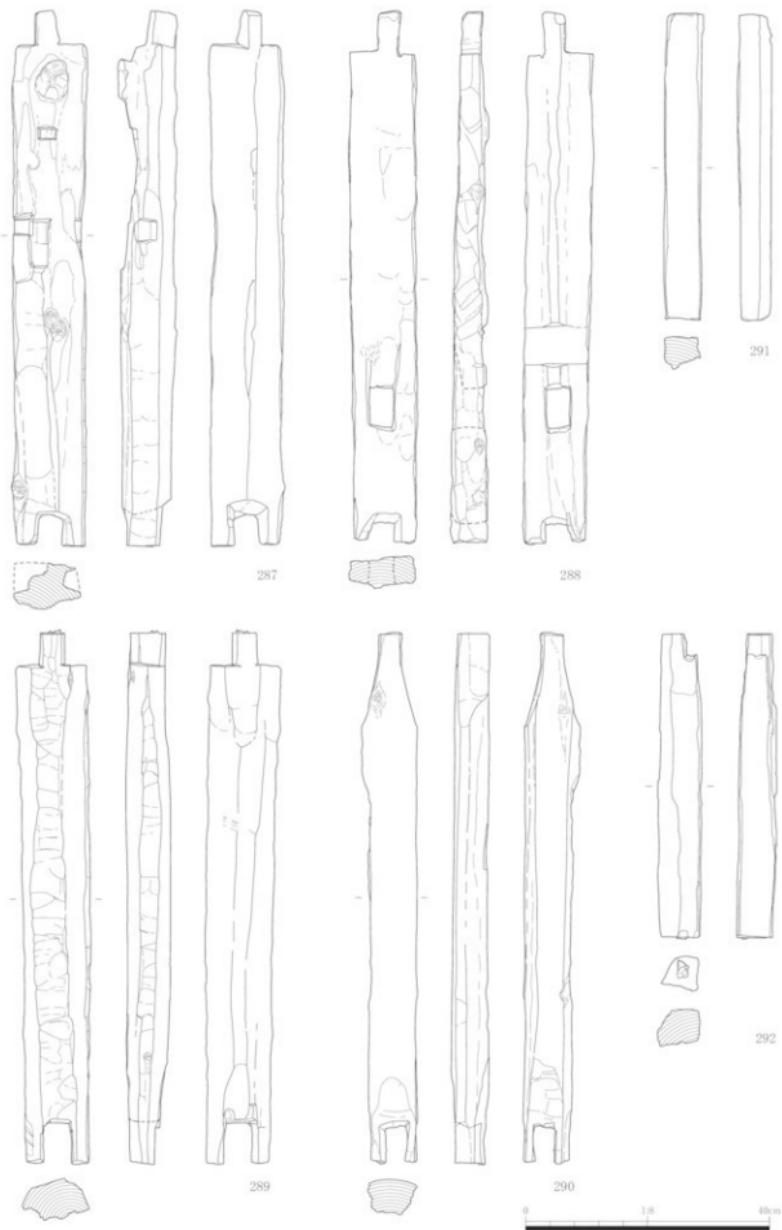


第40図 中世遺物実測図(1/3)

SD30②(269・276・280) SE45(270) SD400(271・277) SP109(272) SD30(274・278) SK88(275)
SE397(279) 包含層

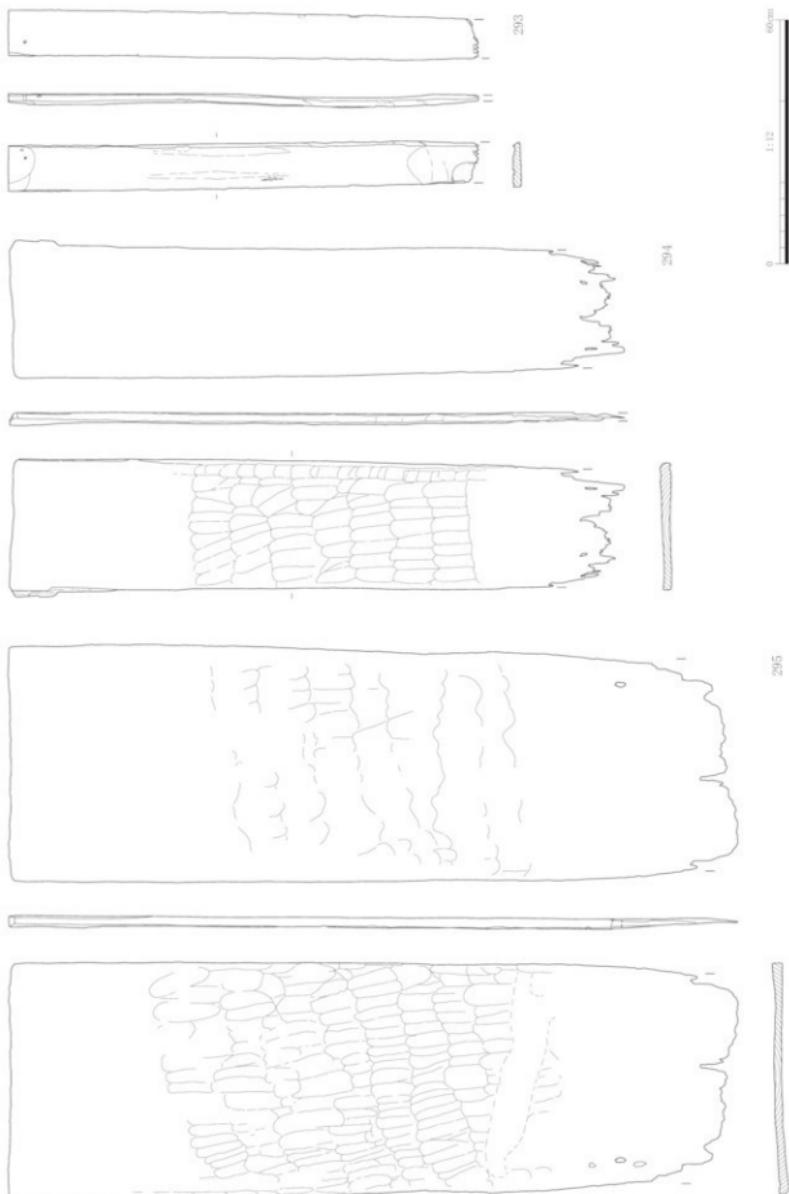


第41図 中世遺物実測図(1/4)
SE324(283) SE423(284~286)

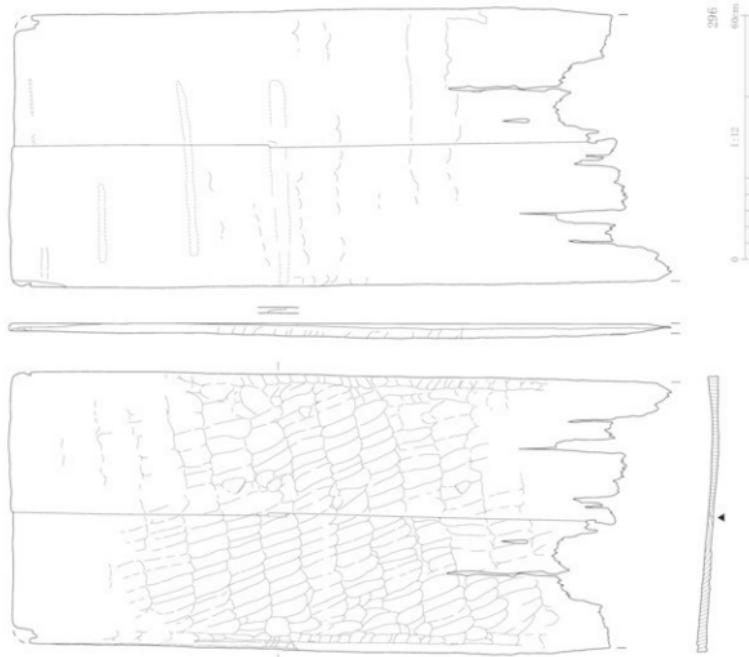


第42図 中世遺物実測図(1/8)

SE423(287-292)



第43図 中世遺物実測図(1/12)
SE423(293~295)



第44図 中世遺物実測図(1/12)
SE423(296)

第16表 中世遺物一覧(1)

| 遺物 番号 | 測量 番号 | 測量番号 | 出土地点 | 層位 | 種類 | 形態 | 口径× 高さ(cm) | 注記 | 粘土色調1 | 粘土色調2 | 時期 | 備考 |
|----------|----------|----------------------|---------|------|-------|------|---------------|--------|--------|-----------|-----------|-----------------|
| 246 | SH030 | X18Y51 | | | 中國製白磁 | 瓶 | (35) | 7.1 | 577.1 | 灰白色 | 輪 : 5Y6.2 | 12C中~後半 |
| 247 | 15 | SH423 | X20Y138 | II | 瓶口 | 瓶口 | (14) | 7.6 | 2577.3 | 浅黄色 | 輪 : 5Y6.2 | 灰白色 |
| 248 | | レ-ン-f 4 | | 瓶口 | 瓶口 | (13) | 8.9 | 518.2 | 灰白色 | 輪 : 5Y6.3 | 灰白色 | |
| 249 | SH423 | | | 瓦質土器 | 鉢 | 30.6 | | 5Y4.1 | 灰白色 | | | |
| 250 | SH030 | X18Y49 X20Y15 X20Y47 | II | 珠圓 | 罐体 | 40.2 | | 576.1 | 灰白色 | | II? | |
| 251 | | X20Y34 | II | 珠圓 | 罐体 | 35.0 | | N4.0 | 灰白色 | | N? | 新日14系1單位 |
| 252 | SH270 | | | 珠圓 | 罐体 | 31.2 | | N4.0 | 灰白色 | | N? | 新日12系1單位 |
| 253 | SH423 | | | 珠圓 | 罐体 | 27.8 | | 757.4 | 灰白色 | | N | 外外面にスヌ付着 |
| 254 | SH423 | | | 珠圓 | 罐体 | 29.0 | | N6.0 | 灰白色 | | N? | 新日7系1單位 |
| 255 | SH422 | | | 珠圓 | 罐体 | | | 576.1 | 灰白色 | | N2 | |
| 256 | SH290 | | | 珠圓 | 罐体 | | | 518.1 | 灰白色 | | N2 | |
| 257 | 14 | SH390 | | 珠圓 | 罐体 | | | 2575.4 | 黄色 | | N | |
| 258 | 39 | SH423 | | 珠圓 | 罐体 | 31.0 | | 2577.2 | 灰白色 | | N2 | |
| 259 | | X16Y57 | II | 珠圓 | 罐体 | 31.2 | | 2578.3 | 浅黄色 | | N | |
| 260 | SH287 | | | 珠圓 | 罐体 | 30.5 | | 2576.1 | 黄色 | | N | |
| 261 | SH030(2) | X18Y52 X18Y54 | | 珠圓 | 罐体 | | | 14.0 | 2576.1 | 黄色 | | 新日14系1單位 灰白色 |
| 262 | SH253 | | | 珠圓 | 罐体 | | | 12.4 | 2576.1 | 黄色 | | 新日14系1單位 灰白色 |
| 263 | | X22Y48 | II | 珠圓 | 罐体 | | | 14.0 | 576.1 | 灰白色 | | 灰白色 |
| 264 | | X20Y45 | II | 珠圓 | 甕 | 52.8 | | 2576.1 | 灰白色 | | II? | |
| 265 | | X20Y39 | 1 | 珠圓 | 甕 | 49.0 | | N5.0 | 灰白色 | | N | |
| 266 | | SH276 | | 珠圓 | 甕 | 54.6 | | 576.1 | 灰白色 | | N | |
| 267 | SH423 | X17Y57 | II | 珠圓 | 甕 | 53.6 | | 576.1 | 灰白色 | | N | |
| 268 | | X18Y49 X17Y57 X18Y51 | II | 珠圓 | 甕 | 80 | (21.1) | 8.8 | 2577.1 | 灰白色 | III~IV? | |
| 269 | SH030(2) | X18Y39 | | 真津 | 真津 | 6.9 | 5.3 | 4.0 | | | | |
| 270 | 40 | SH45 | | 真津 | 真津 | 8.4 | 7.3 | 2.3 | | | | |
| 271 | 40 | X18Y40 | X18Y45 | | 真津 | 8.5 | 6.8 | 3.4 | | | | |
| 272 | | SH109 | | 真津 | 真津 | 8.7 | 5.9 | 3.2 | | | | |

第16表 中世遺物一覧(2)

| 遺物 番号 | 種別 番号 | 備考番号 | 出土場所 | 層位 | 種類 | 形態 | 口径 径高 径厚 (cm) | 鉢土色調 記号 | 鉢土色調2 記号 | 時期 | 備考 |
|----------|----------|---------|---------|----|---------|----|-----------------------------------|------------------|-------------|------------------------------|----|
| 273 | | X21Y40 | | I | 真漆 | | 8.2 8.2 4.4 | | | | |
| 274 | SU303 | X20Y47 | | | 真漆 | | 7.3 6.7 4.9 | | | | |
| 275 | SE588 | | | | 真漆 | | 8.9 8.7 4.5 | | | | |
| 276 | SH3003 | X21Y42 | | | 真漆 | | 14.7 12.8 3.2 | | | | |
| 277 | SH400 | X88Y24 | | | 真漆 | | 12.9 9.2 4.4 | | | | |
| 278 | 16 | SU303 | X185Y51 | | 漆込金属製品 | | (21.4) 1.2 0.6 | | | | |
| 279 | | SE267 | | | 硯石 | | (11.0) (9.3) (12.2) | | | | |
| 280 | | SH3003 | X181Y38 | | 漆口 | | (3.6) (5.3) (2.0) | | | | |
| 281 | | b 1-2-4 | | | 漆口 | | (5.2) (3.3) (1.8) | | | | |
| 282 | | X153Y33 | | II | 漆口 | | (3.9) (4.6) (2.1) | | | | |
| 283 | | SE254 | | | 漆下器 | | 25.4 (17.8) 0.6 | | | | |
| 284 | | SE423 | | | 折敷 | | 26.1/22.0 (7.4)/9.4 0.4/0.3 | | | | |
| 285 | 41 | SE423 | | | 折敷 | | 26.3/24.5 25.8/0.5 0.5/0.4 | | | | |
| 286 | 17 | SE423 | | | 折敷 | | 26.8/24.3 24.8/0.5 0.5/0.4 | | | | |
| 287 | 18 | SE423 | | | 井戸漆材 植枝 | | 87.8 87.3 80 | 123 110 60 | | M150029 漆底穴 形 磨孔6ヶ所 創孔3ヶ所 | |
| 288 | | SE423 | | | 井戸漆材 植枝 | | | | | M150027 漆底穴 形 磨孔6ヶ所 創孔3ヶ所 | |
| 289 | 18 | SE423 | | | 井戸漆材 植枝 | | 87.2 87.0 91 | 118 73 62 | | M150074 | |
| 290 | | SE423 | | | 井戸漆材 植枝 | | | | | M150070 | |
| 291 | | SE423 | | | 井戸漆材 植枝 | | 50.0 50.0 60 | 53 70 60 | | M150067 | |
| 292 | | SE423 | | | 井戸漆材 植枝 | | (115.2) 112 27 | | | M150068 | |
| 293 | | SE423 | | | 井戸漆材 植板 | | 152.0 134.0 20 | | | M150069 | |
| 294 | 43 | SE423 | | | 井戸漆材 植板 | | 178.0 157.0 25 | | | M150048 | |
| 295 | | SE423 | | | 井戸漆材 植板 | | 162.0 167.0 25 | | | M150049 | |
| 296 | 44 | 18 | SE423 | | 井戸漆材 植板 | | | | | M150053 別材 2枚を組み合 わせ | |

第V章 自然科学分析

1 はじめに

富山県氷見市中村大橋遺跡は、上庄川中流域に位置し、地形分類図（深井、1985）などを参考とすると、中部山地（柿谷山地）と南部山地（早借山山地）との間を流下する上庄川が形成した沖積地（上庄川谷平野）の低位段丘面上に立地する。本遺跡の発掘調査では、古代の掘立柱建物、溝、土坑、中世の井戸、土坑、溝などの遺構が検出されており、古代および中世の集落であることが明らかとされている。

本報告では、中世頃の遺跡周辺における古環境、とくに植生や農耕（栽培植物）に関する検討、および出土木製品の樹種や当時の木材利用の検討を目的として、花粉分析および樹種同定を実施した。

2 花粉分析

（1）試料

試料は、中世とされる井戸の埋積物（覆土）より採取された土壤8点（No.1～8；第17表）である。試料の観察では、いずれも暗色（黒色～暗灰色、暗青灰色）を呈する泥（シルト～粘土）からなり、試料によって多寡があるが基質とは異なる堆積物の偽蹠や微小ブロックなどの混入が認められ、とくにSE431⑥層ではブロックとともに炭質物などが多い量混じるという特徴が認められた。

第17表 花粉分析試料一覧

| No. | 遺構名 | 層位 | 性状 | 観察所見 |
|-----|-------|----|----|----------------------------|
| 1 | SE44 | ②層 | 土壤 | 黒灰色～暗灰色泥、灰色～暗灰色泥ブロック混じる |
| 2 | SE45 | ②層 | 土壤 | 暗灰色～暗褐色泥、円礫（径約2cm）混じる |
| 3 | SE90 | | 土壤 | 暗灰色泥、黃灰色ブロック、亜角～亜円礫混じる |
| 4 | SE276 | ⑩層 | 土壤 | 暗青灰色泥、灰色泥微小ブロック、植物片混じる |
| 5 | SE324 | ⑤層 | 土壤 | 暗灰色～黒灰色泥 |
| 6 | SE423 | | 土壤 | 暗灰色泥、黃灰色～灰色泥・青灰色ブロック多く混じる |
| 7 | SE238 | ④層 | 土壤 | 暗灰色～黒灰色泥、灰色泥ブロック混じる |
| 8 | SE431 | ⑥層 | 土壤 | 暗灰色泥、炭質物、暗灰色泥・褐色泥ブロック多量混じる |

（2）分析方法

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛、比重2.3）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸9：濃硫酸1の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作製し、400倍の光学顯微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本や島倉（1973）、中村（1980）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等を参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の分布図として表示する。図表中で複数の種類を-（ハイフン）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉、および草本花粉・シダ類胞子は、総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基準として、百分率で出現率を算出し図示する。なお、花粉総数が100個未満の試料は、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるため、出現した種類を+（プラス）で表示するに留めている。

(3) 結果

結果を第18表、第45図に示す。分析に供された試料は、花粉化石の産状が全体的に悪く、保存状態も悪い。なお、花粉化石が比較的多く産出した試料は草本花粉の割合が高い傾向にあり、木本花粉はいずれの試料も100個未満である。

草本花粉が100個以上産出したS E90 (No.3)、S E276 ⑩層 (No.4)、S E324 ⑤層 (No.5)、S E423 (No.6) の4試料は、産出傾向および多産する種類が概ね類似する。また、産出状況が悪いS E44 ②層 (No.1)、S E45 ②層 (No.2)、S E238 ④層 (No.7)、S E431 ⑥層 (No.8) の4試料も、上述した試料で多産した種類などが認められる。

検出された種類をみると、木本花粉ではマツ属、スギ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが認められる。また、S E90 (No.3) と S E276 ⑩層 (No.4) からは、栽培の可能性があるカキノキ属が検出される。なお、S E423からはフウ属が検出されたが、本種は第三紀消滅種であることから考察からは除外している。

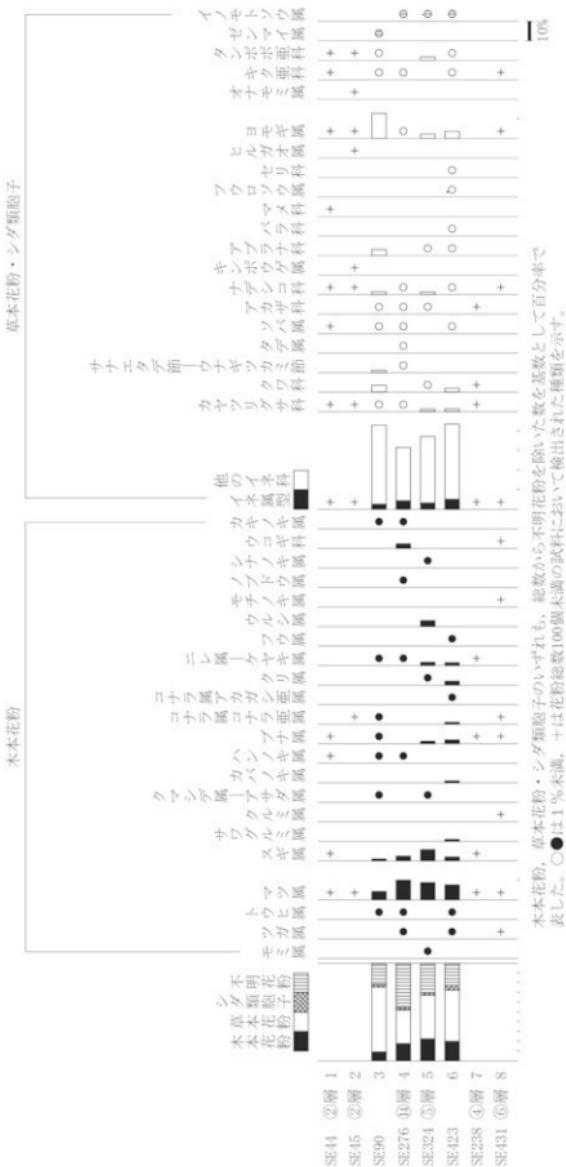
草本花粉では、イネ科が多産し、カヤツリグサ科、クワ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属、タンボボ亜科などを伴う。なお、多産したイネ科には、栽培種であるイネ属に形態が類似する個体（以下、イネ属型）も含まれ。草本花粉が100個体以上確認された4試料 (No.3~6) のイネ科全体に占めるイネ属型の割合は6~14%程度である。この他、S E44 ②層 (No.1)、S E90 (No.3)、S E276 ⑩層 (No.4) およびS E423 (No.6) からは、栽培種のソバ属も確認された。

(4) 考察

中世とされる井戸の埋積物を対象とした花粉分析の結果、花粉化石の産状は良好とは言えないものの、S E90 (No.3)、S E276 ⑩層 (No.4)、S E324 ⑤層 (No.5)、S E423 (No.6) の4試料において、産出した個体数が多く、いずれも草本花粉の割合が高いという特徴が認められた。草本花粉は、イネ科が多産し、カヤツリグサ科、クワ科、アカザ科、ナデシコ科、アブラナ科、ヨモギ属、キク亜科、タンボボ亜科などを伴う。これらは、いずれも開けた明るい場所に生育する種類であることから、井戸の周囲や集落周辺の草地植生を反映すると考えられる。また、草本花粉にはイネ属型、ソバ属などの栽培種や栽培種の可能性がある種類が確認された。後述する木本のカキノキ属などを含め、これらは中世段階の集落周辺において栽培・利用されていた可能性がある。

一方、木本花粉では、マツ属、スギ属などがやや多く、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、ウルシ属、ウコギ科などが認められた。これらの種類は、遺跡周辺の山地・丘陵および河畔などに生育した樹木に由来すると考えられる。永見市域における調査事例によれば、十二町潟遺跡や鞍川中B遺跡などの縄文時代-弥生時代以降の堆積層では、ハンノキ属を中心としてマツ属、スギ属などの針葉樹、ハシバミ属、ブナ属、コナラ亜属、ニレ属-ケヤキ属、モチノキ属等の落葉広葉樹、コナラ属アカガシ亜属などの常緑広葉樹が検出され、遺跡周辺の低地を中心にハンノキ湿地林が分布

第45図 花粉化石群集



第18表 花粉分析結果

| 種類 | SE44 | SE45 | SE90 | SE276 | SE324 | SE423 | SE238 | SE41 |
|----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| | (2)層 No.1 | (2)層 No.2 | (3)層 No.3 | (4)層 No.4 | (5)層 No.5 | (6)層 No.6 | (4)層 No.7 | (6)層 No.8 |
| | | | | | | | | |
| 木本花粉 | | | | | | | | |
| モミ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| ツガ属 | - | - | - | 1 | - | 1 | - | 1 |
| トウヒ属 | - | - | 1 | 2 | - | 1 | - | - |
| マツ属單維管束亞属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - |
| マツ属複維管束亞属 | - | 2 | 7 | 8 | 3 | 1 | 1 | - |
| マツ属(不明) | 10 | 1 | 10 | 24 | 17 | 14 | 2 | 5 |
| スギ属 | 2 | - | 4 | 8 | 13 | 4 | 1 | - |
| サワグルミ属 | - | - | - | - | - | 2 | - | - |
| クルミ属 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| クマシデ属-アサダ属 | - | - | 2 | - | 1 | - | - | - |
| カバノキ属 | - | - | - | - | - | 2 | - | - |
| ハンノキ属 | 1 | - | 1 | 1 | - | - | - | - |
| ブナ属 | 3 | - | 3 | - | 3 | 4 | 1 | 2 |
| コナラ属コナラ亜属 | - | 4 | 3 | - | - | 2 | - | 1 |
| コナラ属アカガシ亜属 | - | - | - | - | - | 1 | - | - |
| クリ属 | - | - | - | - | 1 | 4 | - | - |
| ニレ属-ケヤキ属 | - | - | 2 | 2 | 4 | 3 | 1 | - |
| フウ属 | - | - | - | - | - | 1 | - | - |
| ウルシ属 | - | - | - | - | 7 | - | - | - |
| モチノキ属 | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| ノブドウ属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - |
| シナノキ属 | - | - | - | - | 1 | - | - | - |
| ウコギ科 | - | - | - | 8 | - | - | - | 1 |
| カキノキ属 | - | - | 3 | 2 | - | - | - | - |
| 草本花粉 | | | | | | | | |
| イネ属型 | 2 | 3 | 10 | 14 | 7 | 10 | - | - |
| 他のイネ科 | 9 | 31 | 157 | 89 | 76 | 74 | 8 | 2 |
| カヤツリグサ科 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | 3 | 1 | - |
| クワ科 | - | - | 14 | - | 1 | 4 | 1 | - |
| サンエタデ節-ウナギツカミ節 | - | - | 5 | 2 | - | - | - | - |
| タデ属 | - | - | - | 1 | - | - | - | - |
| ソバ属 | 2 | - | 1 | 2 | - | 1 | - | - |
| アカガ科 | - | - | 3 | 1 | 2 | - | 1 | - |
| ナデシコ科 | 5 | 7 | 6 | 1 | 3 | 1 | - | 1 |
| キンボウゲ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - |
| アブラナ科 | - | - | 12 | - | 1 | 1 | - | - |
| バラ科 | - | - | - | - | - | 1 | - | - |
| マメ科 | 1 | - | - | - | - | - | - | - |
| フウロソウ属 | - | - | - | - | - | 1 | - | - |
| セリ科 | - | - | - | - | - | 1 | - | - |
| ヒルガオ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - |
| ヨモギ属 | 1 | 1 | 50 | 1 | 5 | 7 | - | 1 |
| オナモミ属 | - | 1 | - | - | - | - | - | - |
| キク亜科 | 2 | - | 3 | 2 | - | 1 | - | 1 |
| タンポポ亜科 | 2 | 2 | 3 | - | 4 | 1 | - | - |
| 不明花粉 | | | | | | | | |
| 不明花粉 | 1 | 5 | 10 | 7 | 5 | 9 | 1 | 4 |
| シダ類胞子 | | | | | | | | |
| ゼンマイ属 | - | - | 1 | - | - | - | - | - |
| イノモツオウ属 | - | - | - | 2 | 1 | 1 | - | - |
| 他のシダ類胞子 | 35 | 72 | 85 | 149 | 68 | 45 | 25 | 16 |
| 合計 | | | | | | | | |
| 木本花粉 | 16 | 7 | 36 | 58 | 51 | 40 | 6 | 12 |
| 草本花粉 | 25 | 49 | 265 | 115 | 102 | 106 | 11 | 5 |
| 不明花粉 | 1 | 5 | 10 | 7 | 5 | 9 | 1 | 4 |
| シダ類胞子 | 35 | 72 | 86 | 151 | 69 | 46 | 25 | 16 |
| 合計(不明を除く) | 76 | 128 | 387 | 324 | 222 | 192 | 42 | 33 |

し、丘陵部などには落葉広葉樹を主体とした森林が存在していたと想定されている（安田、1984；パリノ・サーヴェイ株式会社、2006）。また、中谷内遺跡では、縄文時代以前～中世以降の古植生に関する資料が得られており、縄文時代以前の丘陵部ではブナ属やコナラ亜属が安定した森林を形成しており、クマシデ属-アサダ属、ハンノキ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、ニレ属-ケヤキ属などが海岸沿いや丘陵部などに分布していたと推定されている。古墳時代になると、海退後に出現した低地にイネ科を中心とした草本類が増加するとともに、低地の一部は耕地化し、その後、中世以降はイネ科を主とする草本花粉の増加とマツ属の多産から、生産域の拡大やマツ属の二次林の増加などが指摘されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、2013）。さらに、大野中遺跡の古代および古代以降の試料を対象とした花粉分析結果でも、中谷内遺跡と同様にマツ属とイネ科が多く確認されており、植生干渉によるマツ属の増加や耕地化が進んだことが推定されている（パリノ・サーヴェイ株式会社、2014）。

以上の点から、中村大橋遺跡の周辺においても、マツ属の二次林の増加や耕作地などを含む草地環境が拡がった可能性が考えられる。ただし、木本花粉で比較的多く産出したマツ属やスギ属は花粉の生産量が多く、飛散しやすい種類である。また、針葉樹由来の花粉は広葉樹由来の花粉よりも風化に対する抵抗性が高いことが知られている（中村、1967；徳永・山内、1971など）。そのため、分解に強い花粉が選択的に残留している可能性も考慮する必要がある。

なお、上述した4試料を除く、SE44②層（No.1）、SE45②層（No.2）、SE238④層（No.7）、SE431⑥層（No.8）は花粉化石の産出状況が悪く、検出される花粉化石数も少なかった。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壤微生物によって分解・消失するとされている（中村、1967；徳永・山内、1971；三宅・中越、1998など）。今回の試料は、井戸埋積物であることから、人為による埋め戻しなどにより、堆積速度が速く花粉が取り込まれにくかった可能性がある。また、試料の観察では、多くは暗色を呈する腐植質な堆積物からなり、植物片などの混入も明瞭ではなかった。これらの状況から、遺構埋積物は土壤生成が進行した堆積物を母材とすることや、遺構内における埋積過程において好気的環境に曝されたため、取り込まれた花粉が分解・消失した可能性なども考えられる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社 齋藤崇人）

3 樹種同定

（1）試料

試料は、井戸の部材（隅柱、横桟、縦板）、建築部材（柱）、容器・食事具（曲物、折敷）などの木製品13点（No.1～13：第19表）である。試料の詳細（遺物番号、出土遺構、層位、器種など）は、同定結果とともに第19表に示したので参照されたい。

（2）分析方法

資料の木取りを観察した後、剥刀を用いて木口（横断面）・柵目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の徒手切片を直接採取する。切片をガム・クロラール（抱水クロラール、アラビアゴム粉末、グリセリン、蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートとする。プレパラートは、生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識

別データベースと比較して種類（分類群）を同定する。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東（1982）、Wheeler他（1998）、Richter他（2006）を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林（1991）や伊東（1995-1999）を参考にする。

（3）結果

同定結果を第19表に示す。本製品は、針葉樹2分類群（スギ、ヒノキ）と広葉樹1分類群（クリ）に同定された。以下に各分類群の解剖学的特徴等を記す。

- ・スギ (*Cryptomeria japonica* (L.f.) D. Don) スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

- ・ヒノキ (*Chamaecyparis obtusa* (Sieb. et Zucc.) Endlicher) ヒノキ科ヒノキ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はヒノキ型～トウヒ型で、1分野に1-3個。放射組織は単列、1-10細胞高。

- ・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圈部は3-4列。孔圈外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は單穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

第19表 樹種同定結果

| No | 遺物番号 | 器種 | 遺構名 | 層位 | 木取り | 種類(分類群) |
|----|------|----------|-------|-----|------|---------|
| 1 | - | 柱 | SP432 | | 分割状 | クリ |
| 2 | 283 | 曲物底板 | SE324 | 最下層 | 板目 | ヒノキ |
| 3 | - | 曲物側板 | SE324 | | 柾目 | スギ |
| 4 | 285 | 折敷(底板) | SE423 | | 柾目 | ヒノキ |
| 5 | 285 | 折敷(棧) | SE423 | | 分割角材 | ヒノキ |
| 6 | - | 井戸側板(横棧) | SE44 | | 分割角材 | スギ |
| 7 | 294 | 井戸側板(縱板) | SE423 | | 板目 | スギ |
| 8 | 296 | 井戸側板(縱板) | SE423 | | 板目 | スギ |
| 9 | 287 | 井戸側板(横棧) | SE423 | | 分割角材 | スギ |
| 10 | 291 | 井戸側板(隅柱) | SE423 | | 分割材 | スギ |
| 11 | 292 | 井戸側板(隅柱) | SE423 | | 分割材 | スギ |
| 12 | 290 | 井戸側板(横棧) | SE423 | | 分割角材 | スギ |
| 13 | 289 | 井戸側板(横棧) | SE423 | | 半裁状 | スギ |

（4）考察

今回の樹種同定の対象とされた本製品は、全て中世の所産とされる資料とされ、伊東・山田（2012）を参考とすると、容器（曲物）、食事具（折敷）、建築部材（柱）、施設材・器具材（井戸部材）に分類される。

これらの木製品には、針葉樹のスギ、ヒノキおよび落葉広葉樹のクリが認められた。針葉樹のスギは扇状地扇端部の湧水点周辺などの水分の多い環境を好む常緑高木、ヒノキは山地や丘陵地に生育す

る常緑高木であり、木材はいずれも木理が直通で割理性と耐水性が高いという材質的特徴を有する。また、クリは、二次林などに生育する落葉高木であり、木材は重硬で強度と耐朽性が高いとされる。

器種別に木材利用について見ると、容器の曲物は、底板と側板とがあり、底板がヒノキ、側板がスギであった。この結果から、少なくとも2種類の木材の利用が示唆される。各部位1点のため部位別の種類構成は不明であるが、いずれも分割加工が容易で耐水性が高い木材を利用したと考えられる。

食事具の折敷は、底板と棧の2部材について樹種同定を行った。いずれもヒノキに同定されたことから、曲物と同様に加工性や耐水性の高い木材の利用が考えられる。

建築部材の柱材は、分割状を呈する資料である。落葉高木のクリに同定されたことから、強度や耐朽性の高い木材の選択利用が推測される。

施設材・器具材の井戸部材は、SE42の7資料（隅柱、横桟、縦板）とSE44の1資料（横桟）の計8資料からなる。SE423の部材は、隅柱が分割材、縦板が板目（板）、横桟が分割材と半裁状となるが、部位や形状、木取りの相違に関わらず、すべてスギに同定された。この結果から、加工性や耐水性を考慮した利用背景が想定される。また、板目取りの縦板の大きさから、このような1枚板を調達することができる大径木のスギ材が入手可能な環境にあったことが推測される。なお、SE44の井戸部材は横桟のみであるが、スギに同定されたことから、SE423と同様の木材利用が考えられる。

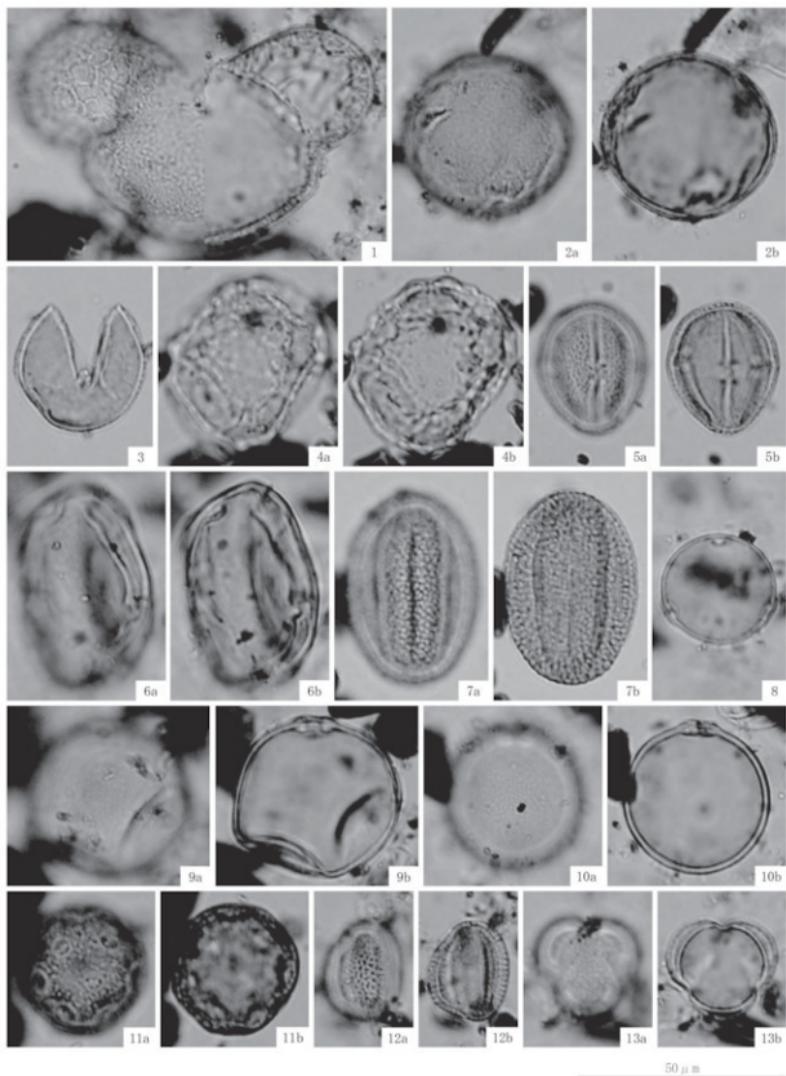
本遺跡の周辺地域では、能越道関連遺跡を中心として樹種同定が実施されており、その結果の集成により木材利用の傾向が明らかとされている（高橋、2014）。その結果によれば、柱材は、クリ、スダジイ、キハダなどが確認されており、本遺跡の資料はこれまでに確認されている木材利用と整合する結果と言える。曲物は12~13世紀の資料はスギが圧倒的に多く、14世紀以降はスギと共にヒノキやヒノキ科が利用されるようになる。また、井戸部材も、14世紀以前の資料は殆どがスギであるが、15世紀以降はモミ属やヒノキ科が利用されており、木材利用の変遷が指摘されている。折敷は、時期別の木材利用が明瞭ではないが、これまでの調査事例ではスギを中心としてモミ属とヒノキが混じる組成が確認されている。現段階では各資料の詳細な時期は不明であるが、今回の結果は中世の木材利用と調和する傾向を示していると考えられる。

（パリノ・サーヴェイ株式会社 高橋 敏）

＜引用文献＞

- 藤木利一・小澤智生。2007.琉球列島植物花粉図鑑アカコーラ企画, 156p.
- 深井三郎。1985. I 地形分類図土地分類基本調査 氷見・虻ヶ島(富山県分) 5万分の1 國土調査, 富山県, 11-18.
- 林昭三。1991. 日本産木材 顕微鏡写真集,京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫。1995. 日本産広葉樹材の解剖学的記載I.木材研究・資料, 31. 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫。1996. 日本産広葉樹材の解剖学的記載II.木材研究・資料, 32. 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫。1997. 日本産広葉樹材の解剖学的記載III.木材研究・資料, 33. 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫。1998. 日本産広葉樹材の解剖学的記載IV.木材研究・資料, 34. 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫。1999. 日本産広葉樹材の解剖学的記載V.木材研究・資料, 35. 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 伊東隆夫・山田昌久(編)。2012. 木の考古学 出土木製品用材データベース,海青社, 449p.
- 三宅 尚・中越信和。1998. 森林土壤に堆積した花粉・胞子の保存状態, 植生史研究, 6, 15-30.
- 三好教夫・藤木利一・木村裕子。2011. 日本産花粉図鑑,北海道大学出版会, 824p.
- 中村 純。1967. 花粉分析古今書院, 232p.
- 中村 純。1980. 日本産花粉の標識 I II (国版) 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 第12, 13集, 91p.
- パリノ・サーヴェイ株式会社。2006. 輪島バイパス道路群発掘調査に伴う自然科学分析, 氷見市埋蔵文化財調査報告書第45冊 輪島中B遺跡 輪島バイパス道路群発掘調査報告書Ⅲ, 氷見市教育委員会, 36-54.
- パリノ・サーヴェイ株式会社。2013. 自然科学分析, 富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第56集 中谷内遺跡発掘調査報告 -能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書XI-(第二分冊), 公益財團法人 富山県文化振興財团・埋蔵文化財調査事務所, 2-44.

- パリノ・サーヴェイ株式会社。2014. 大野中遺跡の花粉・植物珪酸体分析 富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第62集 大野中遺跡 七分一堂口遺跡 加納谷内遺跡 発掘調査報告－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書－。公益財団法人 富山県文化振興財団・埋蔵文化財調査事務所、40-45。
- Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. (編). 2006. 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修)。海青社、70p. [Richter H.G., Grosser D., Heinz I. and Gasson P.E. 2004. IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].
- 島地謙・伊東隆夫。1982. 図説木材組織.地球社、176p.
- 島自巳三郎。1973. 日本植物の花粉形態.大阪市立自然科學博物館収蔵目録 第3集、60p.
- 高橋敦。2014. 水見市域における木材利用について.福積天坂遺跡・福積天坂北遺跡・福積オオヤチ遺跡・宇波西遺跡－能越自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘報告書XIV－。富山県文化振興財団埋蔵文化財発掘調査報告第64集、公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所、289-302.
- 徳永重元・山内輝子。1971. 花粉・胞子・化石の研究法. 共立出版株式会社、50-73.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編). 1998. 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト.伊東隆夫・藤井智之・佐伯浩(日本語版監修)。海青社、122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. 1989. IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].
- 安田喜憲。1984. 環日本海文化の変遷－花粉分析学の視点から－. 国立民族学博物館研究報告、9、761-798.



1. マツ属(SE90;3)

4. ニレ属-ケヤキ属(SE324 ⑤層;5)

7. ソバ属(SE276 ⑩層;4)

10. イネ科(SE90;3)

13. ヨモギ属(SE90;3)

2. ブナ属(SE90;3)

5. ウルシ属(SE324 ⑤層;5)

8. クワ科(SE90;3)

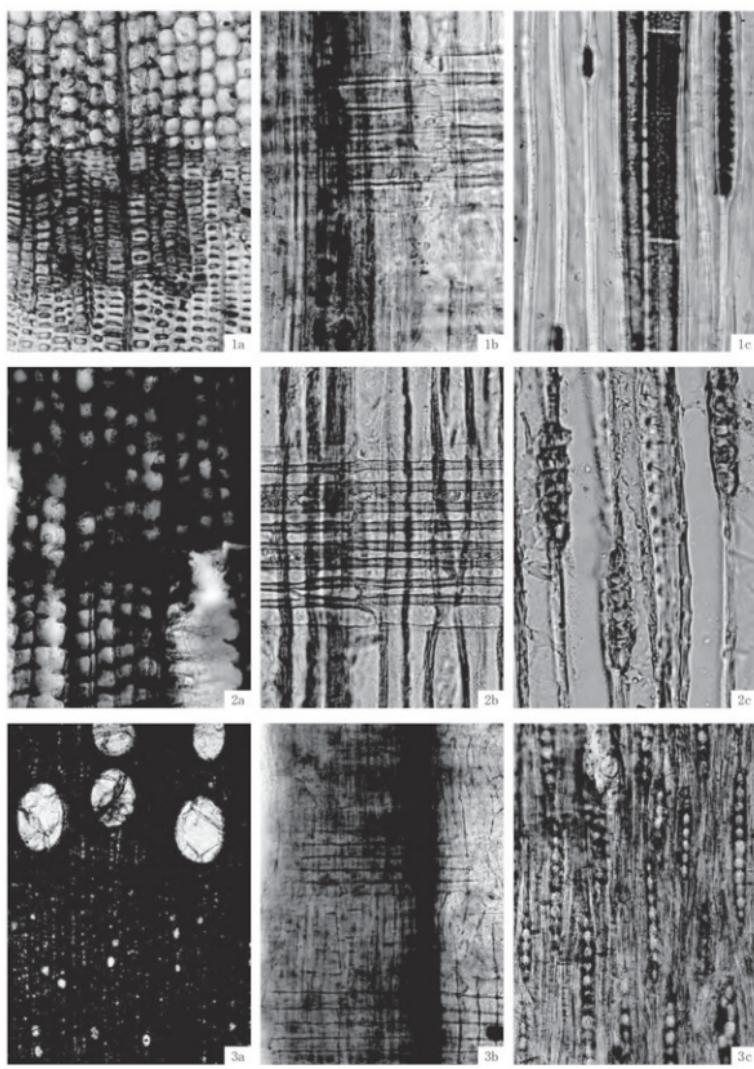
11. ナデシコ科(SE324 ⑩層;5)

3. シギ属(SE276 ⑩層;4)

6. カキノキ属(SE90;3)

9. イネ科(イネ属型)(SE90;3)

12. アブラナ科(SE90;3)



1. スギ(遺物番号290; No. 12)

2. ヒノキ(遺物番号283; No. 2)

3. クリ(遺物番号なし; No. 1)

a:木口, b:拡目, c:板目

100 μm : 3a

100 μm : 1-2a, 3b, c

100 μm : 1-2b, c

第VI章 総括

1 古代

中村大橋遺跡周辺に古代の遺跡はそれほど多く確認されていないが、能登へとつながる「志乎路」の存在は大きいと考えられ、この道筋を西に2.5kmほど行けば小窪廃寺跡に至る。小窪廃寺は北陸でも最大級の柱穴式塔心礎の存在からその伽藍に五重塔をもつ古代寺院とされており、創建に際して近隣に瓦専用窯を設け7世紀末から8世紀前半頃操業とされる2基が確認されている。

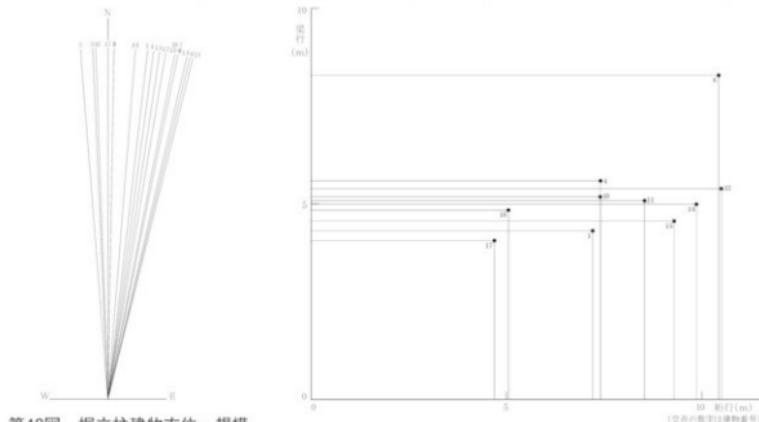
寺院造営の背景には、上庄川流域に勢力基盤をもつ安努君氏の影響力が濃厚であるとされてきた。近年、市教委によって行われた詳細な調査では地中レーダー探査等により礎石らしき反応も確認されたが、大規模な圃場整備等の影響もあって寺域や伽藍などの確定にまでは至っていない。射水郡領にも任命されていた阿努君氏については東大寺莊園絵図等にその記録史料が残されているが、具体的な関連遺跡といえるものはみつかっていない。

中村大橋遺跡は上庄谷でもなだらかな地形に位置し、上庄川の水運と主要街道とに挟まれた絶好の立地といえるが、果たしてどのような性格の遺跡であったか、建物の変遷を通して概観してみたい。

なお、遺跡の分析に先立ち、古代で確認された掘立柱建物17棟および4条の溝について建物軸の方位をもとにし、以下の5群に分類した。

- | | | | | | | |
|----------------------|--------|--------|-------|-------|-------|--------|
| ① (N-13°～14°-E) | S B 9 | S B13 | S B14 | S D10 | | |
| ② (N-9.5°～11.5°-E) | S B 6 | S B 7 | S B10 | S B12 | S B18 | S D30② |
| ③ (N-4.5°～8.5°-E) | S B 1 | S B 4 | S B11 | S B15 | | |
| ④ (N-1°-E, N-4.5°-W) | S B 2 | S B 3 | S B 8 | S B16 | S B17 | |
| ⑤ (N-19°～20°-E) | S D311 | S D400 | | | | |

また、調査区内における建物のまとまりから西、中央、東の3ブロックを想定し、集落の変遷を追う手掛かりとした。なお、出土遺物を伴う柱穴はわずかであり、時期決定が困難であったため、共伴



第48図 掘立柱建物方位・規模

する溝からの出土遺物を主な参考として時期を設定した。この結果、建物方位は①の東寄りから、④の真北へと推移することが考えられ、やや間を置いて⑤で再び東に振る想定した。以下、段階ごとに建物群を中心とした集落の動態について記述していく。

① (N-13°～14°-E) SB 9 SB13 SB14 SD10: 8世紀中～9世紀初頭

建物軸の方位が北から13°～14°東に振る一群で、3棟の建物がこれにあたる。なお、SD10については東に34°振っており、出土土器などから建物群に先行した遺構であると考えられる。

掘立柱建物は西ブロックにSB14、中央ブロックにSB9、13が相当し、東ブロックには建物がない。すべて南北棟の側柱構造で総柱の建物は存在しないが、このなかではSB14が1間？×4間で面積約50m²をもち最大である。

② (N-9.5°～11.5°-E) SB 6 SB 7 SB10 SB12 SB18 SD30②: 8世紀中～9世紀初頭

建物軸の方位が北から9.5°～11.5°東に振るもので5棟が相当するが、重複する建物があることから、さらに2～3小期の変遷があると考えられる。

西ブロックにSB18、中央ブロックにSB6、7、10、12が位置するが、東ブロックには①と同様、建物が存在しない。建物が集中する中央ブロックでは、東西棟であるSB12と、南北棟であるSB6、7のいずれかが組み合わせとなり、L字もしくは並列配置をなしていたと推測され、建物群の変遷において最も整然とした様相がみられる。このうちSB6は3間×4間の総柱建物であるが、面積が86.7m²を測る破格の建物である。この柱穴は長径100cmを超えるものが全体の6割強、底部に柱当たり痕を確認できるものも4割程度あり、柱穴規模の大きさからは倉庫であった可能性が高いと考えられる。ただし管見では県内において同様な規模・構造をもった総柱建物の類例はみられず、ただちに倉庫とすることは危ぶまれるが、この集落の中核となる建物であったことは疑いないであろう。このSB6の組み合わせの可能性があるSB12、さらに隣接のSB10についても約半数の柱穴が長径100cm程度の規模をもつことから、この建物群については一般集落とはやや異なる性格であった可能性が高い。また、②に伴うSD30②は建物群の東側境界を示すものとみられ、最下層からは8世紀中～9世紀初頭の須恵器が出土している。

③ (N-4.5°～8.5°-E) SB 1 SB 4 SB11 SB15: 9世紀初頭

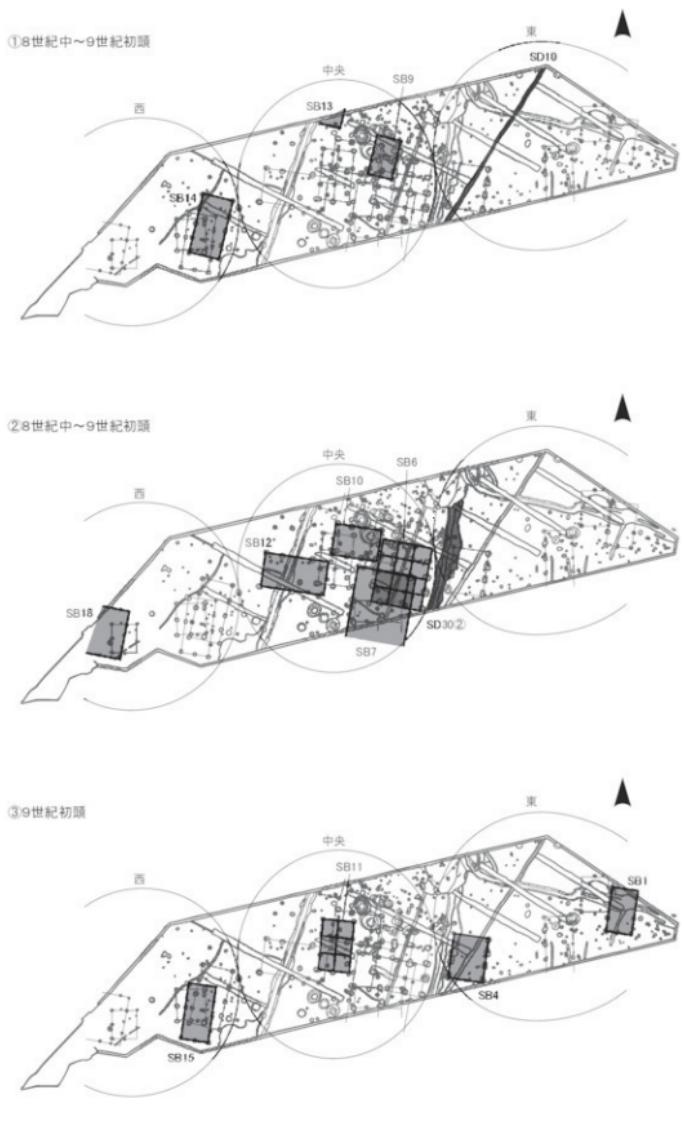
建物軸の方位が4.5°～8.5°東に振る4棟で、西ブロックにSB15、中央ブロックにSB11、東ブロックにはSB1、4があり、②以前に比べると建物の分散化が見受けられる。

西ブロックではブロック内でも東西交互に建物が推移しているとみられ、③では東寄りの①SB14の位置に、それより一回り小型のSB15が建つ。また、中央ブロックは過密であった②から一転、総柱建物であるSB11のみとなる。この柱穴規模は長径の平均76.5cm、うち3基には底部に柱当たり痕がみられ、倉庫の可能性がある。東ブロックにはこの段階に及んで初めて建物を確認した。SB4は中央ブロックに隣接しているが、SD30②で隔てられている可能性があり東ブロックとした。このSB4は側柱建物であるが、桁行側の柱穴は長楕円形で規模が大きいのに対し、梁行側中央の柱は極端に小さく、上部構造の特徴に起因している可能性がある。SB1は調査区では最も東に位置する。

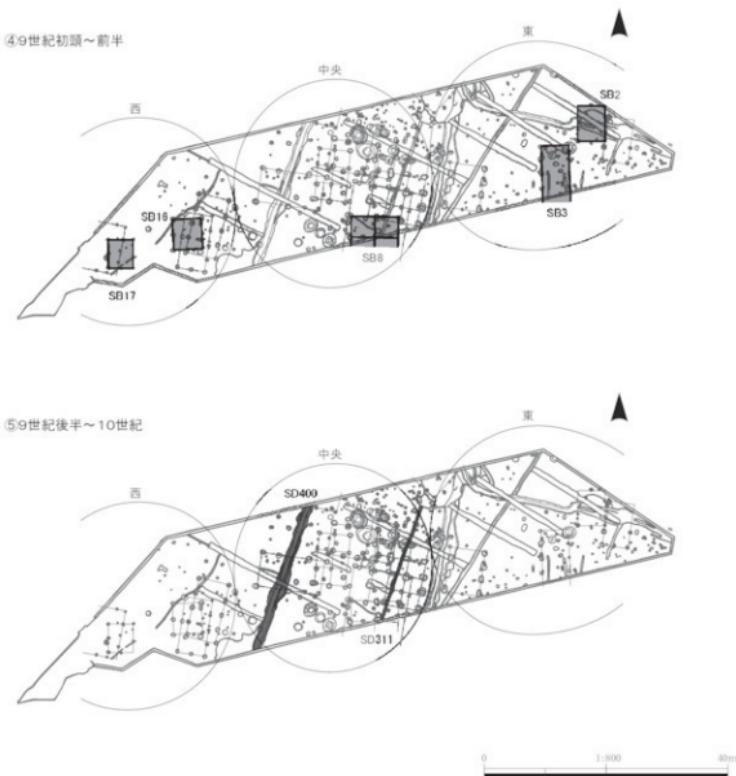
④ (N-1°-E, N-4.5°-W) SB 2 SB 3 SB 8 SB16 SB17: 9世紀初頭～前半

建物軸の方位が、真北を挟み東へ1°から西へ4.5°の振り幅を呈する5棟がある。

西ブロックではSB16、17の小型の2棟が東西に配されている。中央ブロックには総柱建物SB8のみである。SB8は南側の調査区外へ延びるとみられるが、確認できた柱穴は他の総柱建物と同様に規模が大きく、柱当たり痕も確認できる。東ブロックではSB2、3の2棟が南北に並ぶ。④では



第49図 中村大橋遺跡 古代変遷図 1



第50図 中村大橋遺跡 古代変遷図2

③段階の分散化に加え、建物の小型化も進んでいるように見受けれる。

⑤ (N-19°～20°-E) S D311 S D400 : 9世紀後半～10世紀

①～④で建物が変遷した後、遺跡から建物は姿を消し、⑤では溝のみとなる。出土土器の時期幅から鑑み④、⑤間に短い断絶期があるとも考えられ、集落の中心は移転したと推測される。

2条の溝、S D311, 400は北から20°東へ振る角度で造られているが、溝幅や深さ等の規模においてはS D400が圧倒しており2条1対とは考えにくい。

以上のように建物群は、8世紀中～9世紀前半にかけて調査区中央付近を中心に分布していると推測されるが、建物軸の方位にはそれほど振り幅がなく、建物群の変遷は比較的、短期間であった可能性もある。なお、包含層出土遺物のなかには、わずかではあるが7世紀末頃の遺物も混在しており、調査区周辺において連続と集落経営が行われていた可能性は高いとみられる。前述した市教委による小窪廃寺の調査では、隣接する小窪瓦窯の操業時期について考古地磁気からの研究もなされており、考古学的見地から推定される7世紀末～8世紀前半頃という時期に調和する結果が得られている。そ

して、これは中村大橋遺跡から出土した遺物の時期とも、ほぼ符合するものであるといえる。当時の在地勢力が隆盛を迎へ、氏寺ともいわれる古代寺院の造営を進めるなかで、勢力拠点内に位置すると考えられる当遺跡において倉庫を備えた施設?が存在したことの意義は大きく、当時の政治・経済上にも大きな影響力をもつものであった可能性がある。

このような規模の大きな柱穴が並び、スケールの大きさを示す一方で、出土遺物の印象は極めて薄い。圓場整備等の影響などによって包含層の大半は存在せず、遺構上部の削平も著しいため、出土遺物は多くはなく内容も豊富とはいえない。公的性をもつ遺跡には必須条件ともいえる文字関係資料についても、ほぼ皆無に等しく、唯一、転用硯とみられる須恵器杯蓋が出土したのみである。

第20表は当遺跡の出土古代土器破片数から組成データを算出したものである。この特徴として、中村大橋遺跡は食膳具の口縁部残存率が87%と高比率を示すのに対し、貯蔵具は約7%、煮炊具は約6%にとどまっており、食膳具への極端な偏りがみられる。さらに食膳具を種類別にみると、須恵器が80%を占めている。第51図は県内における古代遺跡の土器組成データを集成したものである。このうち最も近隣のデータとして、上庄川河口側に約2km下った右岸に位置する大野中遺跡がある。この遺跡もまた上庄川に面しており、その水運を利用した物流中継的集落の可能性が想定されている。中村大橋遺跡と同様、文字関連資料や縁柱・灰釉陶器などの高級品が欠落していることから公的集落とはいいにくいものの、土器組成をみると食膳具・貯蔵具に比べ煮炊具が少ない傾向が示されており、莊家であるじょうべのま遺跡との共通性があるとしている。じょうべのま遺跡の出現傾向をみると食膳具の占める割合が85%と高比率であるが、数値だけを見るならば、中村大橋遺跡はさらにそれを上回る食膳具への偏りがあることになる。

遺構、遺物それぞれの特徴を総合すると、8世紀中～9世紀初頭にかけて展開した中村大橋遺跡の古代集落は、倉庫を恒常的に維持していた可能性が高く、文字関連資料や施釉陶器、奢侈品の出土はほとんどないものの食膳具に偏った土器組成を鑑みると、館や豪族居宅など、在地社会における中枢機能の一端を担う存在であったことが推測される。なお、転用硯が確認できたことから、事務的行為は全く存在しなかったとはいせず、末端官衙的な側面を有していた可能性も否定できないと考えられる。上庄川の水運、志手路の陸運、双方の中継地点にあって物資の集積・輸送機能を担っていた蓋然性は高いとみられ、この集落を管理運営した豪族、今のところ安努君氏が最有力候補となろうが、その豪族の拠点經營を考えるうえで非常に重要な遺跡と考えられよう。

第20表 中村大橋遺跡 古代土器組成

| 用途別 | 種類 | 器形 | 總破片数 | | | 口縁部破片数 | | | 口縁部残存率 | | | 種類・器種別 % | |
|-----|-----|----|------|--------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|--------|-------------|------|
| | | | 片 | % (全体) | (用意割) | 片 | % (全体) | (用意割) | /12 | 剩余数 | % (全体) | % (用意割) | |
| 食膳具 | 須恵器 | 杯A | 424 | 13.04 | 2382 | 116 | 30.93 | 37.30 | 146 | 12.17 | 33.30 | 38.07 | 80.3 |
| | | 杯蓋 | 166 | 5.10 | 9.33 | 103 | 27.47 | 33.12 | 140 | 11.67 | 31.93 | 36.51 | |
| | | 棱碗 | 1 | 0.03 | 0.06 | 1 | 0.27 | 0.32 | 1.5 | 0.13 | 0.34 | 0.39 | |
| 土器類 | 土器類 | 楕A | 1151 | 35.39 | 6466 | 70 | 18.67 | 22.51 | 74.5 | 6.21 | 16.99 | 19.43 | 19.7 |
| | | 皿A | 18 | 0.55 | 1.01 | 19 | 5.07 | 6.11 | 19 | 1.58 | 4.33 | 4.95 | |
| | | 皿B | 20 | 0.62 | 1.12 | 2 | 0.53 | 0.64 | 2.5 | 0.21 | 0.57 | 0.65 | |
| 小計 | | | 1780 | 54.74 | 100 | 311 | 82.93 | 100 | 383.5 | 31.96 | 87.46 | 100 | |
| 貯蔵具 | 須恵器 | 甕 | 618 | 19.00 | 69.20 | 17 | 4.53 | 44.74 | 11 | 0.92 | 2.51 | 36.07 | 100 |
| | | 壺 | 275 | 8.46 | 30.80 | 21 | 5.60 | 55.26 | 19.5 | 1.63 | 4.45 | 6.93 | |
| 小計 | | | 893 | 27.46 | 100 | 38 | 10.13 | 100 | 305 | 2.54 | 6.96 | 100 | |
| 煮炊具 | 土器類 | 甕 | 569 | 17.50 | 98.27 | 23 | 6.13 | 88.46 | 22 | 1.83 | 5.02 | 89.80 | 100 |
| | | 鍋 | 10 | 0.31 | 1.73 | 3 | 0.80 | 11.54 | 2.5 | 0.21 | 0.57 | 10.20 | |
| 小計 | | | 579 | 17.80 | 100 | 26 | 6.93 | 100 | 24.5 | 2.04 | 5.59 | 100 | |
| 合計 | | | 3252 | 100 | | 375 | 100 | | 438.5 | 36.54 | 100 | | |

*数値第3位を四捨五入している。

-前のある器形は蓋と身の多い方の数値を採用した。

なお須恵器杯Aは破片数128片（うち口縁部87片）、須恵器蓋Aは破片数2片（ともに口縁部片、口縁部残存率15/12）

-須恵器、土器類は蓋と身の多い方の数値を採用した。

水見市大野中遺跡〈物流中経の集落か〉8世紀後半～9世紀前半

| 種類 | 器種 | 破片数 | 口縁部破片数 | | | 口縁部残存率 | | |
|-----|----|--------|---------|---------|-------|---------|---------|-----------------------|
| | | | 片 | % | 片 | % | 片 | % |
| 土師器 | 瓶A | 16 片 | 1.2 % | 3.0 % | 1 片 | 0.6 % | 0.7 % | 1.2 % / 12 (0.1個体分) |
| 乳頭器 | 瓶A | 283 片 | 21.3 % | 52.4 % | 87 片 | 53.4 % | 64.5 % | 44.1 % / 12 (0.3個体分) |
| 乳頭器 | 瓶B | 238 片 | 17.9 % | 44.0 % | 46 片 | 28.2 % | 34.1 % | 30.4 % / 12 (0.2個体分) |
| 須恵器 | 鉢 | 3 片 | 0.2 % | 0.6 % | 1 片 | 0.6 % | 0.7 % | 2.4 % / 12 (0.2個体分) |
| 合計 | | 540 片 | 40.6 % | 100.0 % | 135 片 | 82.8 % | 100.0 % | 78.1 % / 12 (6.5個体分) |
| 須恵器 | 甕 | 527 片 | 39.7 % | 73.1 % | 9 片 | 5.5 % | 33.3 % | 6.3 % / 12 (0.5個体分) |
| 須恵器 | 壺 | 194 片 | 14.6 % | 26.9 % | 18 片 | 11.1 % | 66.7 % | 16.5 % / 12 (1.4個体分) |
| 合計 | | 721 片 | 54.3 % | 100.0 % | 27 片 | 16.6 % | 100.0 % | 22.8 % / 12 (1.9個体分) |
| 土師器 | 甕 | 67 片 | 5.1 % | 100.0 % | 1 片 | 0.6 % | 100.0 % | 1.2 % / 12 (0.1個体分) |
| 合計 | | 67 片 | 5.1 % | 100.0 % | 1 片 | 0.6 % | 100.0 % | 1.2 % / 12 (0.1個体分) |
| 総計 | | 1328 片 | 100.0 % | | 163 片 | 100.0 % | | 102.1 % / 12 (8.5個体分) |

・小数点第2位は四捨五入している。

・量は蓋と身の多い方の数値を採用している。なお、須恵器B蓋の破片数は119片（うち口縁部59片、口縁部残存率46.2/12）。

・須恵器豪華の破片数は1片（口縁部1片、口縁部残存率1/12）であった。

・土師器類頸、須恵器杯頸の部体破片は、確実に器種が判定できたものの比率に乗じて配分している。

立山町浦田遺跡〈村落〉9世紀

| 種類・器種 | 破片数 | 口縁部 | | 口縁部 |
|-------|-------|------|----------|-----------------|
| | | 片 | % | |
| 土師器 | 甕A | 90片 | (6.0%) | 23.5/12(18.6%) |
| 土師器 | 直口小楕B | 6片 | (0.4%) | 2.0/12(1.7%) |
| 黒色土器 | 甕A | 6片 | (0.3%) | 0.7/12(0.2%) |
| 須恵器 | 甕A | 172片 | (29.6%) | 46.2/12(38.0%) |
| 須恵器 | 瓶A | 29片 | (5.2%) | 8.1/12(6.7%) |
| 須恵器 | 甕A | 25片 | (4.5%) | 6.0/12(5.0%) |
| 須恵器 | 瓶B | 1片 | (0.2%) | 0.6/12(0.5%) |
| 食器皿 | 甕 | 383片 | (66.2%) | 161.0/12(15.0%) |
| 須恵器 | 甕 | 68片 | (11.8%) | 6.0/12(5.0%) |
| 須恵器 | 甕 | 173片 | (31.5%) | 1.0/12(11.3%) |
| 合計 | | 588片 | (100.0%) | 183.0/12(15.0%) |
| 食器皿 | 瓶 | 229片 | (19.0%) | 7.6/12(6.3%) |
| 土師器 | 甕 | 388片 | (86.8%) | 11.5/12(98.8%) |
| 土師器 | 瓶 | 58片 | (13.2%) | 14.5/12(11.2%) |
| 合計 | | 446片 | (100.0%) | 23.0/12(19.2%) |
| 食器皿 | 甕 | 329片 | (34.8%) | 130.0/12(10.6%) |
| 食器皿 | 瓶 | 598片 | (65.2%) | 298.6/12(25.3%) |
| 合計 | | 927片 | (100.0%) | 438.6/12(35.6%) |

立山町浦田遺跡・入善町じょうべのま遺跡の*は存在するが比率が数値としてあらわれないもの

水見市阿尾島田A遺跡〈有力農民拠点集落〉8世紀中～9世紀初め

| 種類・器種別 | 器種 | 個体数 | 百分率(%) | | 備考 |
|--------|----|-------|--------|---|----|
| | | | 片 | % | |
| 須恵器 | 瓶A | 6.63 | 1.1 | | |
| 須恵器 | 瓶B | 18.58 | 31.1 | | ■ |
| 須恵器 | 甕A | 14.16 | 23.7 | | ■ |
| 須恵器 | 甕B | 16.87 | 28.3 | | |
| 須恵器 | 鉢 | * | | | |
| 食器皿 | 甕 | 0.66 | 1.1 | | ■ |
| 食器皿 | 瓶 | 0.56 | 0.9 | | □ |
| 食器皿 | 鉢 | 1.40 | 2.2 | | ▲ |
| 食器皿 | 碗 | 1.70 | 2.8 | | ▲ |
| 合計 | | 54.52 | 91.3 | | |
| 食器皿 | 甕 | * | | | |
| 食器皿 | 瓶 | * | | | |
| 土師器 | 甕 | 0.49 | 0.8 | | □ |
| 土師器 | 瓶 | 3.44 | 5.8 | | △ |
| 土師器 | 鉢 | 1.16 | 2.0 | | △ |
| 合計 | | 5.17 | 8.7 | | |
| 合計 | | 59.69 | 100.0 | | |

第51回 県内古代遺跡 出土土器組成

高岡市須田藤の木遺跡〈莊園?〉8世紀～10世紀

| 食器皿 | 瓶 | 直口 | 直口部 | | 合計 |
|------|----|-------|-------|-------|------------------------|
| | | | 片 | % | |
| 土師器 | 瓶類 | 221個体 | 28.1% | 1.師器甕 | 221個体 / 21.2% (0.1個体分) |
| 須恵器 | 瓶類 | 247個体 | 33.0% | 1.師器甕 | 42個体 / 2.1% (0.1個体分) |
| 灰陶軸柄 | | 16個体 | 2.1% | 須恵器甕 | 16個体 / 1.9% (0.1個体分) |
| 内黒土器 | | 21個体 | 2.8% | | |
| 赤彩土器 | | 5個体 | 0.4% | | |
| 小計 | | 510個体 | 59.8% | 小計 | 263個体 / 30.8% (0.5個体分) |
| | | | | 小計 | 80個体 / 9.4% (0.1個体分) |
| | | | | 合計 | 853個体 / 100% (1.6個体分) |

合計 853個体 100%

2 中世

中村大橋遺跡では古代集落が10世紀に姿を消すとみられるが、11世紀中頃になると現在の氷見市十二町を含む周辺一帯は、越中權守であった源義賢が阿努庄として領有する。上庄川を挟んだ中村大橋遺跡の対岸の丘陵上にある領毛A・B遺跡は「領毛=領家」として、莊園領主の管理事務所があつたとも推測されている。阿努庄領主はこの後、鳥羽上皇皇后の高陽院、摂関家である近衛家、春日大社や興福寺と変遷していくが、古文書には「中村」の記載が多く見え、遺跡周辺が中世阿努庄における中心のひとつであったことがうかがえる。古代の項でも述べたように中村地内は人や物資の中継点としての好条件が揃っていることから、中世においても集落が展開していることは想像に難くない。

今回の発掘調査においても掘立柱建物1棟のほか、井戸15基、溝11条などを確認している。建物軸の方位は東へ44°振っており、溝も同様もしくは直交方向が多い。掘立柱建物に関しては、柱並びの揃わなかつた柱穴があることから、さらに多くの建物の存在が示唆されるが、古代ほど集中する様相は見受けられない。柱穴と考えられる遺構はSB5の西側および調査区南東に分布しており、集落の中心は調査区の北や東へと広がっていたとも考えられる。

なお、井戸にはいくつかの集中箇所があり、地下湧水の得やすい場所を選択していた可能性がある。これらの井戸は出土遺物から13世紀末～14世紀に属すると考えられ、新旧の井戸が重複する例があるものの、併存関係等は判然としない。SE423は重複するSE422に切られるが、スギ材の井戸側が残っている。井戸側の構造は縦板組隅柱横桟留だが、隅柱は上下貫通するものではなく、4段ある横桟の間に支柱を積む形式で、部材は丁寧に加工されている。近隣では上久津呂中屋遺跡にも同様の例がある。また、埋土からは節を抜いた竹筒、いわゆる「息抜きの竹」が出土しており、井戸廃棄に伴う儀式の存在がうかがえる。なおSE253もまた重複する井戸だが、古い方の底部からは桶？の籠のみが出土しており、井戸の廃棄に伴って井戸側や水溜施設として使用した部材を抜去した可能性を考えられる。SE423、SE253とも、ほぼ同じ場所に新たな井戸が造られているが、井戸廃棄の状況は様々である。

遺跡周辺一帯は古代以降も、その時々の権力者が領有し続けていたことは数々の古記録から知ることができる。今回みつかった中世の集落はごく限られた部分であり、出土遺物全体から推測される存続期間もそれほど長期ではないと考えられるが、検出されたこれらの遺構群は上庄谷における具体的な生活痕跡として注視されるものといえよう。

参考文献

- 伊東隆夫・山田昌久編 2012『木の考古学—出土木製品データベース—』
- 宇野隆夫 1982「井戸考」「史林」65巻5号 史学研究会
1991「律令社会の考古学的研究」
- 小郡 隆 1979「草戸千軒の井戸」「考古学研究』第26巻 第3号 考古学研究会
- 塙田明弘 2001「越中（富山県）の様相」「中世北陸の井戸」 北陸中世考古学研究会
- 日野永一 1989「日本の技術 7 木工具の歴史」
- 町田賢一 2003「木の家—柱根の樹種鑑定から建物を考える—」「富山考古学研究』第6号
- 水澤幸一 2009「日本海流通の考古学 一中世武士団の消費生活—」
- 吉岡康暢 1994「中世須恵器の研究」
- 石川考古学研究会・北陸古代土器研究会 1988「シンポジウム 北陸の古代土器研究の現状と課題」
- 高岡市教育委員会 2000「須田藤の木道跡調査報告」
2001「石塚道跡・東木津道跡調査報告」
2002「中保B道跡調査報告」
- 富山县文化振興財团 2013「上久津呂中屋道跡発掘調査報告」
2014「大野中道跡・七分一堂口道跡・加納谷内道跡発掘調査報告」
2015「出来田南道跡発掘調査報告」
- 富山市教育委員会 2004「奈良時代の富山を探る」
- 水見市教育委員会 1996「水見バイパス開通道跡調査報告Ⅳ」-阿尾島田A道跡・阿尾島尾山岩跡-
2003「新保南道跡」
2015「水見市内道跡発掘調査概報V」
2016「小庵廃寺・小庵瓦窯跡」
- 水見市史編さん委員会 1999「水見市史」第9巻 資料編七 自然環境
2002「水見市史」第7巻 資料編五 考古
2006「水見市史」第1巻 通史編一 古代・中世・近世
- 水見市立博物館 1989「古代の越中」
2006「白ヶ峰往来」
2006「竹里山の謎にせまる」
- 奈良文化財研究所 1998「古代の穀倉と村落・郷里の支配」
1998「律令国家の地方末端支配機構をめぐって」
2003「古代の官街道跡 I 道傍編」
2004「古代の官街道跡 II 道物・道跡編」
2005「地方官衙と寺院」
2007「古代豪族居宅の構造と機能」
- 広島県草戸千軒町道跡調査研究所編 1996「草戸千軒町道跡発掘調査報告V—中世瀬戸内の集落道跡—」



航空写真

1. 1952年米軍撮影 2. 2009年国土地理院撮影

図版2



遺跡遠景

1. 東から 2. 上から



1

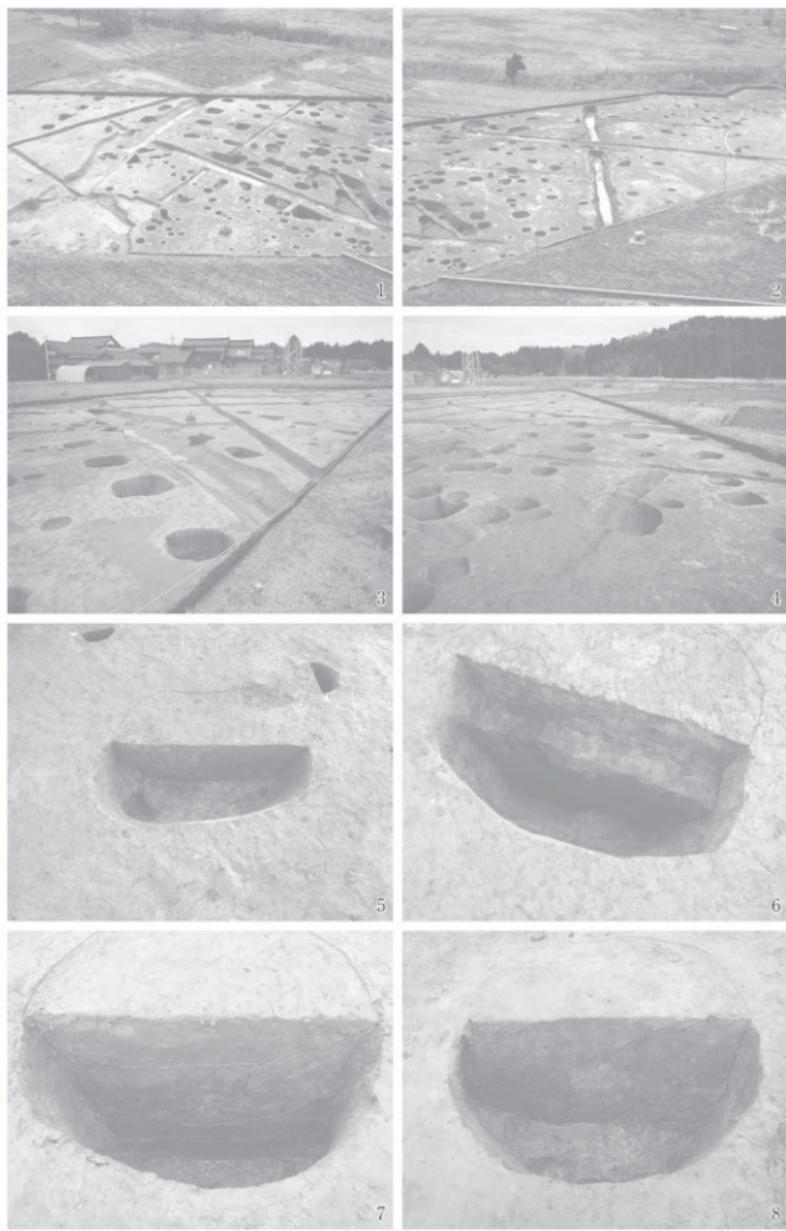


2

全景

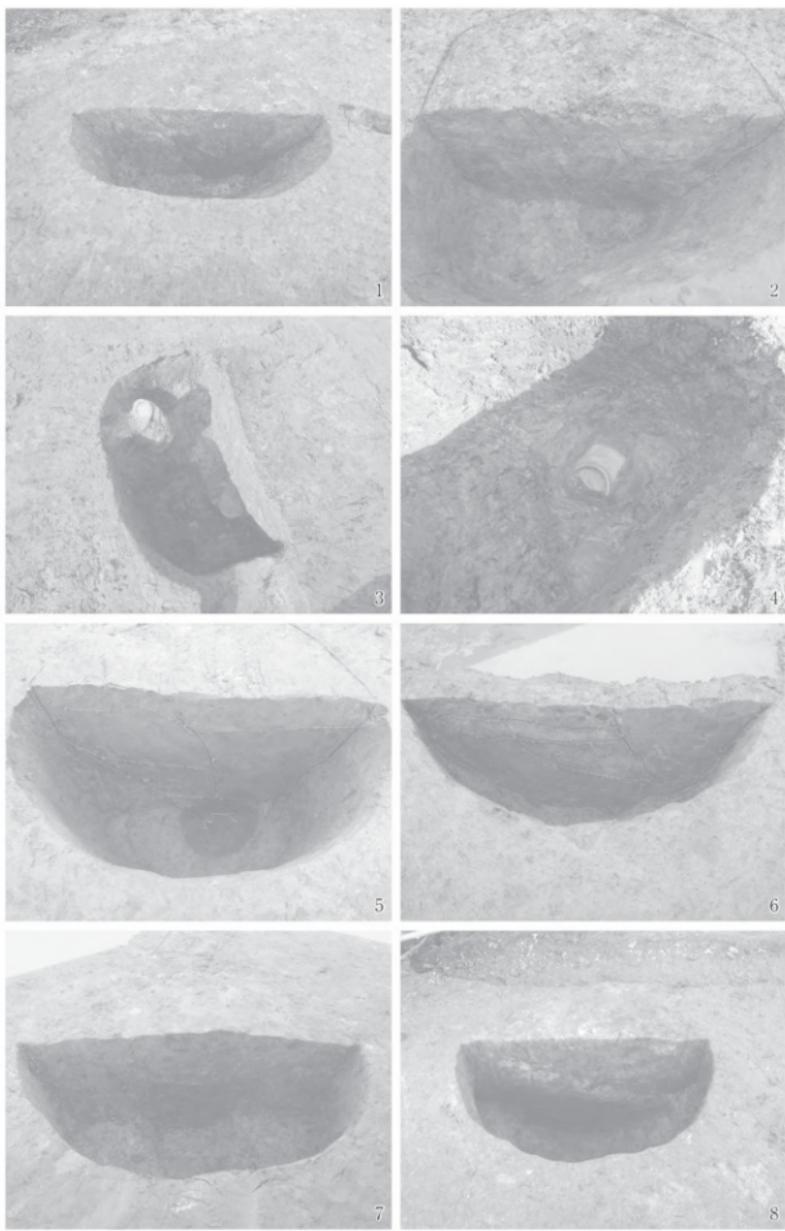
1. 北西から 2. 南東から

図版 4



古代掘立柱建物・柱穴

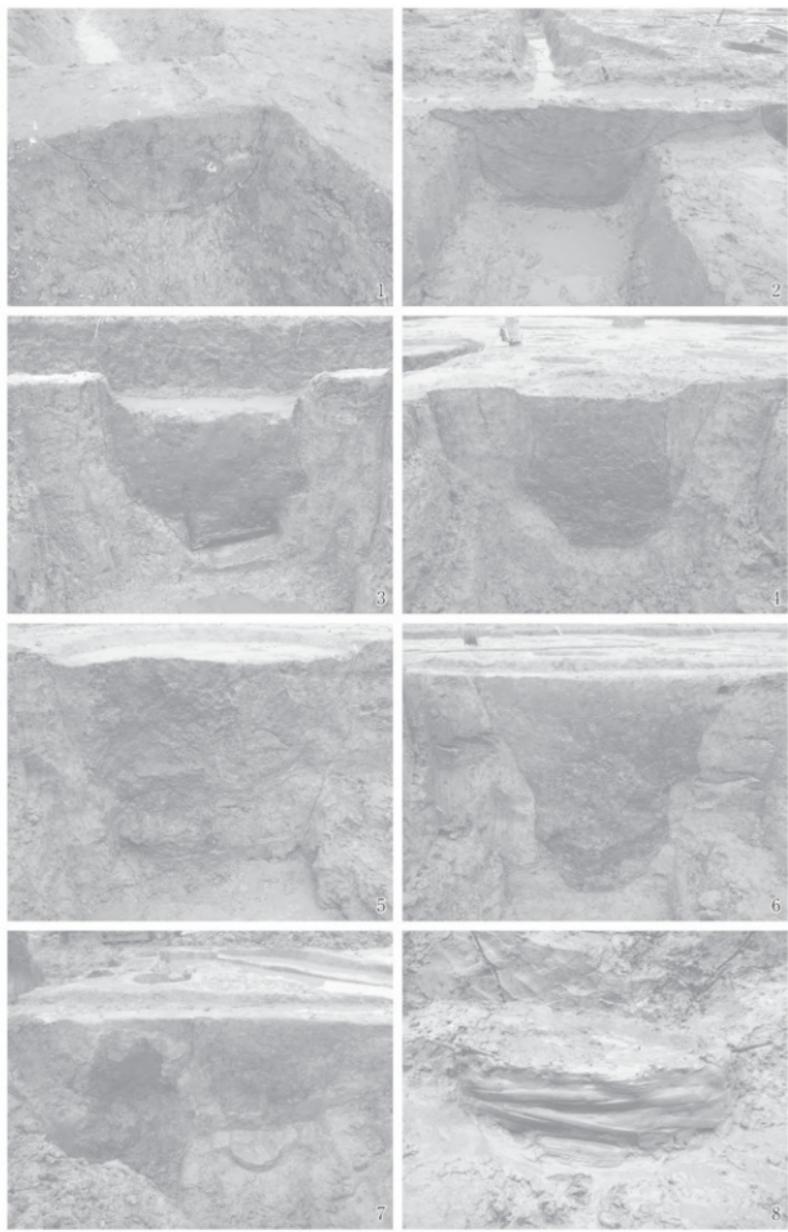
1. SB4・6~9 (北から)
2. SB10~16 (北から)
3. SD30② (南から)
4. SB6~8 (西から)
5. SP190 (北から)
6. SP192 (北から)
7. SP360 (東から)
8. SP390 (南から)



古代柱穴・土坑

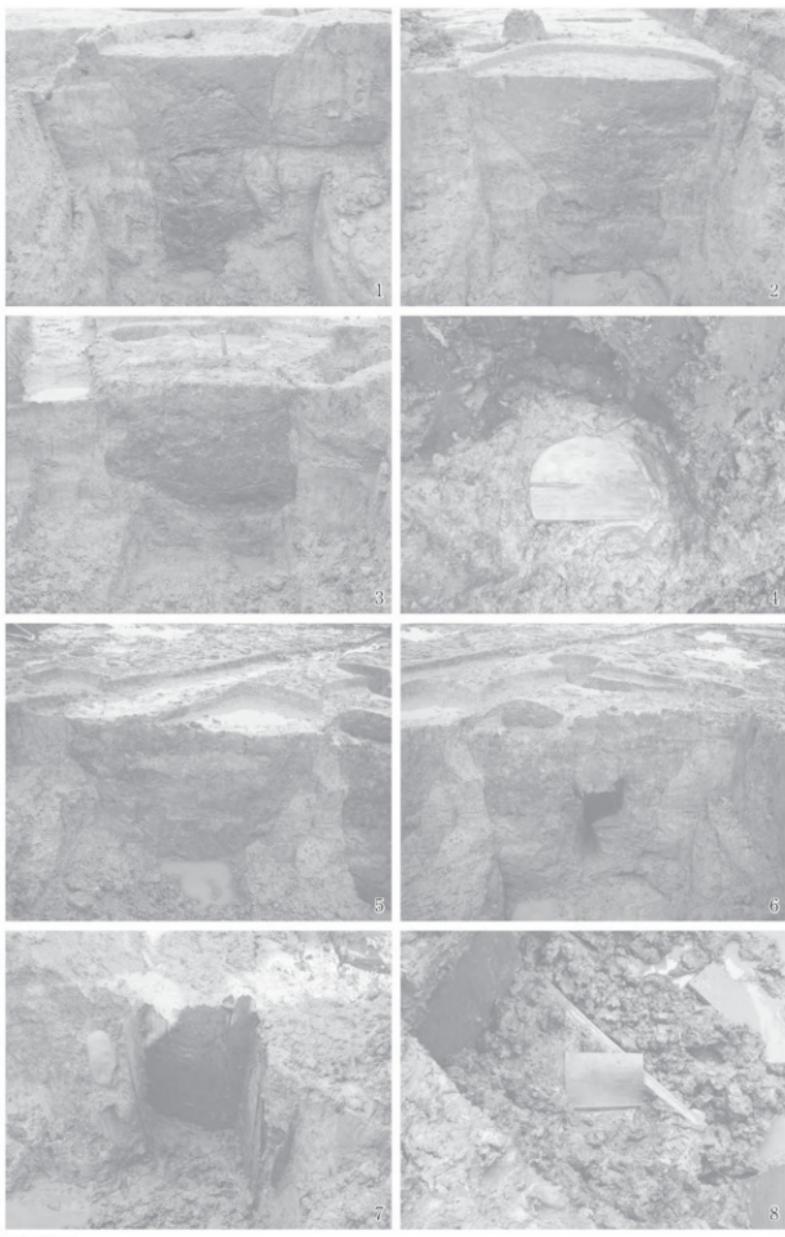
1. SP306 (南から) 2. SP366 (南から) 3. SP226 (東から) 4. SP225 (西から) 5. SP372 (北西から)
6. SP365 (北から) 7. SP260 (南西から) 8. SK305 (南から)

図版 6



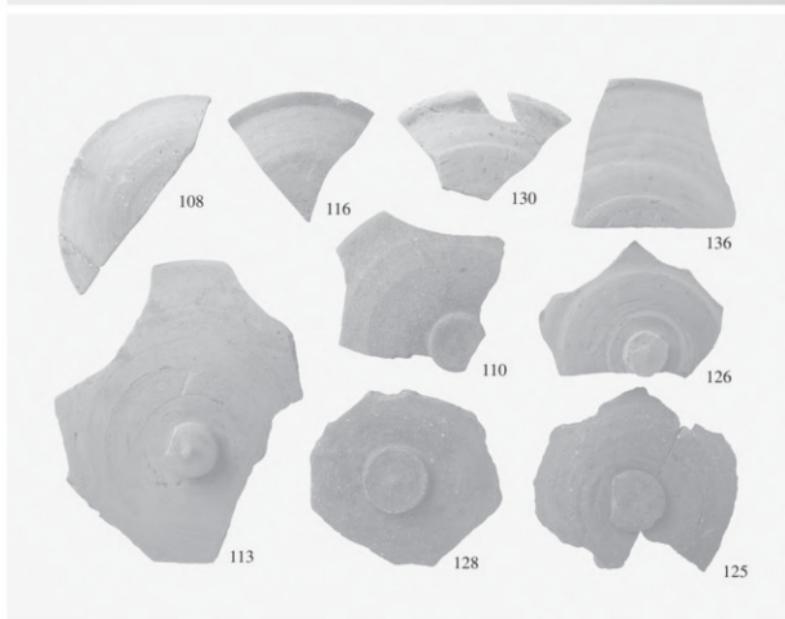
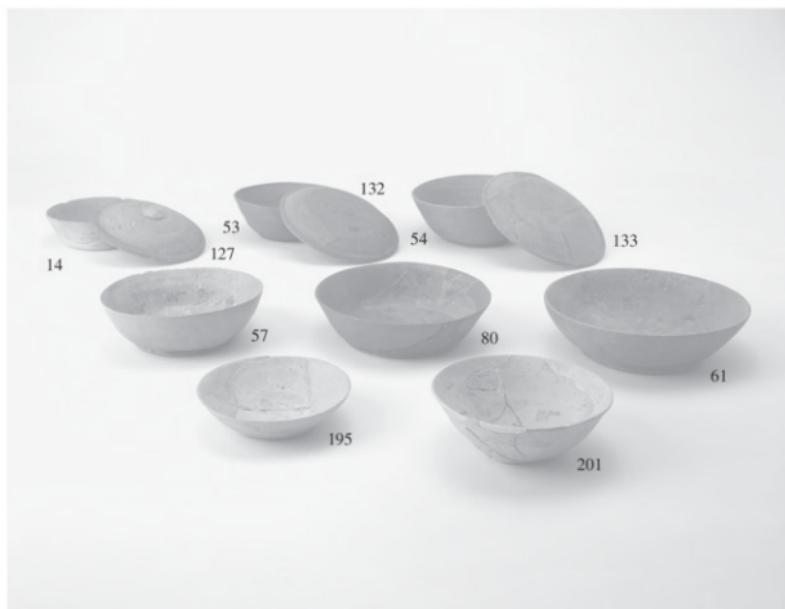
古代溝・中世井戸

1. SD10 (南西から)
2. SD400 (南から)
3. SE44 (南から)
4. SE45 (北西から)
5. SE90 (南西から)
6. SE238 (南から)
7. SE253 (北から)
8. SE253水溜部分 (北から)



中世井戸

1. SE276 (南から) 2. SE397 (南西から) 3. SE324 (南東から) 4. SE324遺物出土状況 (南東から)
5. SE422 (南西から) 6・7. SE423 (南西から) 8. SE423遺物出土状況 (南西から)



須惠器・土師器

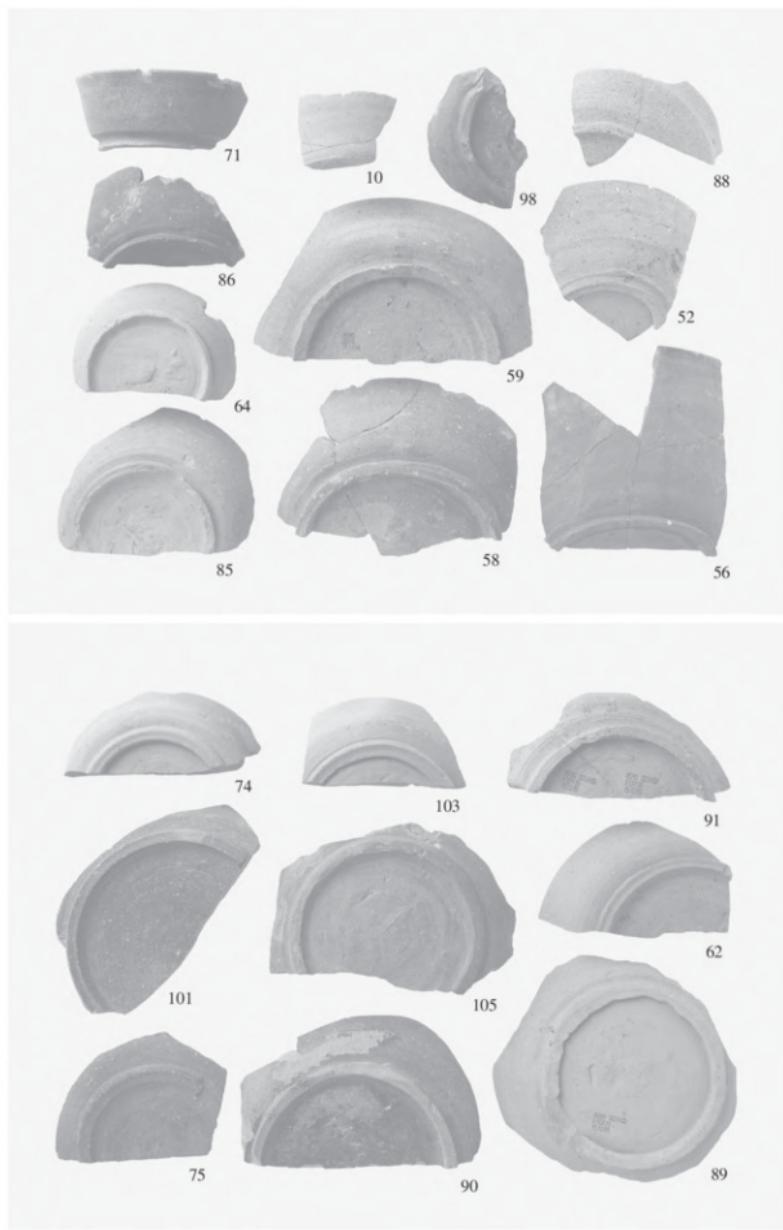
SD30 (53 · 54) SD30② (14 · 57 · 108 · 110 · 125 · 128 · 132 · 133 · 201) SP208 (127) SE238 (136) SP271 (126)
SD400 (80 · 116) 包含層



須恵器・土師器

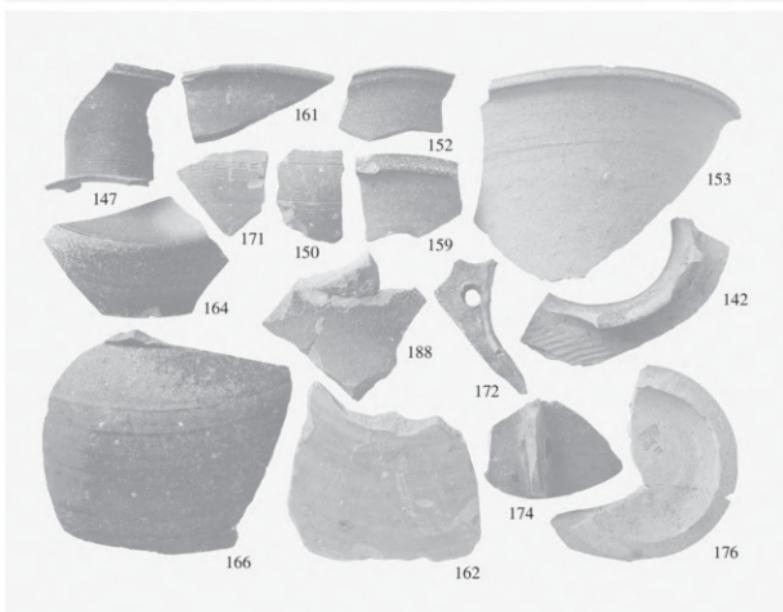
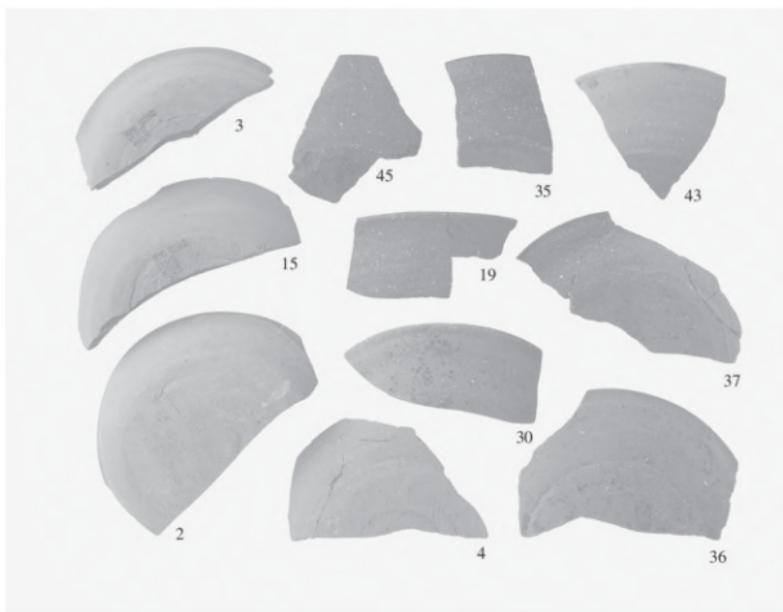
SD30 (53・54) SD30(2) (14・57・132・133・201) SP208 (127) SD400 (80) 包含層

図版10



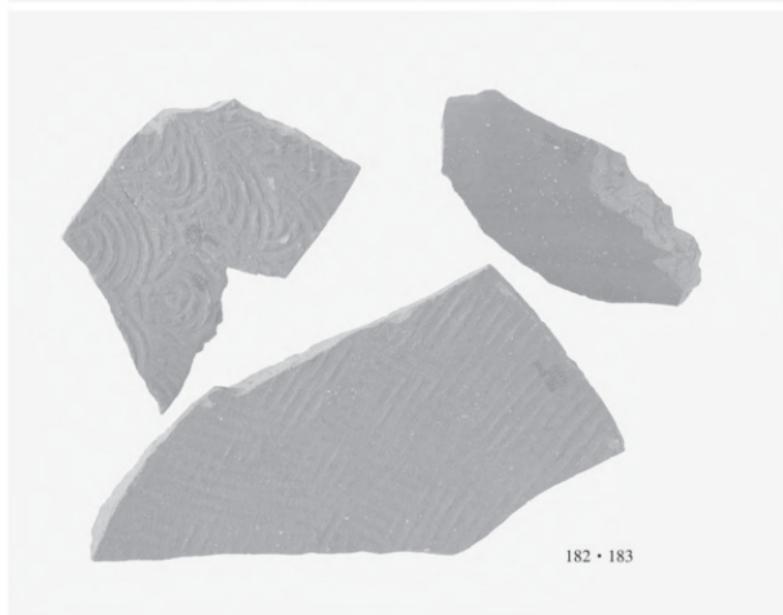
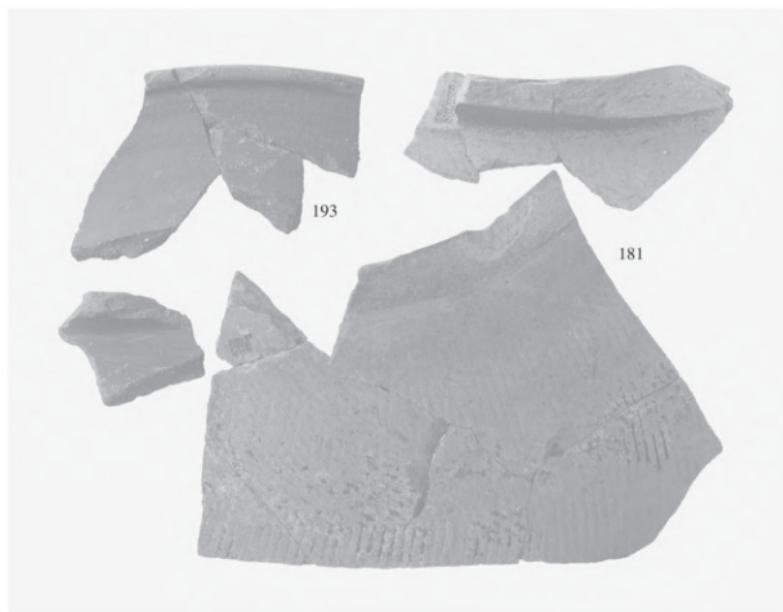
須惠器

SD10 (59・101) SD30② (10・58・64・85・86・88~91) SP226 (52) SE331 (75) SK335 (71) SE397 (98)
SD400 (105) SE423 (74・103) 包含層



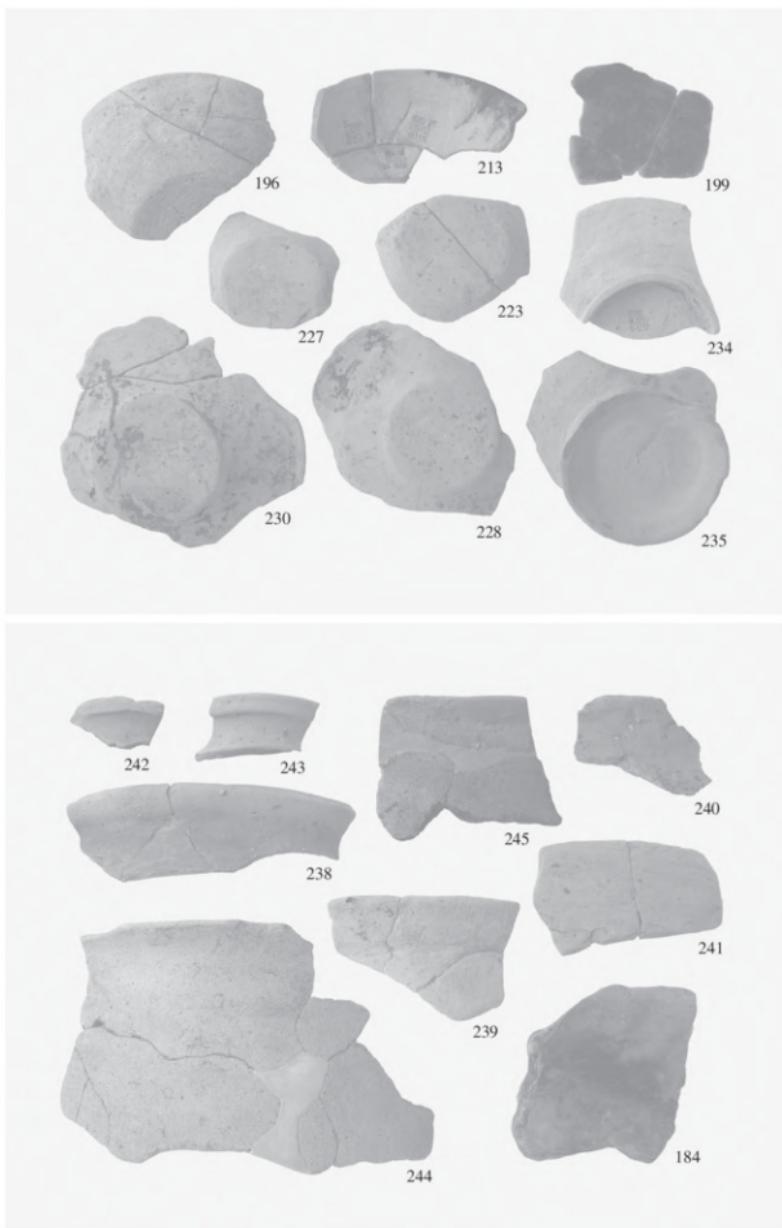
須恵器

SD30(162) SD30②(2~4・15・19・142・176) SP203(35・36) SP216(147) SE238(161) SP269(153)
SP332(172) SK345(166) SD400(152・159・164・174・188) 包含層



須恵器

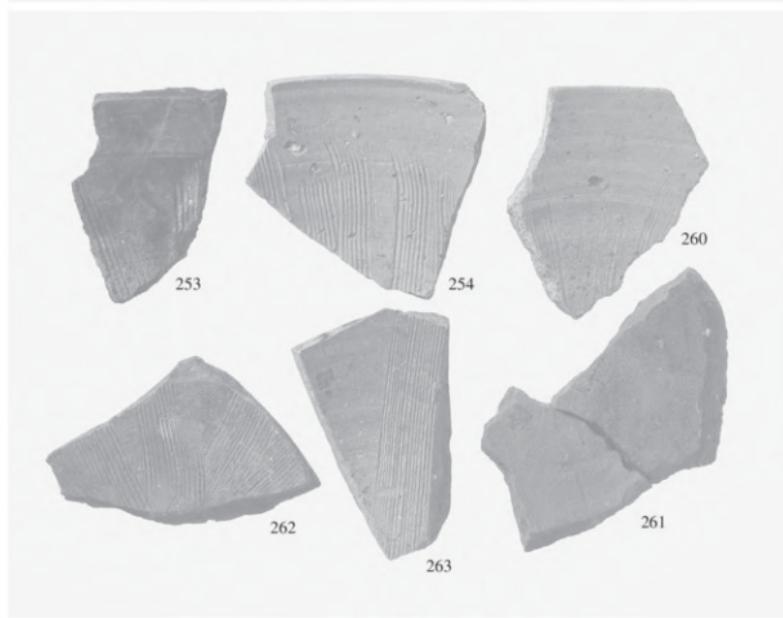
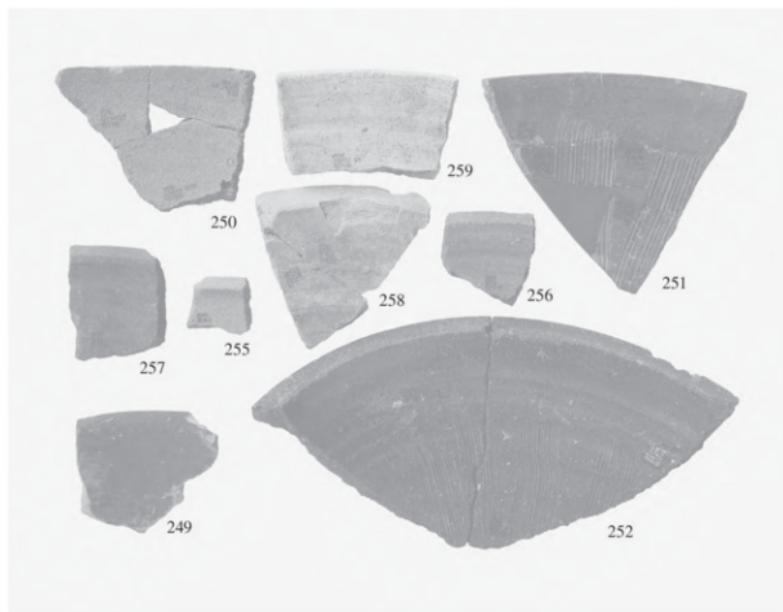
SE397 (181) SD400 (182 · 183 · 193)



土師器

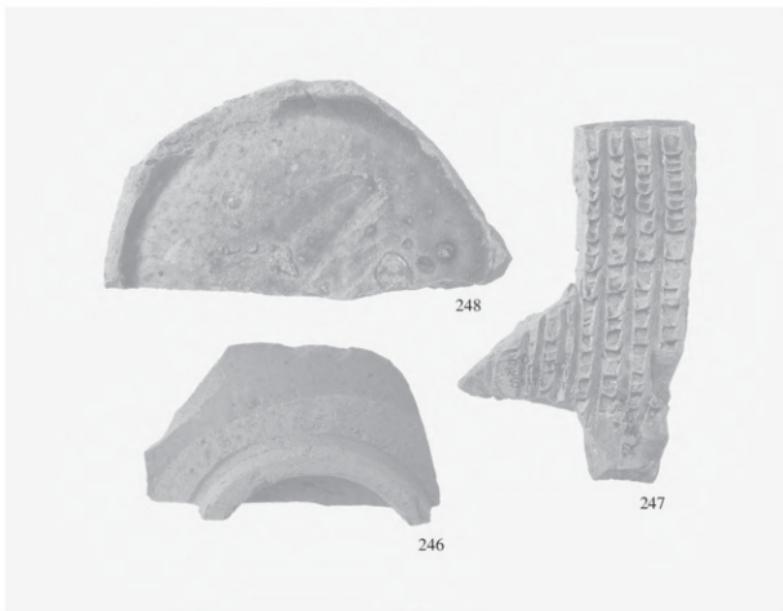
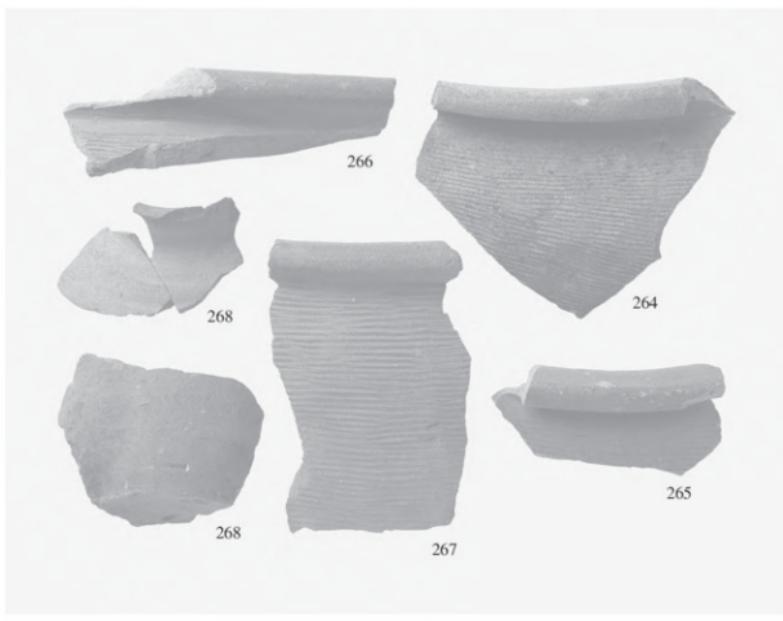
SD10 (244) SD30(2) (239) SP186 (238) SP192 (240) SP208 (223 · 227) SP225 (184 · 234)
SP226 (196 · 228 · 235) SK345 (241) SD400 (199 · 245) SP405 (230) SE423 (242 · 243) 包含層

图版14

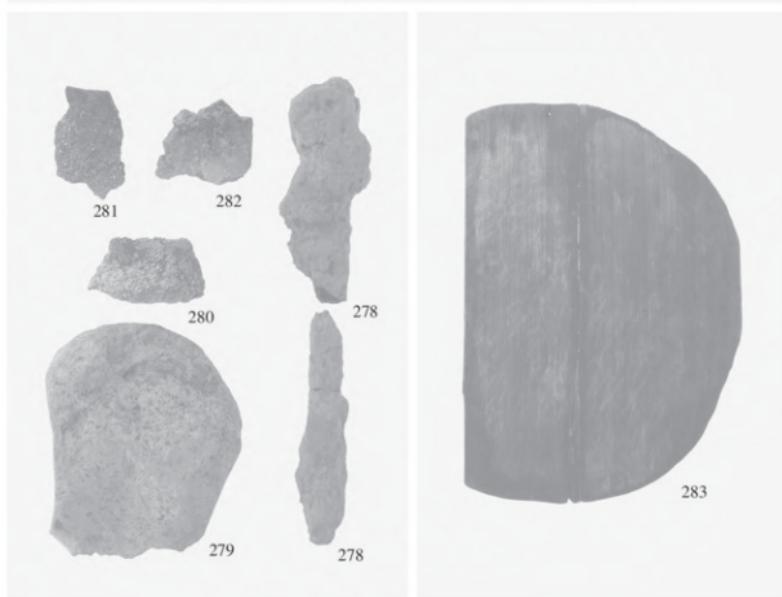
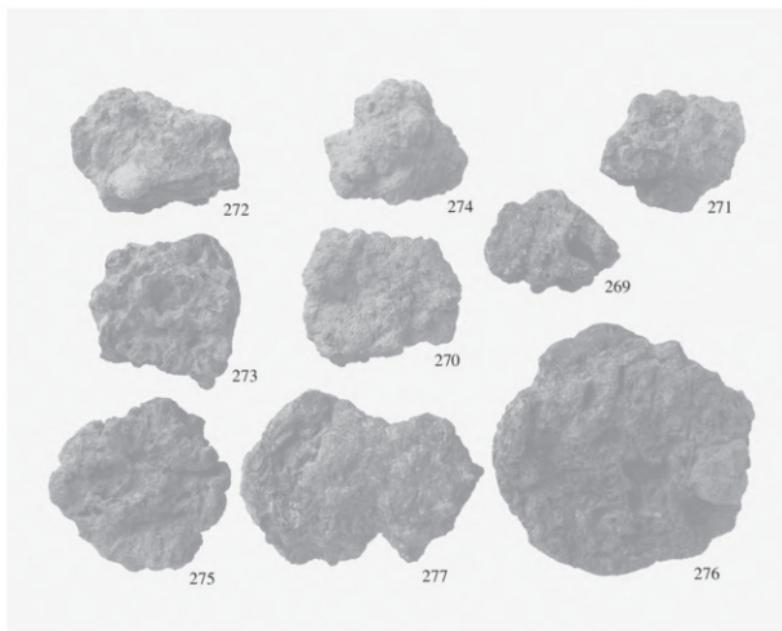


珠洲

SD30 (250) SD30(2) (261) SE90 (256·257) SE253 (262) SE270 (252) SE397 (260) SE422 (255)
SE423 (249·253·254·258) 包含层



珠洲・瀬戸・中国製白磁
SD30 (246) SE276 (266) SE423 (247・267) 包含層



鉄滓・金属製品・砥石・羽口・木製品

SD30 (274・278) SD30② (269・276・280) SE45 (270) SK88 (275) SP109 (272) SE324 (283) SE397 (279)
SD400 (271・277) 包含層



285



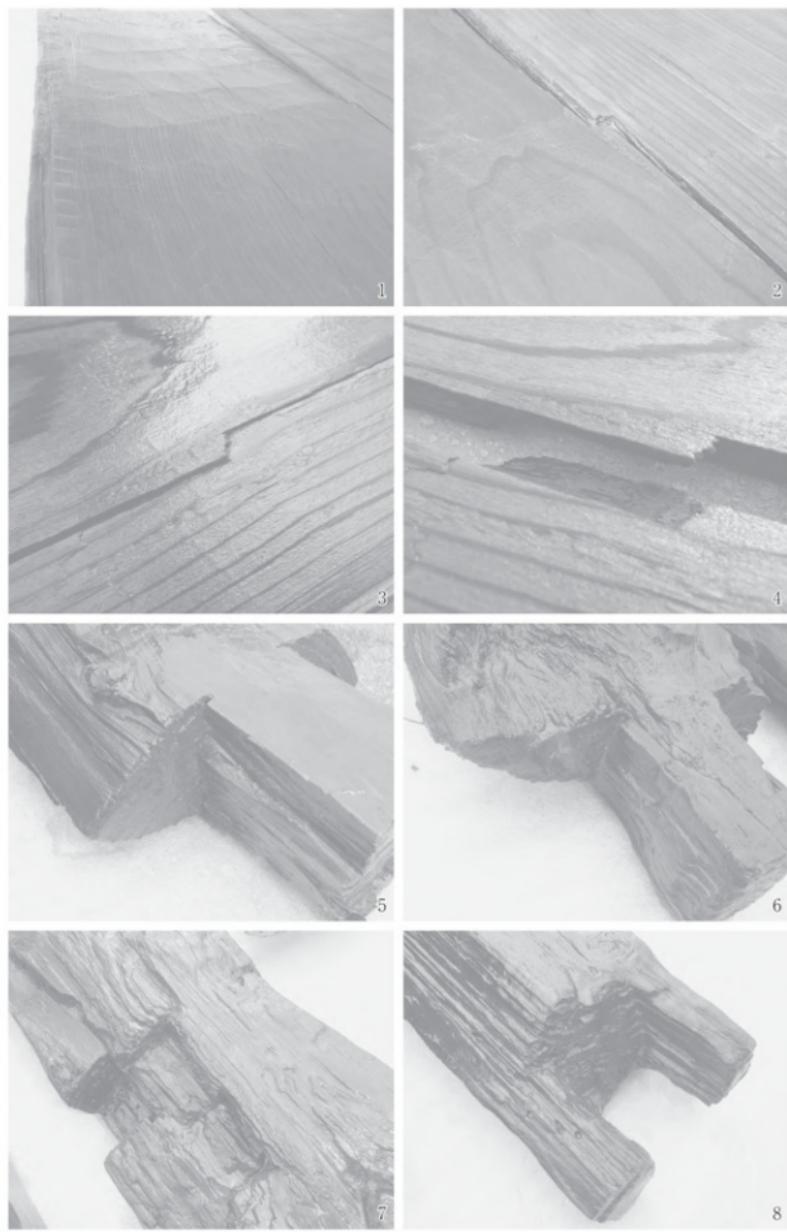
286



284

木製品
SE423 (284~286)

図版18



井戸側部材

1~4. SE423脇板 (296) 5. SE423横棟 (289) 6~8. SE423横棟 (287)

報告書抄録

2017（平成29）年2月28日 印刷
2017（平成29）年3月10日 発行

富山県文化振興財团埋蔵文化財発掘調査報告第72集
中村大橋遺跡 発掘調査報告
～国道415号道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘報告Ⅰ～

編集・発行 公益財團法人富山県文化振興財團
埋 藏 文 化 財 調 査 事 務 所
〒930-0887 富山市五福4384番1号
TEL 076-442-4229

印 刷 第一共同印刷株式会社
〒939-8271 富山市太郎丸西町2丁目6番11号
TEL 076-421-0196